

あか



跡見学園女子大学地域交流センター年次報告書 2

ゆかり

「記憶」の記録化からアーカイブへ	笠原清志
新型コロナウイルス感染症流行下での地域交流活動の展開可能性 —2020年度の活動事例からその手法を探る—	土居洋平
朗読コンテストのこれまで／これから	小仲信孝・小坂橋靖夫・貴堂直
コロナ禍における地域交流活動	石渡尚子
本郷菊坂「かふえ伊勢屋」の企画と運営	安島博幸
高齢者と学生との交流会「ふれあいカフェ」 —7年間の活動をふりかえって—	宮岡佳子
跡見学園女子大学における地域交流活動の現状について —特に新型コロナウイルス感染症流行による影響に注目して—	新垣夢乃
菊坂跡見塾所蔵資料調査報告	新垣夢乃・大櫛優理・菊地春姫・ 末吉はづき・服部胡桃・松尾映里奈・ 松延咲季・森本千桜・渡邊菜月
メディアで紹介された旧伊勢屋質店（菊坂跡見塾） 令和1～2年度	貴堂直
「ひと涼みアワード2020」 オンライン啓発部門 最優秀賞 受賞コメント	石渡尚子
変わらないものもある、ということ	土屋三咲
地域交流センター主催 FD 講習会 「効果的な地域交流活動実施のポイントの理解へ向けて」	横田恭三・許伸江・老川慶喜・ 宮岡佳子
令和2年度の地域交流関連活動記録	貴堂直

目次

「記憶」の記録化からアーカイブへ	笠原清志	3
新型コロナウイルス感染症流行下での地域交流活動の展開可能性 —2020年度の活動事例からその手法を探る—	土居洋平	4
朗読コンテストのこれまで／これから	小仲信孝・小坂橋靖夫・貴堂直	13
コロナ禍における地域交流活動	石渡尚子	25
本郷菊坂「かふえ伊勢屋」の企画と運営	安島博幸	33
高齢者と学生との交流会「ふれあいカフェ」 —7年間の活動をふりかえって—	宮岡佳子	40
跡見学園女子大学における地域交流活動の現状について —特に新型コロナウイルス感染症流行による影響に注目して—	新垣夢乃	45
菊坂跡見塾所蔵資料調査報告 新垣夢乃・大榎優理・菊地春姫・末吉はづき・服部胡桃・松尾映里奈・松延咲季・森本千桜・渡邊菜月		59
メディアで紹介された旧伊勢屋質店（菊坂跡見塾）令和1～2年度	貴堂直	71
「ひと涼みアワード2020」オンライン啓発部門 最優秀賞 受賞コメント	石渡尚子	72
変わらないものもある、ということ	土屋三咲	73
地域交流センター主催 FD 講習会 「効果的な地域交流活動実施のポイントの理解へ向けて」..... 横田恭三・許伸江・老川慶喜・宮岡佳子		74
令和2年度の地域交流関連活動記録	貴堂直	84
跡見学園女子大学地域交流センター年次報告書『ゆかり』に関する規程		98

【表紙】

- ・秋の氷川下つゆくさ荘マルシェ時の集合写真（右上 撮影の瞬間のみ細心の注意を払ってマスクを外しました）
- ・第2回氷川下町会ハロウィンウォークに参加した学生の様子（右下）
- ・氷川下子ども食堂に参加した学生の様子（左）

「記憶」の記録化からアーカイブへ

学長 笠原清志

—昨年12月、地域交流センター主催で本学にて『東日本大震災と「記憶」の記録化』のシンポジウムが開催されました。その記録は、『地域交流センター年次報告書1 ゆかり』で特集され、『東日本大震災と「記憶」の記録化-試みとしての地域史・写真展・記憶地図・街の復元』として、跡見学園女子大学地域交流センターブックレットに残すことができました。

昨年は、コロナに始まりコロナに振り回された一年であったと思います。大学の授業については、昨年の春からオンライン授業に切り替え、多少の対面授業については10月1日以降、カリキュラムを整えてきましたが、罹患者が出たりして大変でした。今年以降に対する不透明な印象のみを残した1年であったように思います。

今年、地域交流センターでは、コロナ禍の影響で多くの活動の停止を余儀なくなされました。しかし、工夫しながら一定の活動を継続し、1) 本学の地域交流活動の記録、2) 伊勢屋質店の資料調査、その他の記録をアーカイブとして残すことができました。

アーカイブの機能は、重要な記録を保存し未来に伝達することです。もう一つの重要な役割は、「記憶」を記録化し、その後、その「記録」を現在という視点から解凍することを可能にしてくれるということです。つまり、記録を元に過去の出来事を現在の日常と近づけて対話することによって、新しいコミュニケーションと知が創造されます。このようなコミュニケーションと知こそが、新しい価値を創造することになります。これは属人的な暗黙知や経験知の内容や可能性を否定するのではなく、形式知の持つ客観的な知の継続性を保証するものでもあります。

地域交流センターの活動も今年で4年目になりました。学生も参加する教育活動、地域との交流活動、そして研究活動を踏まえ、今後はアーカイブ機能の一層の充実を期待しています。

新型コロナウイルス感染症流行下での地域交流活動の展開可能性

—2020年度の活動事例からその手法を探る—

地域交流センター長 土居洋平

1. 新型コロナウイルス感染症流行の地域交流活動への影響

大学が実施する地域交流活動とは、その名が示すとおり大学と地域（地域住民や各種団体）が交流する活動である。具体的には、両者が会い、議論し、お互いの考えや特性を知りながら、一つの活動を協働で実現していく活動となる。こうした特性から、新型コロナウイルス感染症流行の影響—実際に会い、議論することが憚られる状況—をまともに受けることとなった。実際、本冊子末尾に掲載されている、本学の今年度の地域交流活動の記録を確認すると、昨年度に比べて大幅に活動が縮小していることがわかる。別章の学内調査の分析の章にも記載されているとおり、昨年度実施されていた地域交流活動の多くが、中止・延期となっているのだ。

著者自身に関わる活動においても、今年度は遠方に赴く活動は全て中止となった。また、キャンパス近隣で行ってきた活動も、多くの人が集まることを前提とした地域イベントは、ごく一部の例外を除いて中止となった。

本学の地域交流活動は、近年急速に組織化が進み、今年度は大きな飛躍ができる状況になってきたところであったが、このコロナ渦で大きく躓くことになってしまった。実際、こうした地域交流活動の延期・中止は、著者自身に関わる範囲でも既に負の影響をもたらしている。

まず、今年度の地域交流活動が行われないことにより、これまでに地道に培われてきた地域との関係性が希薄になっている。もちろん、後述するようにこの状況においても、今後に向けた検討や相談等は行われており、必ずしも関係が断たれたわけではないが、とりわけ学生と地域との関係の継続が困難になっている。というのも、継続的な地域交流活動の場合、複数の学年の学生が関わり、既に地域社会との関係を形成した先輩学生が、これから関係を形成しようとする後輩学生に対して、交流の仕方はもちろん関係そのものを継承していくことが多かった。しかし、今年度の活動ができないことにより、そうした継承の流れも断たれてしまい、地域との関係性はどうしても希薄にならざるを得なくなったからである。

それに加え、より深刻であると感じているのは、それぞれの学年で経験できるはずであった地域交流活動が、経験できずに終わりつつあることである。地域交流活動は、おそらくコロナ渦が収束すれば復活していくであろうし、大学と地域との関係も次第にまた復活していくであろう。しかし、今年度の学年は学生にとっては今年一回しか経験できないものである。つまり、今年の地域交流活動ができなかったことは、学生個人にとっては修復不能な損害となっているのだ。

以上を踏まえると、このような状況においても関わる人々の安全をしっかりと確保したうえで、可能な限りの地域交流活動を推進していくことが重要だと考える。実際に集まるのが難しい状況下においては、活動はかなり限られるし、オンライン中心だと新たな活動の展開や関係性の構築は難しいという指摘もある。しかし、それでも可能な限り地域交流活動を推進し、これまでの地域との関係の蓄積が希薄化することを防ぎ、コロナ渦収束後に速やかに活動を展開できるようにすること、また、今年度の

学年においてのみ経験できる場を少しでも学生に提供していくこと、この二つを行う必要がある。

コロナ渦で多くの活動が中止・延期となるなかで、著者の関わる範囲では二つの活動を学生も参加させながら実施することができた。そこで、本稿においては、この二つの活動を紹介し、その手法や効果、課題を共有したい。それにより、今後、コロナ渦においても可能な範囲で地域交流活動が展開することの一助となればと考える。

2. 新型コロナウイルス感染症流行下での地域交流活動の事例から

(1) 事例1：氷川下つゆくさ荘プロジェクト

1) プロジェクト実施に至る経緯

氷川下つゆくさ荘は、2020年7月に千石三丁目にできた「地域の居場所」施設¹⁾である。この地域が区の地域活動支援センターから離れていることもあり、また、地域住民が気軽に集い支えあう場所が必要であることから、町内会や地域の有志、文京区社会福祉協議会ほか区関係各機関、エーザイ株式会社を中心となり、数年前から千石三丁目居場所づくりプロジェクトがスタートした（目的・メンバーは図1参照）。プロジェクトでは、施設の活用方法の検討にはじまり、設計や改装、運営方法の検討が行われ、施設は2020年7月にオープンし、名称も「氷川下つゆくさ荘」と決まった。また、施設のオープン後は、上記関係者が中心となった実行委員会が施設の運営にあっている。

千石三丁目は本学文京キャンパスから徒歩15分程度の距離にあることもあり、また、エーザイ株式会社の本プロジェクト担当者が本学のOGであることから、2019年秋に本学に協力の要請があった。本学の地域交流センターが教学組織として拡充され、文京キャンパス付近における地域交流活動を拡

千石3丁目居場所づくりプロジェクト

<目的>

- ・気軽に相談できる相談拠点をつくる。
- ・住民同士の交流や情報の共有
- ・かよいへの、つどいへの活動拠点として介護予防及び地域課題の解決のための活動の活性化
- ・地域での健康づくりの場
- ・空き店舗を活用し、幅広いプログラム等を展開していく。

<実行委員会メンバー>

氷川下町会
大塚仲町町会
大塚四丁目町会
NPO法人カーレットジャパン協会
文京サポート家族会
千石たまご荘
エーザイ株式会社
株式会社カラーコード
The Trading City研究会
サンクジャパン株式会社
大原地域活動センター
大塚地域活動センター
高齢者あんしん相談センター富坂
東京都立大学名誉教授
東京保健生活協同組合
跡見学園女子大学 地域交流センター





図1：千石三丁目居場所づくりプロジェクトの目的とメンバー
(出典：第4回実行委員会説明資料)

大しようとしていたこともあり、本学もこのプロジェクトに関わることとなった。2019年末頃から著者が実行委員会に参加し、それを踏まえ、地域交流センター運営委員会経由で各学部に活動の案内と協力の呼びかけを行った。そして2020年になり、学内でも活動への参加について数人の教員から打診が出てきたところで、コロナ渦の影響に巻き込まれることになる。

とはいえ、文京キャンパス付近の活動ということもあり、コロナ渦のなかでも活動の展開が模索され続けた。現在、協力の申し出た教員がゼミ単位で関わっているほか、地域交流センターのもとで、氷川下つゆくさ荘の運営や各種活動に全体として協力をする教員と学生のグループ「氷川下つゆくさ荘 エーザイ×跡見学園女子大学」が形成されている。ここでは、地域交流センターが直接かかわる後者の活動について紹介したい。

2) 2020年度の活動概要

氷川下つゆくさ荘 エーザイ×跡見学園女子大学は、上記の前年度迄の検討を踏まえ、コロナ禍のなか2020年5月下旬にはじまった活動である。これは、本学が氷川下つゆくさ荘実行委員会と連携して、施設の活用方法を検討し各種活動を実施していこうというもので、地域交流センターが教員と学生に参加を呼びかけ、現在、著者を含め3名の教員と約20名の学生が活動に関わっている。また、その名前にも表れているように、この活動にはエーザイ株式会社も関わっているほか、文京区社会福祉協議会も関わっている。この二者は、氷川下つゆくさ荘実行委員会にも中心的に関わっており、実行委員会と本学の活動の架け橋となっている。

活動は、ズームを使ったオンラインミーティングを月1回のペースで行うことから始まった。当時は、未だ一回目の緊急事態宣言が継続中の時期であり、まずはオンライン上でメンバーの顔合わせを行うとともに、施設ができた経緯や学生に期待されていることを共有し、実際に活動ができるようになった際にどのような活動を展開していくかについて話し合った。具体的には、一部実行委員が施設からズームに参加しオンラインで施設案内を行ったり、町会長から地域の歴史や町会の活動について講話頂いたり、社会福祉協議会からこうした居場所づくりプロジェクトの経緯や狙いを講話頂いたりした。その後、自分たちで何ができるのかについてズームのブレイクアウトルームを使ったグループワークを行い、議論を重ねた。そのなかで、メンバー内の関係を築きながらどのような活動を希望するかも確認し、数回の会合を経て、施設整備 (DIYで内装を整えたり、意見箱を設置することなどを検討) を担当するグループ、主に高齢者向けの活動を企画運営するグループ、主に子どものいる家族向けの活動を企画運営するグループの3つの班を作るに至った。

秋学期になり、大学において対面授業の一部再開が検討されるようになる頃、このプロジェクトにおいても少しずつ、実際に現地において活動をすることが模索されるようになる。まずは、3つの班ごとに、少人数で氷川下つゆくさ荘を訪れ内装の整備のプランを検討したり、エーザイ株式会社の本社を訪れ活動に活用ができるユニークな資源を見学したり、同社がこの状況でも感染対策をしながら実施している高齢者向けの活動を見学したりした。また、氷川下つゆくさ荘で実行委員会が中心となって行ったハロウィンイベントに参加し受付や誘導業務に協力しながら地域住民との関係を築いていったり、同じく実行委員会で企画されたつゆくさマルシェに出店し、子ども向けのゲームや駄菓子の販売、大学ノベルティグッズの配布を行いながら地域住民との交流をしていったりした。

月1回の全体での定例ミーティングは人数が多いこともあり、引き続きオンラインでの実施となった

が、次第に対面で活動する機会も増え、メンバー同士の関係性も深まった。しかし、地域との交流が次第に出来つつあるところでコロナ禍の第3波が到来し、年末から年始にかけて対面で実施を予定していた活動の多くが中止や延期となった。学生の多くは落胆もしたが、再度の収束期の到来に向けて、オンラインでの活動を継続している。具体的には、実行委員をはじめとした氷川下つゆくさ荘の運営に関わる人々に、どのような想いでこうした地域の活動に関わるようになったのかを聞くオンラインインタビュー等を実施している。

3) 事例からの考察

この活動は2020年度にはじまった活動であり、メンバーは、一部の教員を除けば活動地域との関係を持っているわけではなかった。また、参加学生は中心となった3年生の一部は同一学科・同一ゼミでお互いに良く知った関係であったが、それ以外はお互いを知っているような関係ではなかった。

オンラインでの活動の場合、それまでに関係性がある程度形成されている中での活動は問題なくできる一方で、新たに関係性を創り上げる活動はしにくいとされることもあるが、この事例からは、地域との関係、学生同士の関係を新たに築き上げることも不可能ではないことがわかる。

もっとも、この活動の場合も全く一からオンラインで関係が形成されたというわけではない。著者とエーザイ株式会社の担当者、文京区社会福祉協議会の担当者は2019年度から活動を創り上げるために関係を形成していたし、参加学生のうち中心となった3年生5名は、著者のゼミにて他の活動等も一緒に行ってきたメンバーであり、学生同士の関係も形成されていた。

活動を始める際は、まずは上記のメンバーで事前の相談を行い、参加メンバー同士の関係を意識的に築き上げていけるよう、オンラインミーティングの内容の検討が行われた。例えば、限られた時間のなかでも全員がミーティング中に発言できる機会をつくるように進行を考えたり、具体的な活動の検討を3つの班単位で行い、定例ミーティングの場以外で、少人数で話し合いをする機会を多く作った。また、ミーティング後もオンライン会議室を一定時間は開いておき、残ったメンバーで雑談ができるようにした。その結果、対面で集まって活動をする以前にも、主に班単位ではあるが、ある程度の間人関係が形成されていったようであった。班によっては、オンライン懇親会を開催し、学生が外部からの参加者に人生相談をしたり、そのなかで更に活動のアイデアがでてきたりすることもあった。このことを踏まえると、オンラインでの活動で全員がもともとある程度の関係をもっているわけでもなく、工夫を重ねることで、新しい関係を形成していくことは可能であるといえるだろう。

一方で、秋学期に入り少人数でも実際に会って活動ができるようになると、明らかに参加者同士、参加者と地域との関係は強化されていった。著者自身も活動を引率するなかで、現地へ向かう道中での何気ない会話、イベント準備をする中で一定以上の時間雑談をしながら互いへの理解を深めること、活動中の少人数での自由な交流など、実際に集まることで生まれる交流があることを再確認させられた。

その後、再度活動がオンラインに限定されることとなったが、一旦形成された関係は簡単に薄れるものではなく、活動開始当初に比べると外部からの参加者も含め、気兼ねなく意見が言えるような雰囲気になっている。

以上を踏まえると、今後もコロナ禍が収束と拡大を繰り返していくと想定した場合、感染拡大期にはオンラインで講話や企画検討を行い、収束期には実際に地域に出てメンバー同士や地域との交流を進めることで、今後も新たな地域交流活動を展開していくことが可能ではないかと考える。

(2) 事例2：B-ぐるバス車内映像制作プロジェクト

1) プロジェクトの概要

このプロジェクトは、「B-ぐる友の会」(以下、「友の会」と記す)からの依頼をもとに、本学学生が中心となって文京区のコミュニティバス「B-ぐる」の車内で放映されている映像を制作しているものである。2013年度に、マネジメント学部の芝原ゼミ(当時)が小石川マルシェに出店した際に、友の会のメンバーから声をかけられてはじまったもので、当初は芝原ゼミの活動として行われていた。担当教員は2014年度で退職し、2015年度は元ゼミ生で活動をしていたものの、活動の管理体制が曖昧になっていた。そこで、学内で活動をどのように扱うか検討がされた際、同一年度に開設されたコミュニティデザイン学科の教員に声がかかり、著者が手を挙げて活動を継続させることになった。2016年度は、芝原ゼミの元ゼミ生に加えてコミュニティデザイン学科の学生に広く参加が呼びかけ、活動が継続することになった。2017年度以降は、学生の口コミで主に様々な学科の寮生も関わるようになり、2019年度は全学的に学生を募集し活動を展開していた²⁾。

また、例年、参加した学生は3-4つのチームに分かれ、時期をずらした形で1チーム約3か月の期間をかけ、主に文京区の名所や名店、イベント、各種活動団体などが紹介した映像作品を制作してきた。具体的な内容の企画を含め制作作業は全て学生が中心となって行っている。具体的には、例年、学生たちは最初に年度の通年テーマが考え、それをもとに各チームがテーマに応じた作品の企画を考え、取材交渉や撮影、その後の編集作業などを行っている。また、企画検討から取材交渉、撮影、編集のすべてのプロセスにおいて、友の会の担当者や、会からの依頼を受けた映像制作の専門家がアドバイスを行っている。なお、これまでの作品は、B-ぐる車内で放映されているほか、youtubeのB-ぐるチャンネル³⁾でも上映されている。

2) 2020年度の活動概要

2020年度の活動の検討は、2019年度末頃からはじまったが、その時にはすでに新型コロナウイルス感染症が流行しつつあり、検討がはじまった時点(2020年3月)の段階で、例年通りの活動が難しいことが予測されていた。数回の検討のなかで、大学構内に入れない状況で対面での会議を実施したり、取材で外部に行くことは現実的ではないということが確認された。また、春学期の期間はこれまでの映像作品をもとにした総集編の制作を行い、秋学期以降に状況を見て新作の制作を行うかどうかを考えると決まった。

こうした経緯から、2019年度のように大規模にメンバーを募集しても、実際に活動ができるかどうか不透明な要素が大きかったため、今年度は全学的にメンバーを募集することは見送ることになった。ただし、活動の継続性を考え、著者のゼミの学生には声をかけ、数名が新たに活動に加わるようになった。結果、例年よりも規模が半分程度、総勢10名強のメンバーで活動が開始された。

春学期の活動は、上記のとおりこれまでの作品をもとにした総集編の制作となった。細かいチームにわかれるのではなく、全体でオンラインミーティングを行い、いくつかの担当班にわかれて、総集編の構成が検討された。単に過去の映像をつなげるだけではなく、解説の映像を少し入れながら作品を制作することになり、リモートでの撮影指導などを受けながら、なるべく集まらない形での撮影・映像制作が模索された。

5月下旬に首都圏でも最初の緊急事態宣言が解除されて以降、屋外での撮影も検討ははじめる。具体的には、総集編とは別に、「B-ぐる1000万人乗車記念企画」である『ありがとうリレー』の写真募集の告知映像の制作が検討された。これは、区民がB-ぐるバス停にて、誰かへの感謝メッセージを書いたスケッチブックと一緒に映り、それを応募してもらって一つの動画につなげて上映するもので、その写真の募集をB-ぐる車内映像等で行うものであった。告知映像では、実際のバス停の前でスケッチブックと一緒に映る姿を撮影する必要があることから、屋外での撮影も行う必要があった。この企画が検討されはじめた6月ごろは、未だ新型コロナウイルスの特徴がわからないことも多く、電車に乗ることも憚られるような状況であったこともあり、撮影は解放空間（公園やバス停）のみで行い、撮影に参加する学生も寮生を中心に極力撮影場所に近い学生のみが少数で参加すること、撮影日時を移動や人の集合しにくい時間・場所を選んで行うなどの最大限の工夫をしたうえで、屋外の撮影を行うこととなった。

以上も含めた総集編および『ありがとうリレー』写真募集告知映像は、9月初旬よりB-ぐる車内で放映がはじまった。また、『ありがとうリレー』はB-ぐる車内だけではなく、文京シビックセンター地下2階の大型モニターでも上映されたほか、youtubeのB-ぐるチャンネルでも公開されている。

こうした手探りでの撮影再開の模索をもとに、秋学期から活動がはじまった新作の制作活動では、感染対策をしたうえでの取材や撮影を実施することを念頭においた企画が検討された。9月よりオンラインミーティングで検討のための企画会議が始まり、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、オンラインヨガやオンライン囲碁といったオンラインでの学習や、区で行っている宅配支援事業（新・文京ソコジカラ）を紹介する企画が検討された。11月の対面授業の一部再開を受けて、菊坂跡見塾（旧伊勢屋質店）や店舗等での撮影も感染対策を十分にしたうえで行われるようになり（図2）、例年のような作品制作が少しずつ再開はじまった。ただ、例年の場合、撮影後に学内教室にて長時間の編集会議を行い、映像作品を仕上げていくことが多かったが、今年度はオンラインミーティングで行うこととなった。ただし、最後の仕上げのみ、広い空間のある編集プロダクションにて学生が時間をずらして集まり、映像制作の専門家の指導を受けながら作業と確認を行った。こうした撮影・編集を経て、今年度の最初の新規作品は、12月8日よりB-ぐるバス車内で放映されているほか、youtubeのB-ぐるチャンネルでも公開されている（図3）。

12月からは、二作品目の制作にむけて、オンラインで企画会議がはじまった。当初は、一作品目と同様、屋内の取材も含めて検討がされていたが、年末にかけての新型コロナウイルス感染症の流行拡大を受け、取材は少なくとも開放的な空間で行う形で、店舗等の取材を伴わない企画を検討することとなった。この報告書執筆時点（1月末）では、文京区に多数ある坂のうち特徴的なものを紹介する「坂企画」や、来年度中に運航が始まる予定のB-ぐる本郷・湯島ルートの沿線紹介、区内のスポーツチームの紹介の動画制作が検討されており、年度末までに撮影・編集が行われる見込みである（もちろん、撮影は屋外



図2：感染対策をしたB-ぐる撮影の様子（於 菊坂跡見塾）



図3：youtube B-ぐるチャンネル

か開放的なスペースで行うことを原則として、撮影も少人数で実施する方向で検討がされている)。

3) 事例からの考察

B-ぐる映像制作の活動は、今年度で8年目の継続的な活動であり、活動の流れもある程度は定型化が進み、また、参加学生も昨年度から継続して参加する学生のほうが多かった。また、活動そのものが、実際に人が一か所に多く集まらないといけないというものではなかった。こうした、すでに関係性がある中での活動で、人が多く集まる必要が少なく、かつ、キャンパス付近など移動距離が少ない活動は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けながらも、大きな支障はなく活動ができることがあることがわかった。もちろん、取材先の選択肢や取材方法、編集ノウハウの伝達方法などは例年にはない様々な制約を受けていた。それでも、今年度の活動を踏まえれば、学生たちの創意工夫で概ね乗り越えることができるものであった。

ただし、いくつか懸念されることもある。一つは、相手がある取材の場合、撮影そのものは感染症の対策をしっかりとらううえで、少人数であたり屋外や風通しのいい場所で撮影するなどの十全な工夫をして実施できたが、その一方で、それに至る段階、取材の依頼や説明などの交渉で取材先を訪れる場合は、必ずしもこちらで感染症対策をコントロールできなかったことである。今回も、感染が一段落していた秋頃には、取材の交渉のために外部団体を訪れることがあった。その際、大学で打ち合わせをする場合よりは、狭いスペースで打ち合わせをすることがあった。この場合、学生と社会人という関係、取材を依頼する側と受け入れる側という非対称的な関係もあり、その場で場所の変更などを学生から伝えることが難しく、その点は大学側でしっかりと制御をすることがあることを痛感した。

もう一つは、これは地域交流活動に限ったことではないことかもしれないが、これだけ長い期間に学

生同士で実際に顔を合わせることが無く、徐々に取材交渉や撮影等で顔を合わせると、どうしても長く（そして密に）話してしまう傾向があるということである。このことは、顔を合わせたことはないがオンラインミーティングで何度も話したことがある学生同士が、初めて会う場合も同様である。B-ぐる映像制作でも、主に秋以降、実際に対面で会って活動する機会が少しづつでてきたが、それによって学生同士の交流が一気に進む一方で、感染症対策という点ではリスクが高まる懸念があり、この点をしっかりと指導していくことが重要であることも痛感した。

3. まとめにかえて

以上、新型コロナウイルス感染症の流行下でも活動を行うことができた2つの事例について紹介した。ここからは、こうした状況においても大規模な人の集まりを前提としない活動でキャンパス周辺の活動といった条件がそろえば、ある程度の活動が実施できることがわかる。こうした活動では、オンラインミーティング中心の活動になっているとはいえ、最初の緊急事態宣言当時に危惧されていた頃よりは、例年に近い活動ができていたといえる。

さらに、これまで触れてはこなかったが、オンライン中心の活動であるからこそ可能なこともあった。例えば、こうした活動には、キャンパスから一定以上遠方に在住する学生（通学に2時間以上かかる学生）も関わっているが、例年だと移動時間の関係で参加できないような会議にも、気軽に参加できるようになっている。B-ぐる映像制作では、通常は、自分の所属チーム以外の活動には、遠方在住の学生は参加できないことが多かったが、今年度はオンラインミーティングのおかげで気軽に参加することが可能になった。

また、一般的にはオンラインミーティングで新しい関係を構築することは困難とされることが多いものの、氷川下つゆくさ荘プロジェクトの事例からは、工夫によってある程度の関係性は構築できることがわかった。そして、そうした関係性は、感染の収束期に実際に会う機会があればさらに強化され、約9か月の活動を経て、例年までとは言わないものの、学生同士の関係もそれなりに強固なものになっていった。

本稿を執筆時点の2021年1月末の状況から考えると、今後も、新型コロナウイルス感染症は拡大と収束を繰り返すことが想定される。今後の地域交流活動の推進を考える場合には、感染の拡大と収束のサイクルがあることを念頭に、オンラインと対面の活動を組み合わせて実施できるよう、準備を進めていく必要があると考える。

ただし、以上のことは、人の集まりを前提としない近隣の活動という前提のあるものであった。著者の場合も、そうした前提の活動はある程度はできた一方で、人の集まりを前提とした活動（大規模なマルシェや祭り等の地域イベント）や、キャンパスから遠い地域での活動（著者の場合は山形県内での活動）はほぼ実施できていない。活動再開の目途がつきにくいなかでは、今後に向けたオンラインミーティングもなかなか行いにくい。ましてや、それに学生も巻き込んでという形も企画しにくい状況が続いている。その結果、地域イベントの運営を通じてコミュニティを理解するような経験や、実際に山村での暮らしを見たり体験しながら地方の生活文化の理解するような経験を提供できていない。また、どちらのケースにおいても、これまでに培ってきた地域社会と学生の交流の継承が困難になってきている。

ここでは紹介していないが、地域イベントで著者との関わりで活動ができたのは、不特定多数が来場する物販中心のものではなく、地域づくりに関わったり関心のあつたりする人々が集うオンラインのイベント（文京まちたいわ）ぐらいである。また、遠方との関係で著者が活動できたのは、感染が一旦収束した秋に、山形県出身者が都内で経営する店舗に取材にいったことや、氷川下つゆくさ荘プロジェクトで実施したミニマルシェの際に、山形の物品を販売するため仕入れの打ち合わせを行ったことぐらいであった。

今後、人の集まりを前提とした活動や遠方の地域での活動が再開できるようになるまでは、ある程度の時間がかかることが想定される。こうした状況下では、上述のような、オンラインを活用して何とか続いているものや、都市部でも地方との繋がりを活かして行っている活動などを通じて、可能な限り、コミュニティ理解の場や地域社会との関係を維持していく必要がある。そのことが、新型コロナウイルス感染症流行下においても、通常の時に近い地域交流活動の体験を提供することにつながるからだ。冒頭に述べたとおり、学生一人一人にとっては、一年一年がその学年を経験できる代替不能な年である。今後も、そのことを忘れることなく、この状況下においても可能な範囲で地域交流活動の展開可能性を探っていきたい。

注

- 1) 近年、文京区内では地域住民が集い交流を深めることを目指した「地域の居場所」が設立されつつある。これは、地域の空き店舗や空き家を改装し、様々な世代の住民が集まり支えあいの拠点（地域の居場所）とする活動で、町会や社会福祉協議会が参加する実行委員会が運営する形で運営されたり、あるいは民間有志で運営されている。代表的なものに、2013年に開設された「こまじいのうち」などがある（文京区社会福祉協議会、2014、『地域福祉コーディネーター モデル地区活動報告ー地域福祉コーディネーターの配置とその効果ー』文京区社会福祉協議会）。
- 2) 2019年度は、文・マネジメント・観光コミュニティ・心理の全て学部から参加者があり、約20名の学生がこの活動に関わっていた。
- 3) YoutubeB-ぐるチャンネルは、B-ぐる友の会が開設しているYoutubeのチャンネルで、URLは以下のとおりである。
<https://www.youtube.com/channel/UCaY7ZHeVai5y91237H-tewA/featured>

朗読コンテストのこれまで／これから

本学が開催している「朗読コンテスト」が、今年度で9回目を迎えた。これを機にその歴史を振り返り、本学が「朗読コンテスト」に関わることの意義について記しておきたい。

明治の文豪・森鷗外の生誕150年に当たる平成24年、鷗外の旧居「観潮楼」の跡地に「文京区立森鷗外記念館」が開館するのに合わせて、鷗外作品を読む「朗読コンテスト」を開催できないか、山崎一穎理事長を介して文京区から打診があったことが、この始まりである。

それまで公開講座などでも「朗読」をテーマにしたことはなく、ましてや「コンテスト」となると、雲を掴むような状態であったが、幸いにも文学部コミュニケーション学科には、NHKのアナウンサー出身教員が3名在籍しており、なかでも広瀬修子教授は「ナレーション」の分野では第一人者である。さまざまなおアドバイスを受けながら、また審査については、小坂橋靖夫教授を通じて「NHK放送研修センター日本語センター」の協力を得られ、何とか開催に漕ぎつけることができた。

このコンテストはもともと、森鷗外記念館開館1周年に当たる平成25年で終了するものと考えていたが、文京区からさらに続けてほしいとの要望があり、「文の京 ゆかりの文化人顕彰事業」の一環として毎年、何らかの周年を迎えた、文京区とゆかりの深い文人をテーマにして今日に至っている。

この9年間を振り返って気づくのは、応募者・本選出場者の変化である。第1回を企画する段階で心配したのは何よりも、どれだけの人たちが応募してくれるのか、ということであった。文京区の事業としても本学のイベントとしても初めての試みであり、まったく実績がない。世間の認知もない中、どこに広報していかも分からない状態で準備を進めなければならなかった。文京区のさまざまな広報媒体で告知してもらったとはいえ、実際に応募者があるのか、本選出場者15名を選出できるのか、案じられた。

が、ふたを開けてみると予想以上の応募（143名）があり、第2回も順調、第3回以降はさらに応募者が増え、近年は「先着200名」としているが、応募受付早々に締め切らざるを得ない状況が続いている。

こうした状況をもたらした理由としては、「朗読コンテスト」に対する認知度の高まりを指摘できるだろう。広報においては、文京区の「区報」「スクエア」誌、区内掲示板、跡見学園の「あとみネット」「ブロッサム」での告知に加え、「NHK杯全国高校放送コンテスト」の会場でのチラシ配布及び同コンテスト冊子への告知掲載、朗読講座のあるカルチャースクールへのチラシ送付なども行ってきている。

その成果が現れたのは、若い世代の応募の増加である。とくに中学生、高校生の参加を促すために「一般の部」とは別に「青少年の部」を設けてからは、学校単位の応募者の伸びが顕著である。中学・高校の教育現場では、われわれの想像以上に「朗読」が有力な教育コンテンツとして根づき、熱心に指導されている先生方が大勢いるという事実を認識させられた。「朗読コンテスト」は、そうした学校現場に本学の存在を認知してもらうことにも役立っているだろう。

「朗読コンテスト」の認知度の高まりは、「一般の部」への応募者の変化からも確認できる。もとより「朗読コンテスト」は文京区民を対象とする文化事業であって、区在住者の応募を期待している。朗読の楽しさを知り、コンテストに挑戦してもらうことに狙いがあったはずである。しかし、認知度の高まりとともに、首都圏はいうまでもなく、北海道から関西圏まで全国各地から応募をいただいている。と同時に、応募者の質的变化も見られ、朗読講座の受講者、読み聞かせなどのボランティア活動をされている方、あるいは朗読の指導をされている方など、朗読に魅了され、より高みをめざしている方の割合が

多くなっている。そのため文京区民にとって本選出場は〈狭き門〉になっているのが現状である。そうした中、今年度第9回において文京区在住の、しかもこれまでの最高齢（90歳）の方が本選出場を果たされたことは、嬉しい限りであった。

本学が思いがけず携わることになった「朗読コンテスト」という文化事業が、ここまで継続してこられたのはなぜだろうか。多方面にわたる文京区の支援をはじめ理由はいくつも考えられるだろうが、忘れてならないのは「朗読コンテスト」に対する信頼の獲得ではなかろうか。ゼロから出発した「朗読コンテスト」が回を重ねる毎に、コンテストとして評価されたからこそ、全国各地から幅広い年齢層の方々に応募いただいていると推測している。その意味で、予選審査をNHK放送研修センター日本語センターにお願いできたことはありがたかった。NHKへの信頼が「朗読コンテスト」への信頼につながったと言って過言ではない。

筆者は毎年、予選審査の最終日に審査の場にお邪魔しているが、プロの目（耳）は厳しく、相当なレベルに達していないと評価されることは難しい。現に、前年の本選出場者あるいは優秀賞の受賞者がこの段階で篩^{ふるい}にかけられるのを何度も見ている。こうした審査の厳正さがコンテスト自体の信頼性を高め、多くの応募をいただいている要因であることはまちがいない。

本学にとって朗読は未知の世界であった。9年を経たいまも、毎年新しい発見がある。学ぶことばかりである。ようやく朗読の世界の入口に立ったばかりかもしれない。とはいえ、「朗読コンテスト」は文京区の、そして跡見学園女子大学の文化事業として定着しつつある。少なくとも、朗読の世界の豊かさ、奥深さを知ってもらう契機にはなり得ているであろうと自負している。

跡見の学びのルーツは文化、教養である。「朗読コンテスト」を通じて、朗読という文化の裾野を広げる活動に携わることは、本学のルーツからして大きな意義がある。令和4年は森鷗外生誕160年に当たり、大きな節目を迎えるが、教職員の理解と協力を得ながら、これからも本学の地域連携事業のひとつとして継続していきたいと考えている。

(小仲信孝)

「文の京」朗読コンテスト 第1～9回の本選結果

(平成24年～令和2年／2012～2020年)

小坂橋靖夫・貴堂直

同位ランク受賞者の配列は本選での発表順

(「選外」の配列は、五十音順)

第1回 平成24年度(2012年度)		本選出場15人 部門別なし		
最優秀	田中 隆子			
優 秀	須佐美 末由美	小林 きく江	上野 敦子	小堀 望
特 別	大竹 淳五	手塚 美楽		
選 外	岡山 亜矢子	勝田 信子	金森 彩華	久保田 さおり
	小泉 房子	田中 敦子	服部 希美	平野 直樹

第2回 平成25年度(2013年度)		本選出場15人		
最優秀のみ部門別あり、優秀・特別は部門別なし				
最優秀(一般)	下條 英子			
最優秀(青少)	山本 弥生			
優 秀	新沼 岳彦	門間 友希	田中 泰子	矢澤 陽子
特 別	柄沢 怜奈	藤井 直子		
選 外	岩崎 孝史	金子 瑞穂	黒沢 ちる子	小泉 房子
	小林 可蘭	鶴岡 奈央美	原田 裕子	

第3回 平成26年度(2014年度)		本選出場15人		
最優秀のみ部門別あり、優秀・特別は部門別なし				
最優秀(一般)	小堀 望			
最優秀(青少)	久保 美智瑠			
優 秀	中村 涼子	森本 芳子	佐々木 照代	牛込 昌代
特 別	林下 秀喜	矢田 あや子		
選 外	池内 のりえ	奥谷 君子	柏崎 陽子	國信 安優香
	小林 範子	畠山 友実香	鷺谷 厚子	

第4回 平成27年度(2015年度)		本選出場16人(一般10人、青少年6人)		
特別賞・廃止				
最優秀(一般)	野坂 昌子			
最優秀(青少)	金子 瑞穂			
優 秀(一般)	小堀 望	齊藤 雅美		
優 秀(青少)	伊東 知穂	神部 佑葵子		
選外(一般)	片山 遊	貴島 尚美	熊谷 百合子	佐野 京子
	田中 高志	平原 知代子	山川 久枝	
選外(青少)	石原 有砂	熊手 萌	田中 翔子	

第5回 平成28年度(2016年度) 本選出場16人(一般10人、青少年6人) がんばったで賞・新設(部門別なし)／重複受賞可				
最優秀(一般)	小堀 望			
最優秀(青少)	木村 心優			
優秀(一般)	齊藤 雅美	下條 英子		
優秀(青少)	田賀 まあ子	大野 紗弥		
がんばった	木村 心優			
選外(一般)	飯野 春美	片山 遊	佐々木 照代	柴田 和子
	末宗 鞠子	新沼 岳彦	村上 長子	
選外(青少)	石塚 由菜	滋野 紗蘭	林 克弥	

第6回 平成29年度(2017年度) 本選出場16人(一般9人、青少年7人)				
最優秀(一般)	柴田 和子			
最優秀(青少)	桑木 栄美里			
優秀(一般)	半田 和世	佐野 京子		
優秀(青少)	上原 藍	小瀬 香緒里		
がんばった	桑木 栄美里			
選外(一般)	伊藤 節子	乾 敏子	片山 遊	高岩 靖典
	野坂 昌子	吉田 由理		
選外(青少)	加藤 伊織	木村 心優	田賀 まあ子	徳本 和俊

第7回 平成30年度(2018年度) 本選出場16人(一般10人、青少年6人、うち1名当日欠場)				
最優秀(一般)	柏崎 清江			
最優秀(青少)	石塚 由菜			
優秀(一般)	松本 恭	貴島 尚美		
優秀(青少)	平野 杏采	本田 愛理		
がんばった	石塚 由菜			
選外(一般)	池田 宏	稲村 永絵	川本 洋子	小林 範子
	下條 英子	高岩 靖典	三野 友華子	
選外(青少)	徳本 和俊	松坂 渚		

第8回 令和元年度(平成31年度／2019年度) 本選出場16人(一般10人、青少年6人) がんばったで賞・廃止				
最優秀(一般)	松本 ミツ子			
最優秀(青少)	阿部 さくら			
優秀(一般)	吉岡 玲子	古川 純一		
優秀(青少)	中山 怜香	島津 歩実		
選外(一般)	齊藤 雅美	下條 英子	土屋 由美子	中島 曜子
	松田 萌子	松本 恭	森田 清香	
選外(青少)	市川 千馬	小澤 光華	渡邊 実乃里	

第9回 令和2年度(2020年度) 本選出場16人(一般10人、青少年6人)				
最優秀(一般)	小玉 紘史			
最優秀(青少)	桑木 栄美里			
優秀(一般)	半田 和世	小倉 通子		
優秀(青少)	石井 三知留	土屋 三咲		
選外(一般)	蠣崎 裕子	柏崎 清江	小池 有子	佐々木 久美子
	佐野 京子	下條 英子	須田 弘子	
選外(青少)	岡崎 奈生	小沼 美優奈	長井 祐香	

文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」実施記録

平成24年度(2012年度)

〈事業名〉 森鷗外生誕150周年記念事業「朗読コンテスト」

〈主催〉 文京区・跡見学園女子大学共催 協力：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

〈日時〉 平成24年10月13日(土) 13時30分

〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール

〈テーマ・課題〉 「森鷗外」(「雁」「最後の一句」「山椒大夫」「青年」「高瀬舟」「舞姫」から1作品)

〈審査〉 予選(録音審査)：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
(受付期間) 平成24年8月20日(月)～9月5日(水) 必着。先着200名。
応募総数：143名

本選審査員：審査員長 広瀬修子氏(元NHKアナウンサー、跡見学園女子大学文学部教授)
委員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターチーフアナウンサー)
特別審査員 森美奈子氏(エッセイスト、鷗外曾孫)

〈本選出場者〉 15名

〈表彰・賞品〉 最優秀賞 1名(記念楯、図書カード1万円分)

優秀賞 4名(記念楯、図書カード5千円分)

特別賞 2名(記念楯、図書カード5千円分)

〈広報〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター朗読講座受講生
朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし配布)
NHK杯全国高校放送コンテスト(ちらし配布)

〈企画〉 ・ミニ・コンサート(跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブル)による演奏
・CATV[知りたい!森鷗外]で放映した番組を会場(開演前まで)とホール前の電子案内板で流す。
・特別展示(鷗外関連)を同時開催

平成25年度(2013年度)

- 〈事業名〉 森鷗外記念館開館1周年記念事業「朗読コンテスト」
- 〈主催〉 文京区 〈共催〉 跡見学園女子大学 〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日時〉 平成25年10月6日(日) 13時
- 〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 「森鷗外」(「雁」「最後の一句」「山椒大夫」「青年」「高瀬舟」「舞姫」から1作品)
- 〈審査〉 予選(録音審査): 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
(受付期間) 平成25年8月21日(水)～8月31日(土)必着。先着200名。
応募総数: 209名(一般155名 青少年54名)
本選審査員: 審査員長 広瀬修子氏(元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー)
審査員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターチーフアナウンサー)
特別審査員 森美奈子氏(エッセイスト、鷗外曾孫)
特別審査員 前田元氏(文京区教育指導課統括指導主事(国語専門))
- 〈本選出場者〉 15名(青少年の部5名、一般の部10名)
- 〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名(青少年の部、一般の部 部門ごとに1名)(記念楯、図書カード1万円分)
優秀賞 4名(記念楯、図書カード5千円分)
特別賞 2名(記念楯、図書カード5千円分)
- 〈広報〉 文京区報、文京区広報誌「スクエア」、区内掲示板、区内図書館(ちらし、ポスター掲出)等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット
跡見学園広報紙「ブロッサム」(ちらし同封)、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし送付)等
- 〈企画〉 ・ミニ・コンサート(跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏)
・特別展示(鷗外関連)を跡見ギャラリーで同時開催

平成26年度(2014年度)

- 〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」
- 〈主催〉 文京区
- 〈主管〉 跡見学園女子大学(文京区からの委託事業)
- 〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日時〉 平成26年10月5日(日) 13時
- 〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」・佐藤春夫「小説 智恵子抄」・
山本有三「路傍の石」・伊藤左千夫「野菊の墓」・小泉八雲「雪おんな」
- 〈審査〉 予選(録音審査): 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託

(受付期間)平成26年8月20日(水)～8月30日(土)必着。先着200名。

応募総数：268名(一般154名 青少年114名)

本選審査員：審査員長 広瀬修子氏(元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー)

審査員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターチーフアナウンサー)

特別審査員 前田元氏(文京区教育指導課統括指導主事(国語専門))

〈本選出場者〉 15名(青少年の部4名、一般の部11名)

〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名(青少年の部、一般の部 部門ごとに1名)(記念楯、図書カード1万円分)

優秀賞 4名(記念楯、図書カード5千円分)

特別賞 2名(記念楯、図書カード5千円分)

〈広報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等

跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット

跡見学園広報紙「ブロッサム」(ちらし同封)、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載

朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし送付)等

〈企画〉 ・ミニ・コンサート(跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏)

・特別展示「文の京ゆかりの文人たち」を跡見ギャラリーで同時開催

平成27年度(2015年度)

〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」

〈主催〉 文京区

〈主管〉 跡見学園女子大学(文京区からの委託事業)

〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

〈日時〉 平成27年10月18日(日)13時

〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール

〈テーマ・課題〉 「一葉と鷗外 未来へつなぐ文化遺産」

樋口一葉「たけくらべ」・「樋口一葉日記」・「十三夜」

森鷗外「舞姫」・「山椒大夫」・「最後の一句」・「雁」

〈審査〉 予選(録音審査)：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託

(受付期間)平成27年8月21日(金)～8月31日(月)必着。先着200名。

応募総数：169名(一般121名 青少年48名)

本選審査員：審査員長 広瀬修子氏(元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー)

審査員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターチーフアナウンサー)

特別審査員 前田元氏(文京区教育指導課統括指導主事(国語専門))

〈本選出場者〉 16名(青少年の部6名、一般の部10名)

〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名(青少年の部、一般の部 部門ごとに1名)(記念楯、図書カード1万円分)

優秀賞 4名(青少年の部、一般の部 部門ごとに2名)(記念楯、図書カード5千円分)

〈広報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等

- 跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット、
跡見学園広報紙「ブロッサム」（ちらし同封）、NHK 杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
- 〈企 画〉 ・ミニ・コンサート（跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏）
*特別展示「森鷗外、樋口一葉関連のパネル展示」を同時開催

平成28年度（2016年度）

- 〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」
- 〈主 催〉 文京区
- 〈主 管〉 跡見学園女子大学（文京区からの委託事業）
- 〈協 力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日 時〉 平成28年10月30日（日）13時
- 〈場 所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 「宮沢賢治 未来へつなぐ文化遺産」
宮沢賢治「注文の多い料理店」・「どんぐりと山猫」・「なめとこ山の熊」・「雪渡り」・
「銀河鉄道の夜」・「よだかの星」
- 〈審 査〉 予選（録音審査）：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
（受付期間）平成28年8月22日（月）～8月31日（水）必着。先着200名。
応募総数：292名（一般153名 青少年139名）
本選審査員：審査員長 広瀬修子氏（元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー）
審査員 伊藤文樹氏（一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターチーフアナウンサー）
審査員 森進一氏（文京区教育指導課統括指導主事）
- 〈本選出場者〉 16名（青少年の部6名、一般の部10名）
- 〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名（青少年の部、一般の部 部門ごとに1名）（記念楯、図書カード1万円分）
優秀賞 4名（青少年の部、一般の部 部門ごとに2名）（記念楯、図書カード5千円分）
がんばったで賞 1名（平成28年度新企画）
- 〈広 報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット
跡見学園広報紙「ブロッサム」（ちらし同封）、NHK 杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール（ちらし送付）等
- 〈企 画〉 ・ミニ・コンサート（跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏）
*特別展示「宮沢賢治関連展示」を同時開催（ブロッサムホール前）
*観覧者特別企画（新企画）「あなたの一票で決まる『がんばったで賞』」（ブロッサムホール西側通路）

平成29年度(2017年度)

- 〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」
- 〈主催〉 文京区
- 〈主管〉 跡見学園女子大学(文京区からの委託事業)
- 〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日時〉 平成29年10月29日(日)13時
- 〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 「夏目漱石 未来へつなぐ文化遺産」
夏目漱石「吾輩は猫である」・「坊ちゃん」・「夢十夜」・「三四郎」・「それから」・「こころ」
- 〈審査〉 予選(録音審査):一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
(受付期間)平成29年8月21日(月)～8月31日(木)必着。先着200名。
応募総数:294名(一般166名 青少年128名)
本選審査員:審査員長 広瀬修子氏(元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー)
審査員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター専門委員)
審査員 森進一氏(文京区教育指導課統括指導主事)
- 〈本選出場者〉 16名(青少年の部7名、一般の部9名)
- 〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名(青少年の部、一般の部 部門ごとに1名)(記念楯、図書カード1万円分)
優秀賞 4名(青少年の部、一般の部 部門ごとに2名)(記念楯、図書カード5千円分)
がんばったで賞 1名
- 〈広報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット
跡見学園広報紙「ブロッサム」(ちらし同封)、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし送付)等
- 〈企画〉 ・ミニ・コンサート(跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏)
*特別展示「夏目漱石関係展示」を同時開催(ブロッサムホール前)
*これまでの朗読コンテストで最優秀賞を2回受賞された小堀望氏が、今年生誕150年にあたる幸田露伴の作品を朗読。

平成30年度(2018年度)

- 〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」
- 〈主催〉 文京区
- 〈主管〉 跡見学園女子大学(文京区からの委託事業)
- 〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日時〉 平成30年10月28日(日)13時

- 〈場 所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 「名作の子どもたち～未来へつなぐ文化遺産」
有島武郎「一房の葡萄」・芥川龍之介「蜜柑」・中勘助「銀の匙」・
宮沢賢治「よだかの星」・森鷗外「最後の一句」・山本有三「路傍の石」
- 〈審 査〉 予選（録音審査）：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
（受付期間）平成30年8月22日（水）～8月31日（金）必着。先着200名。
応募総数：245名（一般142名 青少年103名）
本選審査員：審査員長 広瀬修子氏（元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー）
審査員 伊藤文樹氏（一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター専門委員）
審査員 森進一氏（文京区教育指導課統括指導主事）
- 〈本選出場者〉 16名（青少年の部6名、一般の部10名）
- 〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名（青少年の部、一般の部 部門ごとに1名）（記念楯、図書カード1万円分）
優秀賞 4名（青少年の部、一般の部 部門ごとに2名）（記念楯、図書カード5千円分）
がんばったで賞 1名
- 〈広 報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット、
跡見学園広報紙「ブロッサム」（ちらし同封）、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール（ちらし送付）等
- 〈企 画〉 ・ミニ・コンサート（跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏）
*特別展示「夏目漱石等関係展示」を同時開催（ブロッサムホール前）

令和元年度〈平成31年度〉（2019年度）

- 〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」
- 〈主 催〉 文京区
- 〈主 管〉 跡見学園女子大学（文京区からの委託事業）
- 〈協 力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター
- 〈日 時〉 令和元年10月20日（日）13時
- 〈場 所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール
- 〈テーマ・課題〉 「ふしぎ空間を旅する」
泉鏡花「化鳥」・内田百閒「冥途」・江戸川乱歩「押絵と旅する男」・
萩原朔太郎「猫町」・永井荷風「狐」・室生犀星「不思議な魚」
- 〈審 査〉 予選（録音審査）：一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
（受付期間）令和元年8月21日（水）～8月30日（金）必着。先着200名。
応募総数：216名（一般129名 青少年87名）
本選審査員：審査員長 広瀬修子氏（元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー）
審査員 伊藤文樹氏（一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター専門委員）

審査員 平間詩乃氏 (文京区教育指導課指導主事)

〈本選出場者〉 16名 (青少年の部6名、一般の部10名)

〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名 (青少年の部、一般の部 部門ごとに1名) (記念楯、図書カード1万円分)
優秀賞 4名 (青少年の部、一般の部 部門ごとに2名) (記念楯、図書カード5千円分)

〈広報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット、
跡見学園広報紙「ブロッサム」(ちらし同封)、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし送付)等

〈企画〉 ・コンサート(跡見学園短期大学マンドリンクラブOG会紫音会アンサンブルによる演奏)
*特別展示「文京区と金沢の文人たち」を同時開催

令和2年度(2020年度)

〈事業名〉 文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」

〈主催〉 文京区

〈主管〉 跡見学園女子大学(文京区からの委託事業)

〈協力〉 一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

〈日時〉 令和2年11月15日(日)13時

〈場所〉 跡見学園女子大学文京キャンパスブロッサムホール

〈テーマ・課題〉 「教科書の中の名作」

太宰治「走れメロス」・宮沢賢治「銀河鉄道の夜」・川端康成「伊豆の踊子」・
芥川龍之介「羅生門」・志賀直哉「小僧の神様」・中島敦「山月記」

〈審査〉 予選(録音審査):一般財団法人NHK放送研修センター日本語センターに委託
(受付期間)令和2年9月7日(月)~9月11日(金)必着。先着200名。
応募総数:276名(一般170名 青少年106名)

本選審査員:審査員長 広瀬修子氏(元跡見学園女子大学教授・元NHKアナウンサー)

審査員 伊藤文樹氏(一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター専門委員)

審査員 子野日芳和氏(文京区教育指導課指導主事)

〈本選出場者〉 16名 (青少年の部6名、一般の部10名)

〈表彰・賞品〉 最優秀賞 2名 (青少年の部、一般の部 部門ごとに1名) (記念楯、図書カード1万円分)
優秀賞 4名 (青少年の部、一般の部 部門ごとに2名) (記念楯、図書カード5千円分)

〈広報〉 文京区HP、文京区報、文京区広報誌「スクエア」等
跡見学園女子大学HP、跡見学園女子大学ポータル、あとみネット、
跡見学園広報紙「ブロッサム」(ちらし同封)、NHK杯全国高校放送コンテスト冊子への広告掲載
朗読講座のあるカルチャースクール(ちらし送付)等

〈企画〉 幕間にDVD「宮沢賢治 銀河鉄道の夜」(イラストレーション&ムービー KAGAYA)上映

〈特記〉 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、防止策を講じながらの実施となった。観覧者は100名程度とした。

文の京ゆかりの文化人顕彰事業「朗読コンテスト」の歴代ポスター

主催／文京区 ■ 主管／読見学園女子大学 ■ 協力／一般財団法人 NHK 放送研修センター・日本読者センター

夏目漱石
未来へつなぐ文化遺産

平成29年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

朗読コンテスト

【募集対象】
読者募集に2人、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
平成29年8月27日(月)～8月31日(木) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
平成29年8月27日(月)～8月31日(木) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
平成29年8月27日(月)～8月31日(木) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。

詳しくはチラシ＆ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

本選観覧者
同時募集中!

夏目漱石
「吾輩は猫である」
「坊っちゃん」
「夢十夜」
「それから」
「こころ」

お問い合わせ ☎112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2
読見学園女子大学 文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
TEL: 03-3941-7420 URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

主催／文京区 ■ 主管／読見学園女子大学 ■ 協力／一般財団法人 NHK 放送研修センター・日本読者センター

朗読コンテスト

平成30年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

名作の子どもたち
未来へつなぐ文化遺産

【募集対象】
読者募集に2人、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
平成30年8月22日(水)～8月31日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
平成30年8月22日(水)～8月31日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。

詳しくはチラシ＆ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

本選観覧者
同時募集中!

有島武郎 一房(白痴)
芥川龍之介 蟹舟
中助 助 最後の恋
宮沢賢治 よたかしの星
森鷗外 最後の句
山本有三 路傍の石

お問い合わせ ☎112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2
読見学園女子大学 文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
TEL: 03-3941-7420 URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

主催／文京区 ■ 主管／読見学園女子大学 ■ 協力／一般財団法人 NHK 放送研修センター・日本読者センター

朗読コンテスト

令和元年年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

ふしぎ空間を旅する

【募集対象】
読者募集に2人、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
2019年8月27日(月)～8月30日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
2019年8月27日(月)～8月30日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。

詳しくはチラシ＆ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

本選観覧者
同時募集中!

泉鏡花 花丸
内田百閒 空室
江戸川乱歩 神探偵探 赤川次郎
永井荷風 狐
萩原朔太郎 雪野
室生犀星 てるてる草

お問い合わせ ☎112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2 読見学園女子大学 文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
TEL: 03-3941-7420 URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

主催／文京区 ■ 主管／読見学園女子大学 ■ 協力／一般財団法人 NHK 放送研修センター・日本読者センター

朗読コンテスト

令和2年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

教科書の中の名作

【募集対象】
読者募集に2人、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
令和2年9月7日(月)～9月11日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。
【募集対象者募集期間】
令和2年9月7日(月)～9月11日(金) 応募(締め切り)
【募集要項】
募集要項は、本選出場者を青少年の部一般の部合計16人
推薦を決定します。

詳しくはチラシ＆ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

本選観覧者
同時募集中!

太宰治 走れロスト
宮沢賢治 伊豆の踊子
川端康成 伊豆の舞子
志賀直哉 小僧の神様
中島敦 山月記
芥川龍之介 蟹舟
志賀直哉 小僧の神様

お問い合わせ ☎112-8687 東京都文京区大塚 1-5-2 読見学園女子大学 文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
TEL: 03-3941-7420 URL: <http://www.atomi.ac.jp/univ/>

コロナ禍における地域交流活動

生活環境マネジメント学科 石渡尚子

はじめに

これまで、石渡ゼミでは机上で学んだ理論を実践に活かして、学外での様々な地域交流活動に取り組んできた。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学外での活動が制限されたため、これまでの活動をどのように継続していくか、学生と十分に話し合い、この状況下でも可能な形で取り組んだ。

本稿ではゼミで継続的に取り組んできた2つのプロジェクトを取り上げ、これまで対面で行ってきた活動を今年度は非対面で実施するため、どのように工夫したのかを紹介する。

文京ハッピーベジタブルフェスタ

文京区では、毎年、野菜の日(8月30日)に区民の野菜摂取への関心を高めることを目的とする食育イベント「ハッピーベジタブルフェスタ」を開催している。石渡ゼミは2019年度まで、6年間連続でこのイベントに出展してきた。これまでは、会場でのポスター展示およびその内容を身近に感じてもらえる体験コーナーを設置していた。さらに、来場者にポスターの内容を説明し、ご理解いただいた上で、ポスター内容の要約と学生たちが考案した野菜のレシピを印刷した冊子を配布していた。楽しみながら野菜の栄養に関する知識を学んでもらうことで、来場者の野菜摂取量の増加につなげることを目的に、毎年、テーマを替えながら展示を行っている。直近3年間のテーマは以下のとおりである。

2017年 「野菜で高血圧を予防しよう」

2018年 「食物繊維で腸内環境を改善しよう」

2019年 「緑黄色野菜の栄養吸収率を上げる方法」

今年度も春学期当初から、どうすれば地域住民の野菜摂取量を増やせるか、展示内容を検討していたが、ポスター内容が確定した時点で、このイベントの中止が決定した。そこで、このポスターをイベント外で展示する方法を模索し、アカデミックインターンシップでお世話になっている株式会社エムアイフーズスタイルに相談したところ、自社で展開するクイーンズ伊勢丹(高品質スーパーマーケット)の店舗で掲示していただけることとなった。ただし、当初のポスターは夏のイベント用に夏野菜をテーマとしていたが、店舗掲示は秋～冬になることから、冬野菜をテーマに新たなポスターを仕上げた。

学生たちから店長ならびに青果担当責任者にゼミの取り組みとポスターの趣旨を説明した上で、店頭でポスターを掲示していただいた(図1)。毎週木曜日の青果の日には、ポスターで取り上げている野菜の入荷を増やすだけでなく、その売り場にポスターを掲示して、学生たちが考えたそれらの野菜を使った時短レシピ集を、お客様が手に取りやすい場所に設置してくださった(図2)。

これによりコロナ禍にあっても、地域の方に向けた食育活動を継続することができた。次年度には夏野菜バージョンのポスターも掲示していただくことになっている。



図1：学生によるポスター内容の説明



図2：青果の日に店頭掲示されたポスター

訪日外国人を対象とした熱中症啓発プロジェクト

このプロジェクトは、ゼミの特別講義にお招きした講師から「欧米ではイオン飲料を販売していない」という話を伺ったことがきっかけとなって始まった。欧米では夏の暑い時期でも湿度が低いことから、熱中症を発症することはほとんどない。一方、アジアの夏は湿度が高く、近年の気温上昇に伴い、熱中症で搬送される患者数は年々増加している。欧米人は日本人に比べ生理的に暑さに弱く、日本の蒸し暑さに対する対処法を知らずに来日することで、熱中症に罹患するリスクが高まる。そこで、石渡ゼミでは2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに来日する欧米人が熱中症になることなく競技を観戦し、観光を楽しんでいただけるよう、日本の夏の暑さの特徴と熱中症の予防法を啓発することを目的に、プロジェクト活動に取り組んだ。

当初、2018年から2020年の東京オリンピック・パラリンピック本番まで3年間の活動計画を立てていたが、2020年夏のオリンピックは延期となったことから、この活動も1年延期することを決めた。以下にこれまでの活動内容を示す。

〈2018年度の活動〉1年目：訪日外国人に対するインタビュー調査

初年度は外国人が熱中症をどのように捉えているか現状を把握するため、「300人の訪日外国人に対し、日本の夏の暑さに対する認識および対処法に関するインタビュー調査を実施する」ことを目標にプロジェクト活動を行った。

◆スケジュール

- 7月 調査準備（調査内容の検討、インタビュー会場の確保・下見など）
- 8～9月 インタビュー調査
- 10～11月 調査データの集計と分析
- 12月 今年度の活動報告会（協力団体・企業へのプレゼンテーション）

◆調査方法

インタビュー期間は2018年8月16日～9月7日の約3週間とした。数名でチームを組んだ学生が、

QUESTIONNAIRE
About the heat in Japan!

① How old are you? (年齢) 年齢を教えてください。 (年齢)

10s 20s 30s 40s 50s 60s 70 and over

② Where are you from? (出身国) 出身国を教えてください。 (出身国)

USA Europe Asia Oceania Africa Other

③ How many times have you come to Japan? (日本に来た回数) 日本に来た回数を教えてください。 (日本)

1st time 2nd time 3rd time 4th time 5th time Living in Japan now

④ What you brought you to Japan? (日本に持ってきた物) 日本に持ってきた物を教えてください。 (日本)

Electronics Business Others

⑤ What do you think about the summer heat in Japan? (日本の夏の暑さについてどう感じますか?) 日本に訪れた外国人は、日本の夏の暑さについてどう感じますか?

Hot and humid Muggy Sticky Stifling heat Bothering hot

⑥ Which country do you think is better in summer? (暑さ: 日本、夏はどちらの暑さの方がいいですか?) 暑さ: 日本、夏はどちらの暑さの方がいいですか?

Japan Other home country

⑦ How do you feel about the summer heat in Japan? (日本の暑さについてどう感じますか?) 日本に訪れた外国人は、日本の夏の暑さについてどう感じますか?

It's better than you expected Just as you expected It's cooler than you expected

⑧ Are you taking any measures to the heat in Japan? (日本に来て暑さ対策はしていますか?) 日本に来て暑さ対策はしていますか?

Yes No

⑨ Do you know heatstroke? (熱中症についてご存知ですか?) 熱中症についてご存知ですか?

Yes No

⑩ Do you know symptoms of heatstroke? (熱中症の症状をご存知ですか?) 熱中症の症状をご存知ですか?

Head-weak Dizziness High fever

⑪ Do you know anyone who has got heatstroke in Japan? (日本で熱中症になった人をご存知ですか?) 日本で熱中症になった人をご存知ですか?

Yes No

⑫ Do you have measures or prevention of heatstroke? (熱中症の予防策をご存知ですか?) 熱中症の予防策をご存知ですか?

Drink your body Drink water Don't go out Wear a hat

⑬ Do you have a plan to watch the Tokyo Olympic games in 2020 in Japan? (2020年東京オリンピック観戦を希望する予定はありますか?) 2020年東京オリンピック観戦を希望する予定はありますか?

I don't think Probably Maybe No plan

Thank you for cooperating with us in completing this survey!!

Ikizenda seminar / Abomi Unit

図3：インタビューに使用した質問用紙



図4：インタビュー調査の様子

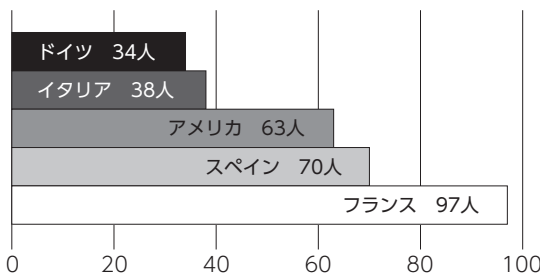


図5：調査対象者の出身国 (上位5か国)

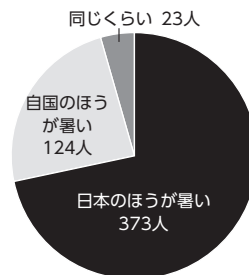


図6：自国と日本の暑さの比較

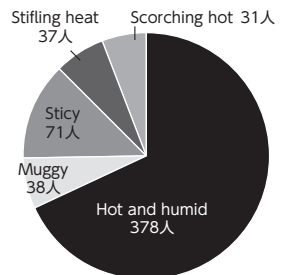


図7：日本の暑さに対する印象 (アジア以外の外国人)

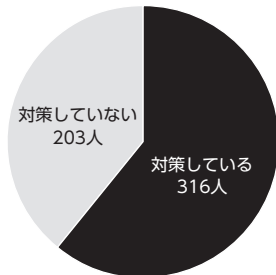


図8：訪日後の暑さ対策の有無

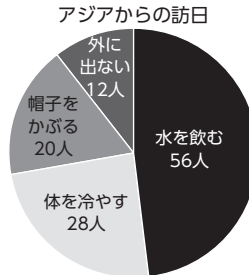
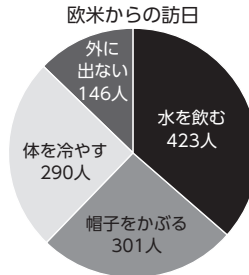


図9：アジア人と欧米人の熱中症対策の差異



インタビュー調査の実施許可をいただいた都内の外国人観光客が多い宿泊施設6件および東京都公園協会が管轄している浜離宮恩賜庭園、小石川後樂園で、主にアジア以外の地域から都内に訪れた外国人に対し、日本の暑さの印象や暑さ対策について英語でインタビューを行った(図3, 4)。図5のとおり、回答者は、欧米からの来訪者が過半数を占め、全体の約78% (524人中408人) が30代以下と若い世代の声を聴くことができた。

◆成果

当初300人を目標としていたインタビュー調査であったが、最終的に約3週間で524人の訪日外国人から回答を得ることができた。その結果、自国より日本のほうが暑いと答えた回答者が約4分の3を占めており(図6)、日本の夏はじめじめして蒸し暑いと感じていた(図7)。また、訪日後、6割は熱中

症予防対策を取っていると答えているが（図8）、欧米からの来訪者の対応は熱中症よりも日射病を意識したものであり（図9）、具体的には、日焼け止めクリームを塗る、サングラスをする、帽子をかぶるといった紫外線対策を重視をしていた。自国での熱中症患者が少ない欧米からの来訪者は、蒸し暑さにより熱が体内に籠ることで熱中症を発症することを理解しておらず、熱中症対策をしていると答える一方で、その予防法には誤りがあることが明らかになった。

〈2019年度の活動〉2年目：訪日外国人へ対面での熱中症予防啓発

前年度の調査で得られた「欧米から訪日する外国人は熱中症予防のための正しい対策を取っていない」という結果をもとに、2年目は、訪日外国人に対して熱中症の知識を伝えるためのイベントを実施した。

この目標として、「6日間のイベントで300人の外国人に熱中症の危険性を伝え、8割の人に正しく理解してもらう」「イベントに訪れた外国人のSNSで、自分たちの活動や熱中症の知識について投稿・拡散してもらう」ことを目標に、熱中症予防の啓発イベントを開催した。

◆スケジュール

6月 「熱中症対策アドバイザー」の資格を取得（図10）

→イベントでは来場者だけでなく、学生自身の熱中症を予防するためにも、正しい知識が必要となるため、ゼミ生全員が熱中症対策アドバイザー講習を受講した。

7月 浴衣の着付け練習（図11）

→本学コミュニケーション文化学科のマック・カレン先生のご協力により、土曜日の午後、2週にわたり「浴衣の着付け講座」を開講していただき、イベントの際、一人で浴衣を着ることができるよう練習した。

※ここまで会場に掲示物・配布冊子・フォトスポット用フレーム・来場者アンケート・イベント実施マニュアルなどを完成させた。

8月 5～10日の10時～15時に浜離宮恩賜庭園で6日間のイベント開催

→8月は日本の熱中症予防強化月間であり、イベント日程は次年度のオリンピック開催期間に合わせた。

9～12月 来場者アンケートの集計と分析、次年度の活動計画の策定

1月 協力企業をお招きし、結果報告のプレゼンテーション



図10：熱中症対策アドバイザー資格の取得



図11：浴衣の着付け講座

◆熱中症予防啓発イベント

イベントは浜離宮恩賜庭園内の屋根がある休憩所を会場とした。本来、庭園内で外部の人間がイベントを開催することは禁じられているが、この活動の目的をご理解いただいた上で、東京都公園協会との共催という形で実施することになった。

来場者には、はじめに熱中症に関するクイズに答えてもらってから、パネルを使い日本の夏の暑さの特徴や熱中症の危険性・予防法を伝えた。次に、協賛企業から提供していただいた熱中症予防対策グッズの体験や熱中症予防に役立つ飲み物を提供し、もう一度、最初のクイズに答えてもらった(図12)。クイズの回答を前後で比較することにより、熱中症啓発の効果を測定した。その後、フォトスポットに移動し、浴衣の学生と一緒に撮影した画像を、図13にあるハッシュタグをつけて来場者自身のSNSに投稿してもらった。これにより、後にどのくらい情報を拡散できたのか確認できる。最後に、学生が作成した熱中症予防ハンドブックで、日本滞在中、熱中症に罹患した場合の対処法を説明した(図14)。

◆成果

6日間のイベントで目標の300人を上回る、計349名の来場者アンケートを回収することができた。実際には、アンケートは家族やグループの代表者に記入していただいたため、この数倍の来訪者にア



図12：イベントの様子



図13：イベント来場者のSNSに投稿された写真

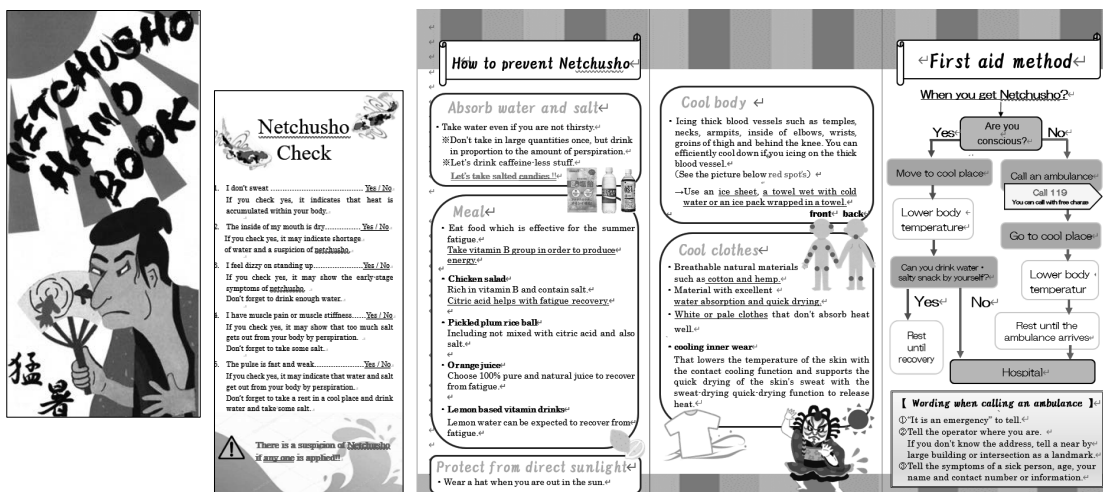


図14：会場で配布した熱中症予防ハンドブック

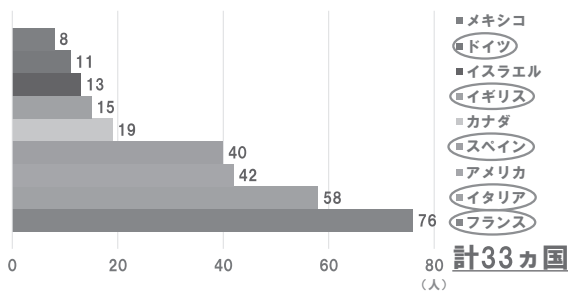


図15：アンケート回答者の出身国別人数

熱中症についてどのくらい理解できたか？

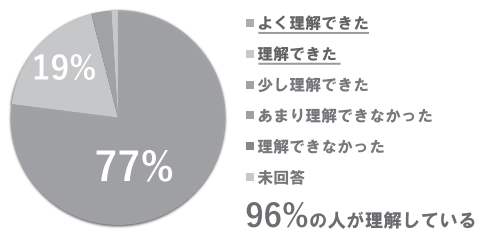


図16：イベント参加後の熱中症に対する理解度

イベント後のクイズ正解率

質問	正解率
平均	88%
・気温が高く天気の悪い日は熱中症の恐れはない	75%
・熱中症で死ぬことはない	95%
・暑い日でも日陰などの場所なら熱中症にならない	89%
・予防のため1日に必要な飲料としての最低水分量は？	96%
・アルコールで水分補給は適しているか？	89%
・水分補給をするタイミングは？	89%

図17：事前事後のクイズ正答率による熱中症啓発イベントの効果測定

熱中症予防声かけプロジェクト × 環境省
ひと涼みアワード2019 外国人おもてなし部門

最優秀賞 受賞



図18：ひと涼みアワード2019の表彰式とプレゼンテーションの様子

アプローチできたことになる。来場者を出身国別に見てみると、全33カ国のうち、今回のプロジェクトのターゲットとなるヨーロッパの方の回答が多かった（図15）。イベント後の熱中症に対する理解度をアンケートにより確認したところ、96%の来場者が理解できたと答えた（図16）。また、実際に熱中症に関する10問のクイズの正答率をイベント前後で比較したところ、事前の正答率が平均7割であったものが9割まで向上した（図17）。

この成果が認められ、環境省が後援する「ひと涼みアワード2019」の外国人おもてなし部門で最優秀賞を受賞し（図18）、その成果は熱中症予防声かけプロジェクトのホームページ（<https://www.hitosuzumi.jp/award2019/>）に公開されている。

1月には、このプロジェクトのために熱中症予防にかかわる商品をご提供くださった企業のご担当者様をお招きして、今年度の活動総括と次年度活動計画のプレゼンテーションを行い、フィードバックをいただいた。

〈2020年度の活動〉3年目：オンラインでの熱中症予防啓発

本来であれば今年度は、東京オリンピックが開催されている期間に、競技場に隣接した会場で熱中症予防啓発のイベントを実施する予定であった。けれども、コロナ禍により活動が不可能となったため、学生たちはそれまで計画していたプランを臨機応変に見直し、4月からオンラインによる熱中症啓発に取り組むことになった。対面での作業ができないため、メンバー同士、緊密に連絡を取り合いながら、一人ひとりが責任を持って自身の役割を確実に果たすことで、数多くの動画を予定通りYouTubeで配信し、長期間にわたり熱中症啓発をすることができた。



図 19：YouTubeの熱中症啓発プロジェクトチャンネル

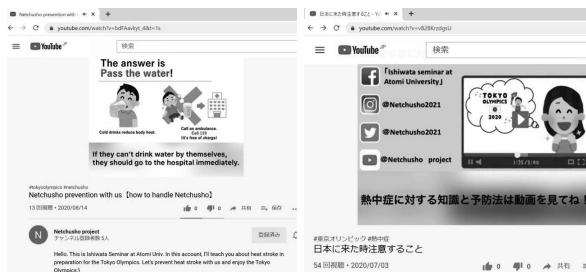


図 20：YouTubeから配信している動画

◆熱中症予防啓発動画の配信

東京オリンピック・パラリンピックの延期が発表された3月下旬から、今年度の熱中症啓発活動どのように展開するか、オンラインゼミの中で検討した。その結果、日本語と英語で作成した熱中症啓発につながる動画を7月から毎週2本ずつYoutubeに投稿することになった。

動画には、登場人物である主人公がオリンピック観戦に行く1日をストーリー仕立てに描き、各シーンの中で熱中症予防につながる行動をクイズ形式で取り入れた。それを「朝食編」「買い物編」「観戦編」などシーン別に分割し、それぞれ2～3分の長さに編集した動画を作成した(図19, 20)。さらに、熱中症の予防法、症状、対処法について詳しく解説した動画も配信している。【YouTubeチャンネル：Netchusho project】

◆成果

7月から10月までの4か月間で、合計34本の動画をYouTubeにアップロードした。当初、なかなか視聴回数が伸びなかったことから、YouTubeに動画を配信するだけでなく、Instagramやtwitterなど他のSNSを利用して自分たちの動画のPRを行った。

その結果、2020年12月時点での全視聴回数は約900回となり、世界で活躍する外国のスポーツ選手からも「いいね」の反応をいただいた。

また、この活動は「ひと涼みアワード2020」のオンライン啓発部門で最優秀賞を受賞した(P.60「ひと涼みアワード2020」オンライン啓発部門 最優秀賞 受賞コメント参照)。例年は会場にて行われる最優秀賞受賞者によるプレゼンテーションも今年度はオンラインで行われた(ひと涼みアワード2020 <https://www.hitosuzumi.jp/award2020/>)。

おわりに

本稿では、石渡ゼミが継続的に取り組んでいるプロジェクトについて、これまでの成果と今年度コロナ禍の中でどのように活動を展開したのか詳しく述べた。学生たちはこの環境下でも「できない」ではなく「どうしたらできるのか」と考え、自分たちにできることを模索し、客観的な評価をいただける形に作り上げた。このモチベーションの源泉は「誰かに喜んでほしい」という彼女たちの純粋な想いである。思うことは容易いが、それを形にするには相応の努力や時間が必要となる。特に今年度は、対面での活動がほとんど不可能であったことから、これまで経験のない困難があった。自分以外の誰かのため

に、諦めず努力し続ける学生たちの姿勢に敬意を表したい。

石渡ゼミの学生による地域連携活動はすでに10年以上になった。埼玉県川口市の地域活性化を目的とした「B級グルメフェスティバル」から文京区の高齢者の食生活改善を試みた「共食プロジェクト」、そして現在の「熱中症啓発プロジェクト」に至るまで、どのプロジェクトも自治体はじめ社会福祉協議会や高齢者連合会、東京都公園協会といった地域の方々のご協力を得ながら、年々活動を進化させてきた。大学では出会うことのない世代、職種の大人たちと協働し、暮らしの中にある課題を解決する貴重な経験は、学生の視野や興味の範囲を大きく広げることを実感している。

今後も、地域の方々のご指導・ご助力をいただきながら地域貢献につながるプロジェクト活動を推進し、学生の成長を後押ししていきたい。

本郷菊坂「かふえ伊勢屋」の企画と運営

観光デザイン学科 安島博幸

1. 企画の経緯

2015年にマネジメント学部観光マネジメント学科が観光コミュニティ学部観光デザイン学科に昇格し、新たに同学部に設置されたコミュニティデザイン学科とともに、観光とコミュニティという地域と深く結びついた新しい分野の研究と教育がスタートした。

2017年には、1期生が文京キャンパスで展開される後期課程に進み、専門分野を学ぶ時期がきた。ただ、2つの学科のカリキュラムには共通に学ぶ科目は少なく、その少ない科目の一つが「観光コミュニティデザイン実践」という科目で、私は、その科目の担当者だった。科目名からすると、観光デザイン学科とコミュニティデザイン学科で学んできたことを活かして地域コミュニティのために意義のある実践を行うということは分かったが、その内容については何も決まっていなかった。当時副学長だった大塚先生にも相談したが、当初の予定は、地方の農山村に30人ほどの学生を引率していき、そこで、地域の課題などについて調査を行うとともに、課題解決のための新たな観光も含む新たな提案を行うというようなことを考えておられたようだった。しかし、30人の学生を引き連れて、地域に1週間近く滞在して調査・分析・提案を行うのは、費用も掛かるし、地域内での移動や宿泊にも問題があり、地域の状況にも疎い学生がプランを提案しても、その有意性には疑問が残り、その方向での検討に難しさを感じていた。

その方向転換の契機になったのが、跡見学園が所有する「旧伊勢屋質店」の存在だった。旧伊勢屋質店は、本郷菊坂にあり、明治の頃、日本の近代を代表する文豪である樋口一葉、石川啄木、宮沢賢治、森鷗外、夏目漱石がその一帯に住んでいたが、その菊坂に面して建っている。昔は、今より繁華な街で商家が立ち並び風情のある場所だったが、開発や震災などで古い建物がなくなり、「旧伊勢屋質店」は数少ない貴重な建物になっていた。そこに、これを取り壊してマンションを建設する計画が持ち上がった。この建物がなくなれば、菊坂には、昔を偲ばせる明治の建築がなくなってしまうことから地域のみならず、外部からも保存の声が強くなった。そこで文京区に協力する形で、跡見学園が取得することになった経緯がある（詳細な経緯については、『文京区指定文化財調査報告書 旧伊勢屋質店調査報告書』を参照）。跡見学園の所有になった後は、建物は「菊坂跡見塾」という名前でも「教室」として学園の教育



現菊坂跡見塾 (旧伊勢屋質店)



菊坂周辺には明治の文豪が住んだ

施設として位置づけられている。毎年、かるた会が開かれる他、文京区の文化財として、区から委託を受けて、ほぼ毎週末、一般公開も行われている。伊勢屋質店には、近くに住んでいた樋口一葉が通ったことも、作品の中にも記されており、一葉の旧居の面影が残る場所とともに、一葉のファンにとってはかけがえのない場所になっている。ただ、学校教育施設としての利用は、まだまだ充分ではなかった。

この状況の中で「観光コミュニティデザイン実践」という新しい科目のための対象地として「旧伊勢屋質店」が結びつき「古民家カフェ」の企画・運営を授業として行うことになった。

2. 事前検討

古民家カフェの企画・運営などは経験がなかったので、最初は手探りの状態だった。建物の現状は、カフェを行うためには、いろいろな問題が山積していた。

- ① 台所の洗い場が水漏れしており、水は出るが洗い物ができない。
- ② 電気の容量が不足しており、湯沸器、電気ポットなどの利用にも制限がある。
- ③ 冷蔵庫がない。またエアコンの容量が不足気味で猛暑になると厳しい利用環境になる。
- ④ トイレを使うことができない。
- ⑤ 2階は急階段であるのと、多人数が上がると構造上の危険があり、使えない。

現状の建物の問題に加えて、運営上の制約として、

- ① ほぼ毎週末の昼過ぎから夕方、文京区からの委託を受けて、建物を無料公開しており、カフェサービスの提供が建物の見学者の邪魔にならないように、当初は時間帯を分けて運営することが求められた。
- ② カフェサービスの中心となる飲食の提供については、衛生面から保健所が規則に基づいた厳しい指導をしており、特に調理については、洗い場やトイレについて条件が定められているが、上記の通りその条件はまったく満たすことができない状況にある。可能なのは、許可を受けている会社などで製造後、包装されたものをそのまま提供するという形だけである。これを守ったサービスでカフェができるか。大きな検討材料となった。

以上のような解決すべき難題があったが、庶務課、地域交流課の方々には、文京区役所との連絡、交渉には大変お世話になり、少しずつ変更を重ねながら動き出すことになった。

ハードな施設面での改善は難しかったが、運営の工夫で多くの問題は解決した。

3. 授業の実施

授業は次のようなテーマで行った。調査やカフェの営業などは週末を利用した。

(1) オリエンテーションとチーム編成

菊坂跡見塾（旧伊勢屋質店）を使って、古民家カフェ、コミュニティカフェを行う意義について話を



高崎経済大の高橋さんから話を聞く



昔の面影が残る樋口一葉の旧居附近

した。また、30人ほど履修者がいたので、7～8人ずつの4チームに編成した。

6月末の週末と7月初めの週末の4日間、1日ずつそれぞれのチームが担当して運営する。

他のチームの運営日にも、1回は顔を出さなくてはならないとした。

(2) 樋口一葉／本郷菊坂について／旧伊勢屋質店について講義

旧伊勢屋質店とその周辺の歴史スポットを実地見学する前に、菊坂一带に住んだ明治の文豪たち、昔の菊坂の様子（近くには跡見学校もあった）、伊勢屋質店の建物とその価値について話をした。

(3) ゲストスピーカーから高崎経済大学の喫茶店「cafe あすなろ」の話を聞いた。

高崎経済大学では、戦後、高崎市の「芸術活動の拠点」として役割を担った「名曲茶房あすなろ」を復活させ、学生が運営を行っている。大学側職員の高橋浩子さんを招いて、運営について話を伺った。運営をしている高崎経済大学の学生も一緒に来てくれた。

(4) 古民家カフェ経営の事例研究

学生の一人一人に、それぞれ2カ所ずつ、気に入った古民家カフェの事例を調査し、開業に至るまでの経緯、運営上の工夫、カフェの建築や室内空間の魅力、ドリンク、スイーツの魅力などについて、パワーポイントにまとめて報告してもらった。多くの事例を共有することができ、「かふえ伊勢屋」の企画に役立ったと思う。

また、希望者で、墨田区の「川床テラス」やできて間もない話題の「ブルーボトルコーヒー」の視察も行った。古民家カフェではなかったが。

(5) 古民家かふえ「伊勢屋」の企画案の作成

6月末の開催日と7月初めの開催日では、テーマを変え、インテリアの飾り付け、カフェメニューなどもそれに合わせたものとした。企画案には、①広告・宣伝の方法の検討（チラシ、ポスター、SNSなど）、②テーマの検討、③カフェメニューと仕入れ先の検討、④食器やインテリアのデザインと制作、④伊勢屋質店の建物と周辺の見どころについてのガイド、⑤カフェサービス、会計、来場者管理の分担、⑥全体予算管理と経営計画など多岐にわたった。



縁側と庭に作った席



主に使った室内の席

(6) 「かふえ伊勢屋」の営業

営業時間は、最後の開催となった2019年の場合は、6/29(土)～6/30(日) 7/6(土)～7/7(日) 10:30～15:30(ラストオーダー 15:00)である。初日は、朝9時に集合して、準備をするので、忙しい。2017、2018年の2年間の実績から、カフェ利用者と施設だけの見学者の動線の混乱は避けられそうだったので、午後の閉館時間近くまで営業することになった。回を重ねる毎に、集客方法も改善し、売上も増えた。売上高からお菓子、飲料や消耗品の原価を引いた粗利益は、初年度は、赤字だったが、3年目は、4日間合計で、32000円程度の黒字となり、授業日程の終了後、スペイン料理を食べながら楽しく反省会を行った。

(7) レポートの提出と報告

4月からのカフェの準備と6月末～7月初の実際の営業を通じて、どのような点について学び、実践において、それぞれがどのような貢献をしたかについてレポートを提出して、すべての日程を終了した。

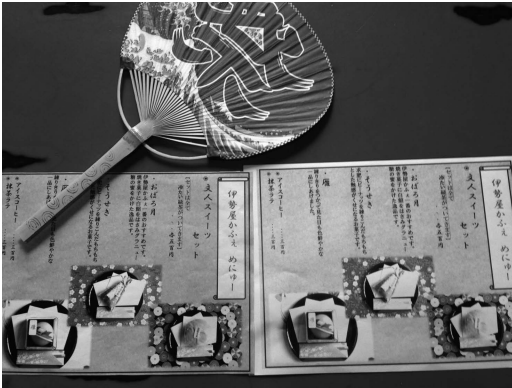
4. 印象に残った企画・提案・実践

初年度は、私も、学生たちも初めてのことばかりで、試行錯誤の連続だったが、制約のある状況の中でも、学生たちは創造性を発揮し、古民家カフェの一つのスタイルを提案できたと思う。2年目、3年目には、過去の蓄積を継承しつつ、驚くような楽しいアイデアも出て、大いに盛り上がり、地域コミュニティとの連携、活性化にも明るい見通しを得ることができた。ここでは、3年間を通じて印象に残った企画・提案・実践を紹介することとしたい。

(1) 提供するお菓子の選定

明治の文学者と関わりの深いこの地域ならではの お菓子として、本郷の老舗の和菓子店が販売する夏目漱石、森鷗外、樋口一葉をモチーフにしたお菓子を提供した。

また、この地域には江戸時代から本郷台地に染みこんだ水が崖の途中から湧くハケがあり、それを利用して金魚の生産地として有名だった。金魚をモチーフとしたお菓子も探して提供した。3年目は、伊勢屋からすぐ近くにある明治10年創業の彘ちごやさんから、和菓子の他、おいなりさん等を仕入れた。お店には、カフェのポスターを貼らせていただいた。



文人をモチーフにしたお菓子



明治10年創業のすぢごや和菓子店

(2) 地域性と季節感のデザイン

洗い場が使えないので、使い捨てのカップを使わずを得ないが、そこで一工夫してカップやランチオンマットのデザインにも紫陽花など季節を感じさせるものを手作りした。カフェの営業日は、6月末～7月初めの梅雨の時期であり、また七夕に近い。そのため夏らしく浴衣を着てサービスをしたが好評だった。



浴衣を着てサービス



今日のテーマは「七夕」

(3) チョーク看板・チラシ・ポスター・カード

パリの町角にあるレストランでは、その日のメニューをチョークで描いて店先に掲示している。それに倣って、和風のチョーク看板をデザインした。

毎年、イラスト、漫画などを描くのが得意な学生がいて、違ったデザインで作成した。割引券なども作って配布した。それぞれに学生のセンスが生きた。



チョーク看板制作中



割引券付きのチラシ



和風のチョーク看板



宣伝用のポストカード

(4) 「樋口一葉トークショー」

3年目の企画で、大成功だったのは、樋口一葉が今に甦り、自らの生涯を語り、観客からの質問に答えるというユニークな企画が「一葉さん、トークショー」だった。「一葉さん」は、地域交流センター長の土居先生を中心に文京区のコミュニティバス「B-ぐる」の利用促進のために、樋口一葉が登場する車内テレビCMを流しているが、その衣装をお借りして登場した。

(5) 地域との連携・交流の場の形成

3年目には、手続きや準備の手順なども分かってきたので、地域との連携を深めることにも力を注いだ。具体的には、町内会の会長にお目に掛かって、旧伊勢屋で開くカフェの意義について説明をし、町内会の掲示板にポスターを貼らせていただいた。また、一葉の命日に長い間、一葉忌を行い、その一生を顕彰している団体である「一葉会」の皆様にも大変お世話になった。これらのことによって、3年目は、お願いに回った方以外にも、ポスターなどを見て来てくれた地元からの利用が大変多く、様々なつながりが生まれた。



大好評だった「一葉さんトークショー」



地元の一葉会の皆さんと記念撮影



多彩な方々に来ていただき交流会に



ゼミ生を連れて先生方も来て下さった

5. まとめ

今年度（2020年度）はコロナ禍のまっただ中であって、本来は、春学期に開講する授業を秋学期に延期して、開講の機会を探したが、結局、秋にもコロナの感染が終息せず、大変残念ながら、開講することが叶わなかった。ただ、振り返ってみると、3年続けると様々な授業運営上のノウハウも蓄積でき、ねらいとしていたことが徐々に実現できたと考えている。それは次のような点である。

- (1) 学生自身が普段使っているカフェの経営について、自分のこととして考え、実際に調査を行って、その現実を知ることができた。
- (2) カフェ経営には、短期的な営業であっても、文京区役所や保健所との交渉や許可申請の手続きが必要であることを学ぶことができた。また、経営的に収入と支出の予測から収支を考え、仕入れや準備をすることを学んだ。
- (3) 学生自らが、メニューを考え、ポスター、チラシ、看板などのデザインや季節に合わせたインテリアやエクステリアのデザインを行い、制作した。また、地域や伊勢屋質店にゆかりのある樋口一葉について学び、イベントの企画を行い、実施した。
- (4) 地元の町内会の会長や飲食店などを訪ねて、カフェの趣旨を説明し、ポスターを町内会の掲示板や店内などに貼らせていただくようお願いをして回るなど地域との連携を深めることができた。

以上、学生にとっても、教室での授業では、到底できない複数の側面が入り交じった貴重な体験をすることができたのではないだろうか。できれば、この授業でのカフェの営業は、1年のうち、春学期の4日間しかないが、これをできるだけ多くの日に開催できるようにして、教室としての有効活用と地域への貢献が長くつづくことを願ってやまない。

高齢者と学生との交流会「ふれあいカフェ」

—7年間の活動をふりかえって—

心理学部臨床心理学科 宮岡佳子

1. はじめに

臨床心理学では、心身が健康な人の支援も対象となる。現在の状態をより維持、向上させることが、メンタルヘルスの第1次予防となる。筆者は、地域に住む高齢者の心理支援という位置づけで、2013年から2019年にかけて、高齢者と学生との交流会を企画、実践してきた。本論では、この7年間の振り返る。

2. 活動の歩み (表1)

(1) ATOMIさくらルームでの開催 (2013年～2014年)

2013年、文京キャンパスの近くに心理教育相談所分室「ATOMIさくらルーム」が開室した。さくらルームでは、地域支援活動を行うことも重視した。その活動の一環として、筆者は高齢者を対象としたコミュニティカフェを開催することとした。名称は「シニアのコミュニティカフェ」とし、臨床心理学の学生とともに、一緒にお茶やお菓子を摂りながら、ゲームやおしゃべりをし、筆者による臨床心理学のミニ講座を聞くという内容とした。名称は長いので、その後、「シニアカフェ」とした。困ったのは参加者集めである。文京シビックホールにある公益財団法人文京アカデミーにお願いして、チラシを置かせていただいたが、2～3名しか集まらなかった。しかし、この活動に興味をもった文京区高齢福祉課職員の方がご自身も参加し、その後文京区内の高齢者クラブに声を掛けていただき、参加者が増加した。2014年は、文京区との連携事業にもなった。この時期は、連続したテーマでミニ講座やワーク（絵を描くなど）を行うスタイルをとっていたので、年間4～5回開催した。

(2) 目白台交流館での開催 (2015～2016年)

2015年からは連携事業は終了となったが、区の担当職員の方のアドバイスで、地区の公民館である目白台交流館で行うことになった。文京キャンパスから徒歩20分のところにあり、3つの高齢クラブ（めじろ台クラブ、ゆたか会、栄心クラブ）が活動している。2016年には、ATOMIさくらルームが駅前に移転した。新しいさくらルームは入室方法が煩雑で、大勢が一度に入室することが困難なため、カフェの開催は困難となった。この意味でも、目白台交流館での開催は好都合であった。

目白台交流館に開催場所を移してからは、参加者は、目白台交流館で活動する方たち限定のカフェとした。図1に2015年におこなったシニアカフェのプログラムを示す。時間は1時間半である。小テーブルに分かれ、学生が1～2人加わる。最初に、自己紹介、続いて高齢者向けの指体操、なぞなぞ（頭の体操として）を行う。中盤には、「笑いの効用」に関するミニ講義をして、実際に割りばしを挟んで笑顔を作るワークを行った。この間も学生が、飲み物の注文をとり、サービスし、お菓子を食べながら談

笑した。

2016年に、名称を「シニアカフェ」から「ふれあいカフェ」に変えた。「シニア」と呼ばれるのが嫌だという声があったからである。高齢者クラブに入っている方は、一般的な高齢者よりも、心理的健康度が高い。活動的であり、意見もいろいろ言われる。この方たちのコメントは、筆者が気づかないことも多く、役に立った。例えば、高齢者の難聴は感音性難聴のため、高音が聞き取りにくくなる。若い学生の声は甲高い上早口なので、聞き取りにくい。学生には「低めの声で、大きく、はっきり」喋るように伝えた。内容に関しては、「お勉強はいらぬ。楽しみたい」という声

があり、ミニ講座は途中からやめることにした。「楽しむ」ことを目的として、ゲームや合唱を中心のプログラムとした。合唱も、高齢者クラブの活動には合唱もあり、「合唱をしたい」という声があり始まった。選曲は学生たちが行き、童謡、新旧の歌謡曲などバランスよく選んだ。この時期は、年に2回行った。

(3) 学生寮での開催 (2017年～2019年)

目白台交流館での開催が場所代等で難しくなり、また次の場所を探さなければならなくなった。大学職員の方のアドバイスで、文京キャンパスから3分の学生寮(メゾン音羽)で行うことになった。学生寮の寮長さんが快く開催に承諾していただいた。学生寮の寮生も参加し、臨床心理学の学生(主に筆者の3,4年ゼミ生)と一緒にカフェを盛り上げてくれることになった。


図2は2019年のカフェの際に、学生に配付した進行表の抜粋である。もっと詳しい注意を記載しているが、図では省略した。学生は、見ず知らずの高齢者とどう対応したらいいか

シニアカフェへご参加ありがとうございます。
(2015年12月5日14時～15時半)

～～本日のメニュー～～

1. 開会挨拶
2. 自己紹介
3. 指の体操 (座ってできます)
4. 頭の体操 (大学生からなぞなぞ出題)
5. 笑いの体操 (大いに笑いましょう)
6. おしゃべりタイム
7. 閉会挨拶

*飲み物、お菓子、ご自由にどうぞ!!



～～ミニ講義 「笑いについて」～～

1. 笑いの医学的効用
 - ①免疫力があがる (免疫細胞活性↑の実験あり)
 - ②大笑いは適度な運動と同じ
2. 笑いエクササイズ
 - ①割り箸を横にして、前の歯で軽く加えます
 - ②割り箸をぞっと横に引き抜きます ⇒⇒⇒ 笑顔の完成!!

図1: 2015年 シニアカフェプログラム (参加者の机上に配付)

~~~~~ふれあいカフェ 進行表 (抜粋)~~~~~  
2019年7月6日土曜日 (14時から15時30分実施) メゾン音羽寮

◎おおよその目安です。気楽に、楽しんでしましょ

◎高齢者の方には、普段の会話よりも、**大きい声で、ゆっくり**話してください。

I. 準備 (13時～)

- 1) 会場設置
- 2) 参加者来場

II. カフェ開店 (14時～15時30分)

- ① あいせつ
- ② 各テーブルで自己紹介 (大きな声で)
- ③ 歓談、飲み物サービス (注文を聞いて作る)
- ④ ゼミ生によるゲーム (なぞなぞ)
- ⑤ 歓談 (ゆっくり、大きな声で)。飲み物サービスも適宜。
- ⑥ 高齢者の方の戦争体験談
- ⑦ 寮生による合唱
- ⑧ 歓談
- ⑨ 終了挨拶、アンケート記入
- ⑩ お見送り

III. 後片付け (15時40分～16時)

図2: 2019年 ふれあいカフェ進行表抜粋 (学生に配付)





図3：小テーブルにわかれておしゃべり



図4：なぞなぞ出題



図5：戦争体験を聞く



図6：YMCAを合唱

不安に感じている。カフェが始まってからも、しばらくは口数が少ない学生もいる。しかし、高齢者の方と話し、自分たちが企画したゲームを行うにつれて、明るい表情になっていく。今の学生は、ネットの普及により、直接対面で人と話す機会が減少しているだけに、カフェでおしゃべりし、一緒に楽しむことで、コミュニケーションの持ち方を学ぶ機会になっている。高齢者支援だけでなく、学生たちのスキルを高めることにも寄与している。

図3～6はカフェの様子を写真で示した。図3のように、学生寮の食堂で、小テーブルに分かれて、着席する。以前、くじ引きなどでバラバラに座ってもらうことを計画したが、「クラブのいつもの仲間と一緒に座りたい」という希望があり、参加者の好きなように座ってもらっている。日頃の仲の良いメンバー同士で話がはずんでいるのを見ると、無作為に座らせる必要はないと感じた。

図4はなぞなぞゲームである。あらかじめなぞなぞの本から選んでおく。簡単だと思った問題が、なかなか当たらないこともあり、場が盛り上がる。2019年のなぞなぞゲームでは、正解者に跡見グッズの景品を贈呈した(図4)。これも「景品があるといい」という参加者からの声を聞いて始めたものである。なぞなぞを出す学生と、正解者に景品を出す学生に分けて、景品係の学生は、会場を動きまわり、マイクを向ける。学生の動きがあるだけで、会場はにぎやかな雰囲気になり、景品も喜ばれた。

図5は2018年から始まった、高齢者の方が戦争の体験を話しているところである。東京大空襲にあ

われ、戦後も辛い体験をされた。この方の「自分たちの時代は、戦争で勉強ができなかった。今の学生さんは勉強ができて、それは、素晴らしいことなんだ」というメッセージは、学生たちの心に響く。私が、戦争体験を話していただきたいと思うきっかけとなったのも、カフェであった。目白台交流館でおこなったカフェが終わった後、ある学生が困った顔つきで私に「先生、引き揚げって何ですか？ 何のことだかわからなかった」と言う。おしゃべりの中で満州からの引き揚げの話が出たらしい。考えてみると、学生の祖父母の世代ですら、戦争当時は幼いか、すでに戦後生まれかもしれない。戦争の話を今の若い世代に伝えないと途絶えてしまう。こう考えて、戦争体験のお話をさせていただくことになった。寮長さんが、講演者の後ろのスクリーンに、戦時中の映像を流していただいた。

その後は、合唱につないで、今の幸せをかみしめてもらうようにしている。寮長さんが、歌詞付きの映像を流していただいた。最後は、「ヤングマン (YMCA)」である。学生たちが立ち上がり、手ぶりを交えて、歌っている様子を図6に示した。

ゲームやおしゃべりが進行している間も、学生たちは、飲み物の要望を聞き、作ってサービスする。都会の人たちだからだろうか、コーヒーが好きな方が多い。飲み物、お菓子等の準備にあたっては、筆者が買い出しに行き、事前に、寮に預かってもらう。ペットボトルも前日から食堂の冷蔵庫で冷やし、お湯も自動給湯機があるので、助かっている。15回目のアンケートでは、「硬いお菓子が多かった」とあった。高齢者には、柔らかい物を意識して選ぶ必要がある。

#### (4) 7年間の活動実績

表1に7年間の活動実績を示した。高齢者の内訳には、2013年～2015年にかけて文京区高齢福祉課職員の方の参加もあったため、外部参加者として含めた。学生のなかには、学部生で参加した者が大学院生になっても参加した年があり(2015年)数に含めた。教職員の中に、2017年から学生寮で行うようになってから、毎年寮長さんが参加いただいているので数に加えた。職員はさくらルームから目白台交流館にかけては、心理教育相談所の職員、それ以後は、地域交流センターの職員に参加してもらい、事前の準備にも協力してもらっている。教員一人だけではとても実施はできない。職員の方には、高齢

表1：ふれあいカフェ(旧シニアカフェ)の7年間の統計

| 回数      | 年    | 年間回数 | 場 所        | 参加者              |              |               | 合計  |
|---------|------|------|------------|------------------|--------------|---------------|-----|
|         |      |      |            | 高齢者<br>(文京区職員含む) | 学生<br>(院生含む) | 教職員<br>(寮長含む) |     |
| 1回～5回   | 2013 | 5    | (旧) さくらルーム | 33               | 18           | 5             | 56  |
| 6回～8回   | 2014 | 3    | (旧) さくらルーム | 34               | 17           | 3             | 54  |
| 9回～10回  | 2015 | 2    | 目白台交流館     | 42               | 14           | 4             | 60  |
| 11回～12回 | 2016 | 2    | 目白台交流館     | 52               | 14           | 4             | 70  |
| 13回     | 2017 | 1    | 学生寮        | 24               | 12           | 4             | 40  |
| 14回     | 2018 | 1    | 学生寮        | 24               | 10           | 4             | 38  |
| 15回     | 2019 | 1    | 学生寮        | 28               | 11           | 3             | 42  |
| 延べ人数    |      |      |            | 237              | 96           | 27            | 360 |
| 平均      |      |      |            | 15.8             | 6.4          | 1.8           | 24  |

者クラブおよび学生寮との打ち合わせ、参加申し込み受付、保険加入手続き（イベントの団体保険に申し込む）、会費のとりまとめ、備品景品の運搬などを行ってもらった。

7年間の参加延べ人数は、高齢者（区職員含む）237名、学生（院生含む）96名、教職員（寮長含む）27名であり、合計360名であった。1回の平均はそれぞれ、高齢者15.8名、学生6.4名、教職員1.8名、合計24名であった。教職員参加平均が2未満なのは、ATOMIさくらルームで行っていた2013～2014年までは、相談所の職員の方に準備のお手伝いはしていただいたが、参加自体は、相談所の業務があるため出来なかったためである。数字の上では、教職員は筆者のみになっている。

---

### 3. おわりに

7年間の活動を通じ、高齢者、学生、そして開催者の筆者自身も多くのことを得られたと感じる。高齢者にとっては、このような活動自体が珍しく、毎回アンケートでは高評価である。特に目白台交流館の高齢者クラブのみを対象とした活動にしてからは、本学のこの活動に対して、楽しみにしてくれている。ある方は、孫のような子どもとは接するが、大学生のような世代とは、余り話したことがないので新鮮だった、と言う。

参加学生にとっては、ボランティア活動ができたという達成感があるようだ。参加の高齢者は明るい方が多く、学生も楽しみ、コミュニケーションスキルも身に付けることができる。高齢者支援という臨床心理学の実践を学ぶという貴重な機会となっている。

筆者自身も多くの学びがあった。臨床心理学、精神医学では、集団をあつかい、心の健康を目指すアプローチに「集団療法」がある。ふれあいカフェもその構造とみなせる。「集団療法」においては、始めは緊張している知らない物同士が親しくなるために、「アイスブレイク」という字義どおり、心を解かず簡単なゲームを行う。ふれあいカフェでは、アイスブレイク中心のワークの構造を持ち、対象者である高齢者のみならず、支援者の学生にとっても心の健康増進を行える活動である。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のために中止とした。2021年以降は、たとえ感染が収束しても、ふれあいカフェ活動は開催が困難と考えている。ふれあいカフェは、ここ数年、春学期土曜日午後で開催していた。しかし、筆者は2020年から春学期に土曜日午後固定の演習科目（公認心理師になるための科目）の担当になった。秋学期も、公認心理師になるための実習科目を担当し、学外施設の実習と土曜日午後を使う学内授業があり、時間がとりづらくなっている。このふれあいカフェの活動だけでなく、授業とのバランスをとりながら、実施可能な地域支援を模索する時期が心理学部には来ていると感じている。

# 跡見学園女子大学における地域交流活動の現状について

—特に新型コロナウイルス感染症流行による影響に注目して—

新垣夢乃

---

## 1. 本稿の目的

本稿の目的は、二つある。一つは、跡見学園女子大学においてはどのような地域交流活動が行われ、どのような企画があるのかを把握することである。それは、『ゆかり』創刊号において金子祥之氏が掲げた、「上から」の要請ではなく「現場から」の要請によって行われてきた多様な「地域交流」活動をその多様性を排除することなく捉えようとする試みを継承するものである [金子 2020:10-11]。また、この目的の背景には、2019年度の調査では、専任教員 105 名を対象としたが回答者は 63 名 (60%) に止まり、さらなる活動の掘り起こしの必要性が指摘されていたことがある [金子 2020:11]。

もう一つの目的が、それらの地域交流活動に新型コロナウイルス感染症 (以下、COVID-19) の流行がどのような影響を及ぼしているのかを把握することである。現在、地域交流活動は、現場へ出かけて行きたい気持ちと感染への恐れや「不要不急の外出を控える」という言葉との葛藤のなかで行われている。それを、神奈川県座間市において生活支援に取り組んできた林星一氏は「コロナ禍での地域活動の難しさ」と『新たなつながり』として、直面する困難と困難であるが故に新たな可能性が生まれつつある現状を示している [林 2020:32-33]。そのため、本稿の目的の背景には、COVID-19 流行のなかで地域交流活動が置かれている状況と、そのなかで活動を止めまい、学びを止めまいとする努力や工夫を把握し共有することがある。

---

## 2. 調査の集計と結果

今回の調査は、Atomi Information Portal の掲示登録を使用し、掲示登録上で職種が「常勤」となっている 107 名の教員を対象に、2020 年 7 月 8 日～7 月 29 日の期間で「学内の地域交流関連活動に関わる調査」という名称で実施した。しかし、締切時点での回答者は 22 名であった。そのため、筆者から地域交流センター運営委員会を通して各学部に「地域交流活動調査の再通知」を依頼し、締切を 8 月 12 日に再設定した。それによって回答者は 62 名 (約 58%) となった。

また、COVID-19 流行の影響をより詳細に把握する目的から、8 月 12 日時点で計画通りまたは延期や未定・検討中であった活動に対し、10 月 8 日～31 日の期間にメールにて追跡調査を行った。調査対象は 38 件の活動で、回答件数は 30 件 (79%) であった。

### 2.1. 活動内容

今回の調査では、全回答者 62 名中、地域交流活動に携わっていると回答したのは 30 名であった。この 30 名から、63 件の地域交流活動の回答を得た。紙幅の都合から、その内容を一つひとつ検討す

することはできないため、詳細は表1を参照されたい。

活動地域としては、東京都での活動が27件と最も多く、埼玉県での活動が12件、その他の道府県での活動が25件となっている。活動区分については、正課活動が19件と最も多く、正課・課外活動11件、正課・教員活動3件、正課・課外・教員活動7件、課外活動4件、課外・教員活動1件、教員活動13件、その他3件、記載なし2件となっている。これを見ると正課を含む活動が40件となっており、跡見学園女子大学における地域交流活動の主流となっていることがわかる。

表1：地域交流活動一覧

|       | 活動名称                                       | 活動概要                    | 活動時期        | 活動区分    |
|-------|--------------------------------------------|-------------------------|-------------|---------|
| 文京・東京 | 1 健康街歩き事業（文京区）                             | 高齢者との世代間交流を通じた街歩きを支援    | 5-11月       | 正課活動    |
|       | 2 まちづくりイベント（モノマチ）のボランティア参加（台東区）            | まちづくりイベントへのボランティア参加     | 5月          | 正課活動    |
|       | 3 一般社団法人やさしい革の約束のサポートメンバー（墨田区）             | 地域活性化、産業活性化のサポート        | 7月          | 正課活動    |
|       | 4 文京区防災フェスタへの出展                            | 防災啓発活動                  | 12月         | 正課活動    |
|       | 5 文京区エリアスタディ（社会調査実習）                       | 社会調査実習にて区内の地域調査         | 通年          | 正課活動    |
|       | 6 小石川マルシェ                                  | 小石川地区商店街によるイベントの運営協力    | 春・秋         | 正課活動    |
|       | 7 観光コミュニティデザイン実践～古民家カフェの企画・運営～（文京区）        | 菊坂跡見塾を活用した地域交流          | 春学期         | 正課活動    |
|       | 8 日本橋の地域活性化（クルーズ船を中心に）                     | 観光資源と活性化に関する調査研究、ガイドの実施 | 秋学期（2019年度） | 正課活動    |
|       | 9 3年生のゼミ（春学期）（文京区）                         | 文京区の観光資源・歴史的建造物等を学ぶ     | 春学期         | 正課活動    |
|       | 10 小石川三丁目居場所づくりプロジェクト                      | 施設の運営、企画立案への参加          | 通年          | 正課・課外活動 |
|       | 11 JTB東京街歩きプロジェクト（大学生と東京街歩き事業）             | 修学旅行向けの企画・開発、ガイドの実施     | 通年          | 正課・課外活動 |
|       | 12 全国ふるさと甲子園（東京都）                          | 産学官連携の地域活性化イベント         | 2月          | 正課・課外活動 |
|       | 13 文京まちたいわ（まちたいわフェス運営）                     | まちづくりイベントの運営協力          | 通年          | 正課・課外活動 |
|       | 14 (仮)ひきこもり相談的家庭教師（文京区）                    | 区内の青少年支援                | 2020年8月～    | 正課・教員活動 |
|       | 15 ハッピーベジタブルフェスタ→地域住民の野菜摂取量を増やすプロジェクト（文京区） | 区民の野菜摂取への関心を深める展示を実施    | 4-12月       | 課外活動    |
|       | 16 文京朝顔・ほおずき市                              | 地域イベントの運営協力             | 7月          | 課外活動    |
|       | 17 B-ぐるバス映像制作プロジェクト（文京区）                   | コミュニティバスの映像制作           | 通年          | 課外活動    |
|       | 18 バレエ公演制作 アートマネジメント講座（文京区）                | 舞台制作関係の人材育成を目的とする講座を開講  | 12月         | 課外・教員活動 |
|       | 19 葛飾区男女平等推進審議会委員                          | 学識経験者としての助言             | 通年          | 教員活動    |
|       | 20 八千代助産院おとわパース「おしゃべりたいむ」（文京区）             | 母子のメンタルヘルスの維持向上         | 通年          | 教員活動    |



|       | 活動名称                 | 活動概要                                | 活動時期                    | 活動区分          |            |
|-------|----------------------|-------------------------------------|-------------------------|---------------|------------|
| 文京・東京 | 21                   | ひきこもり等支援者連絡会(文京区)                   | 区内の青少年支援、NPOとも協働        | 通年            | 教員活動       |
|       | 22                   | 公演前の鑑賞教室(文京区)                       | 舞台鑑賞前の公開講座を開講           | 10、12月        | 教員活動       |
|       | 23                   | バレエを楽しむ基礎知識講座『眠れる森の美女』編(文京区)        | バレエに関する公開講座を開講          | 9～10月         | 教員活動       |
|       | 24                   | 文京アカデミア講座『『協働』時代の地域と大学』             | 地域と大学に関する公開講座を開講        | 11月           | 教員活動       |
|       | 25                   | 文京シビックセンター バレエ衣装展                   | 舞台芸術に関する企画展の企画・実施       | 8-9月          | その他        |
|       | 26                   | 文の京ゆかりの文化人顕彰事業 朗読コンテスト(文京区)         | 文化人を顕彰し、文化的資源を広く発信      | 11月           | その他        |
|       | 27                   | 文の京書道展(文京区)                         | 学生および公開講座受講生などの作品を展示    | 中止            | 記載なし       |
| 新座・埼玉 | 28                   | 埼玉県との協力による企業との課題解決型授業               | 埼玉県との協力による企業とのPBLの実施    | 10～12月        | 正課活動       |
|       | 29                   | 埼玉県中西部地域における方言データベースの構築             | 埼玉県中西部地域の方言調査           | 12～2月         | 正課活動       |
|       | 30                   | 草加市地方創生プロジェクト                       | 地場産業の認知向上をめざしたPBLの実施    | 秋学期(2018年度のみ) | 正課活動       |
|       | 31                   | 新座市プロジェクト                           | 観光イベントの支援や共同事業の実施       | 通年            | 正課・課外活動    |
|       | 32                   | 野火止カフェ実行委員会(新座市)                    | 市民と連携してオープンカフェを開催       | 春・夏・秋         | 正課・教員活動    |
|       | 33                   | 埼玉県赤十字血液センターとの連携事業                  | 献血事業の支援、インターンシップやPBLの実施 | 通年            | 正課・教員活動    |
|       | 34                   | 鳩ヶ谷商工会及び埼玉高速鉄道株式会社との地域連携活動          | 産学連携の地域活性化事業            | 通年            | 正課・課外・教員活動 |
|       | 35                   | 埼玉県新座市社会教育委員                        | 学識経験者としての助言             | 通年            | 教員活動       |
|       | 36                   | 三郷市まちづくり委員会副委員長                     | 学識経験者としての助言             | 通年            | 教員活動       |
|       | 37                   | 三郷市行政不服審査会委員長                       | 学識経験者としての助言             | 通年            | 教員活動       |
| 38    | 角川武蔵野ミュージアムとの連携(所沢市) | 人的・知的資源の交流                          | 記載なし                    | 記載なし          |            |
| その他   | 39                   | 古文書調査                               | 地域に残された歴史資料の整理・調査       | 8月            | 正課活動       |
|       | 40                   | 伊東市観光プロモーション事業への参画、伊東市との包括連携協力(静岡県) | 観光に係わる調査研究              | 通年            | 正課活動       |
|       | 41                   | 山形県西村山郡西川町大井沢地区との連携                 | 集落活動の支援や地域づくりフォーラムへの参加  | 通年            | 正課活動       |
|       | 42                   | 千葉県 いすみ市                            | 観光プランの作成、鉄道イベントを企画実施    | 通年            | 正課活動       |
|       | 43                   | 新潟県 妙高市                             | 観光地づくりを支援               | 通年            | 正課活動       |
|       | 44                   | 長野県との包括協定に基づく事業                     | インターンシップの実施             | 夏季休暇          | 正課活動       |

|     | 活動名称                 | 活動概要                                      | 活動時期                    | 活動区分            |                |
|-----|----------------------|-------------------------------------------|-------------------------|-----------------|----------------|
| その他 | 45                   | 第7回アフリカ開発会議横浜開催関連事業 アフリカン・フェスティバル参加       | 国際交流事業の実態調査             | 4月<br>(2019年のみ) | 正課活動           |
|     | 46                   | 月山志津温泉雪旅籠の灯り(山形県)                         | 温泉集落におけるイベントの運営協力       | 2月              | 正課・課外活動        |
|     | 47                   | 柳川プロジェクト(福岡県・柳川市)                         | 現地および首都圏での連携交流の推進・支援    | 通年              | 正課・課外活動        |
|     | 48                   | 長野原町プロジェクト(長野原高校との高大連携事業等)(群馬県)           | 長野原高校との高大連携事業           | 通年              | 正課・課外活動        |
|     | 49                   | 立山町プロジェクト(立山町休講校舎活用事業等)(富山県)              | 町内の休校校舎のリニューアル、地域活性化支援  | 通年              | 正課・課外活動        |
|     | 50                   | 福島県 会津若松市                                 | インターンシップの実施やイベントの運営協力   | 通年              | 正課・課外活動        |
|     | 51                   | 株式会社ジャルパックと産学連携地域活性化事業                    | 産学連携による地域活性化事業          | 通年              | 正課・課外活動        |
|     | 52                   | 新潟県プロジェクト(新潟プレミアサロン業等)                    | 県の魅力発信事業への協力            | 通年              | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 53                   | 新発田市プロジェクト(食の魅力向上事業等)(新潟県)                | 食の魅力向上事業への協力、観光プランの作成   | 通年              | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 54                   | 北海道南富良野町地域連携活動                            | 教育、まちづくり、観光面での連携事情      | 通年              | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 55                   | 島根県津和野町地域連携活動                             | 行政、地域住民との連携事業           | 通年              | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 56                   | 沖縄県渡嘉敷村地域連携活動                             | 行政、地域住民との連携事情           | 通年              | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 57                   | 岡山県笠岡市・六島まちづくり協議会との地域連携活動                 | まちづくり協議会事業の支援、地域活性化策の提案 | 通年(2020年9月～)    | 正課・課外・<br>教員活動 |
|     | 58                   | 訪日外国人に向けた熱中症啓発プロジェクト(SNS上)                | 熱中症の危険性と予防対策に関する啓発活動    | 4-12月           | 課外活動           |
|     | 59                   | 吉野秀雄卍心忌世話人(神奈川県・鎌倉市)                      | 歌人の顕彰事業の企画・実施           | 不定期             | 教員活動           |
|     | 60                   | 伊東市史編さん専門委員として市史の編纂に携わる(静岡県)              | 地域史の編纂                  | 通年              | 教員活動           |
| 61  | 百人一首検定の問題監修          | 検定の問題を監修                                  | 記載なし                    | 教員活動            |                |
| 62  | 地区防災計画作成、訓練等協力       | 北海道、福島県、千葉県、島根県、高知県、沖縄県各地で防災計画作成支援、訓練への協力 | 通年                      | 教員活動            |                |
| 63  | 東伊豆町の観光による地域活性化(静岡県) | 地域資源調査、イベントの運営協力                          | 秋学期<br>(2019年度のみ)       | その他             |                |

## 2.2. 要望事項

要望事項は、「大学または地域交流センターへの要望」、「その他(ご意見、地域交流活動計画案、今後の活動計画・アイデア等)」として自由記述を依頼し回答いただいた57件の内容から集計した。その内容は多岐にわたるが、財政的支援の要望が7件、参加学生募集支援の要望が3件と意見が集中した。

財政的支援については、「学生の交通費支給の制度を確立してほしい」、「新座市内での活動なので、3、4年生に手伝ってもらいたいにくい」という参加学生への交通費支給に関するものであった。また、「事業の事前打ち合わせなどの旅費を教員個人の授業運営費、個人研究費で賄っているが、財政的支援をお願い

ほしい] や「たとえば跡見のセミナーハウスのある北軽井沢に関する研究などで出張がある場合、遠方で交通費が高額になるときは、センターからの一部助成があったらよいかも（全額や日当までは多すぎるので、気持ち程度でも）」というように、地域交流活動に伴う教員の活動に対する財政的支援の要望もあった。

参加学生募集支援については、「(活動が) 1つのゼミで抱え込める規模ではなくなりつつあり (中略) 参加学生の募集について (中略) 相談させていただきたい」や「興味のある学生がいたら紹介していただきたい」という内容のものであった。

その他にも、「『地域交流関連活動』とは、何を意味するのか、よくわからない。このアンケートの趣旨もよくわからない。なぜ、教員全員から毎年聞く必要があるのか。データを取って公表することで、何をしようとしているのか」や「跡見のセンターが実際に目指す方向性を示して欲しい」という、今回の調査の意義や地域交流センターの指針を根本から問う回答もいただいた。

### 3. COVID-19 流行による地域交流活動への影響

#### 3.1. COVID-19 流行下での地域交流活動の実施状況

今回の調査により2020年8月19日時点で確認された63件の地域交流活動の内、計画通りに実施されているものが5件、延期や未定・検討中のものが33件、オンライン化等別の手段により実施・実施予定のものが13件、中止となったものが10件であった。予想していたことではあるが、COVID-19の流行は地域交流活動の実施に大きな影響を与えたことが改めて確認できた。各活動への影響についての詳細は表2を参照されたい。

表2：地域交流活動へのCOVID-19流行による影響 (2020年8月19日時点)

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
|  | =計画通り 5件 (約8%)                    |
|  | =延期や未定・検討中 33件 (約52%)             |
|  | =オンライン化等別の手段により実施・実施予定 13件 (約21%) |
|  | =中止 10件 (約16%)                    |
|  | =その他 2件 (約3%)                     |

|       |   | 今年度の実施状況・計画の変更について                  | COVID-19流行の影響を受け直面する問題                                     | COVID-19流行により今後予想される問題                                                                                   |
|-------|---|-------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文京・東京 | 1 | 中止                                  | 高齢者の外出を促すことになる事業であるため、この状況では中止にせざるを得ない。                    | 事業の性質上、流行が収まらない限りは、再開は難しい。                                                                               |
|       | 2 | 今年はイベントそのものが中止になった (当初は延期、後に中止)。    | ほとんどの2年生にとっては、初めての学外ボランティアの機会だったので、社会とのつながりの第一歩が無くなってしまった。 | 秋への延期を期待していたが、無くなってしまった。中小企業論を学ぶ学生にとっては、モノづくりの現場を見学したり、まちづくりイベントの裏方の仕事を知る機会が失われたので、今後の指導でどのようにフォローするか課題。 |
|       | 3 | 当初は春休みに動画作成のサポート等を行う予定であったが、延期になった。 | 地域の自治体、革製品の流通などの動きが鈍くなったり止まったりしたため、春に始動するはずだったが、まだ何もしていない。 | 地方の見学、工場見学などが行けなくなった。ゼミ生は革小物の商品開発や販売を楽しみにしていたが、今年度はできるのか不明。                                              |

|       | 今年度の実施状況・計画の変更について                                                                                 | COVID-19流行の影響を受け直面する問題                                                                                                                                                     | COVID-19流行により今後予想される問題                                                                                          |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文京・東京 | 4 春学期の3年ゼミにおいて、何をテーマに調査研究をして、どのような形で成果発表をするか討論をした。役割分担や具体的な作業は、夏休み中の自主的なゼミ活動及び秋学期のゼミ活動にて実施する予定である。 | 令和2年12月6日(日曜日)に実施が延期された。夏開催が冬開催となったため、来場者の暑さ対策を寒さ対策へ変更する、研究テーマも冬の防災に関連する者へ変更するという必要がある。また全体的な来場者数が減ること、来場者の属性が変化すること(これまででは高齢者や乳幼児連れの母親の来場が多かった)が予想されるので、研究の対象者も変更する必要がある。 | 主催者側から企画の詳細が発表されておらず、再度延期あるいは中止となる可能性もある。そのリスクマネジメントについてもゼミで議論し、ゼミ専用のSNSを作って情報発信することを予定している。                    |
|       | 5 過去3回の文京区エリアスタディでは、質問紙調査とインタビュー調査を両方実施したが、今年度は、対面式のインタビュー調査を実施しない方向で計画している。                       | 地域の関係者との連携が取りにくいこと。                                                                                                                                                        | 地域の関係者に対する成果フィードバックの機会が損なわれること。                                                                                 |
|       | 6 今年度は春・秋ともに中止が決定                                                                                  | イベントが実施できなくなった                                                                                                                                                             | 人的なつながりの先輩から後輩への継承ができなくなる。                                                                                      |
|       | 7 今年は、コロナ禍のため春の開催は中止、次は、秋学期開催を予定していたが、コロナの感染拡大により、今年度は授業を開催せず。                                     | 授業そのものが春・秋学期とも開催できなかった。                                                                                                                                                    | コロナの感染状況次第                                                                                                      |
|       | 8 日本橋発着のクルーズ船でのガイド体験が中止となり、街歩きもできず、地域活性化のゼミでの研究ができない状態となった。                                        | クルージングが4月から休止となり、フィールドワークも中止となっている。                                                                                                                                        | 学生を連れて歩くリスクがなくなったならば、すぐに日本橋活性化のための活動をクルージング中心に行いたいが、どこまでクルージング会社がコロナ禍で持ちこたえるかが心配である。それ以外にも、お世話になっている日本橋三越なども心配。 |
|       | 9 2020年度も文京区の知られざる観光資源の発掘のためのウェブリサーチや、コロナウィルスの感染拡大予防のため、Googleマップのストリートビュー機能で文京区の町歩きを学生と一緒にいった。    | 記載なし                                                                                                                                                                       | 記載なし                                                                                                            |
|       | 10 オンラインでの定期的な企画会議の実施。コロナ禍収束後、施設を使ったイベントの企画運営。                                                     | 現在、オンライン会議を重ね学生がイベントの企画等を考えている。次の段階で、企画の実施ということになるが、コロナ流行により実施の目途がたっていない                                                                                                   | このまま収束が遅れると、企画を立てた学生が就職活動等に入ってしまい、その実施が難しくなる。                                                                   |
|       | 11 コロナ禍により今年度来校予定の3校の修学旅行が延期。                                                                      | 修学旅行の実施ができない状況が続いているので事業の実施の目処が立たない。                                                                                                                                       | 2・3年生が中心の活動なのでこのまま今年度実施ができないと下の学年に経験を引き継ぐことができない。1年生を含めた現地講習会が実施できない。                                           |
|       | 12 今年度は8月22日(土)(例年8月第4土曜日)開催予定だったがコロナ禍の影響で規模を縮小して来年2月17日(木)に延期となった。                                | ゼミ及びサークルの学外活動が原則自粛が継続されると企画会議などの学外での打合せにも参加ができなくて準備が遅れることが予想される。                                                                                                           | 3密回避により例年通り学生が約160名参画することは困難。                                                                                   |
|       | 13 8月サマーフェスはオンラインで実施となった。ただし、学生の参加の予定はない。2月のフェスについては、まだ未検討。                                        | 打合せやイベントがオンライン中心となり、なかなか学生が参加しにくい形になっている。実際、現在のところ、学生が参加できていない。                                                                                                            | 2月のイベントに向けては、企画運営への学生参加を呼び掛ける予定だが、オンラインでどこまで状況を学生に伝え、学生にとって学びの多い場にできるかが不透明である。                                  |
|       | 14 現在、実施を模索している段階である。ただし、検討の過程が学生の学びになると思われる。                                                      | 検討はオンラインでも可能である。支援活動もオンラインで行う可能性があり、その方法をこれから検討していく。                                                                                                                       | 学習支援をツールとした支援活動だが、対面して実施することが困難になる可能性がある。                                                                       |

|       | 今年度の実施状況・計画の変更について                                                                                                                                                                        | COVID-19流行の影響を受け直面する問題                                                         | COVID-19流行により今後予想される問題                                                                                                      |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 文京・東京 | 15 今年も野菜摂取量を増やしてもらうためのポスターを作成し、文京区役所や地域のスーパーなどに展示してもらおう予定（夏&秋冬の2回）。（当初参加予定していたイベントは中止となった）                                                                                                | イベントが中止となり、それまで準備を進めていた内容が実施できなくなった。                                           | すでにポスター案やレシビはできているので、区役所を始め大学近隣のスーパーなどにポスター展示交渉を行う。                                                                         |
|       | 16 今年度も実施を予定していたがコロナ流行により中止となった。                                                                                                                                                          | 例年、福島復興支援の意味を込めて会津の特産品を使った飲食物の販売と地域のPRを行ってきたが、そうした活動の場が失われた。                   | 1・2年生主体の活動であり、前年度に参加経験のある2年生が前年度のイメージや反省点をもとに運営や出店について検討を行ってきたが、今年度中止になったことで、来年度にこの形がとれなくなった。来年度、例年以上のフォローが必要になることが想定されている。 |
|       | 17 プロが仕上げをすることもあり、非常に高品質の作品ができている。また、B-ぐる沿線協議会が運営しているB-ぐるチャンネル（youtube）でも一般公開されている。今年度から茗荷谷キャンパス1階モニターでも公開されるようになったが、更に大学として映像の活用（オープンキャンパス等）を検討頂きたい。                                     | 今年度は1作目作成の時期（6月～9月）に取材等の活動ができず、昨年度までのものを再編集した総集編で対応した。2作目以降、どのような内容が可能かを現在検討中。 | 取材等の実施が困難なこと、取材後の編集作業をグループでできないことにより、作品の制作、編集技術等の先輩から後輩への継承が難しくなることが予想され、来年度以降の活動に課題を残すことになることが懸念されている。                     |
|       | 18 この講座は、毎年、跡見学園女子大学学生対象の講座と、一般対象講座の2種類を実施しており、本年度は10月に跡見学園女子大学対象講座を実施する予定であった。しかし、コロナ感染症流行の影響を受け、開催がほぼ不可能。現時点では、一般希望者と合わせて12月に実施し、講座内容も現場での講座はなくし、オンラインでの講義だけにする予定。開催自体の中止もしくは延期の可能性もある。 | 文京シビックホールの実際の公演について、準備から開演までの仕事を順を追って体験できる講座であったが、現場に集まっていた講座は不可能となった。         | 記載なし                                                                                                                        |
|       | 19 リモート会議の開催                                                                                                                                                                              | リモート会議の開催が実施又は計画                                                               | 特になし                                                                                                                        |
|       | 20 2020年3月より新型コロナウイルス感染拡大予防のため休止中。状況の改善をみて、再開予定。                                                                                                                                          | 対面でのグループディスカッションの実施が難しい                                                        | 対面での実施が難しいので、別の方法（遠隔会議の利用など）による支援を検討する必要が生じる                                                                                |
|       | 21 コロナの状況となり、連絡会は休止中であるが、オンライン開催を検討している。                                                                                                                                                  | 予定していた連絡会が中止となった。しかし、再開予定である。                                                  | ひきこもり支援の活動自体が制約を受ける。ただし、活動は再開されている。連絡会のオンライン開催は、ネットワークの機能が低下することが予想されるが、効果的な開催を模索することができる。                                  |
|       | 22 文京シビックホール主催のパレエ公演については、本年度すべての公演前講座を担当する予定であったが、3月以降現在までの公演がすべて中止となったため、講座も中止された。上記2講座については現時点では実施の予定だが、中止もしくは延期の可能性もある。                                                               | 記載なし                                                                           | 記載なし                                                                                                                        |
|       | 23 現時点では開催の予定であるが、中止もしくは延期も検討されている。                                                                                                                                                       | 記載なし                                                                           | 記載なし                                                                                                                        |
|       | 24 11月に開講予定。主催者によって講座内容を紹介するパンフレットが作成され広報されている状況。                                                                                                                                         | 主催者のガイドラインに沿った会場準備、対策が課せられている。                                                 | 開講会場が文京キャンパスとなっており、秋学期以降キャンパスが開放されない場合、講座が中止、オンラインでの開催となるのか等先が見通せない状況である。                                                   |



|                                                                                                          | 今年度の実施状況・計画の変更について                                                                                                                   | COVID-19流行の影響を受け直面する問題                                                                   | COVID-19流行により今後予想される問題                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                          | 25 本来は、本学学生有志（主に川島ゼミ生）を募り、企画・設営・当日解説などを体験させるよう企画していたが、開催方法がまだ確定していないため、募集ができないままになっている。おそらく、教員のみ参加となる。また、この展示会の開催自体も中止もしくは延期の可能性がある。 | イベントの企画から開催までの現場を体験するよい機会であったが、学生を集めることができないため実施はほぼ不可能。                                  | 記載なし                                                                                              |
|                                                                                                          | 26 現状としては例年通りの実施に向けて準備を進めている。                                                                                                        | 感染予防対策として、観覧者数制限などの措置を講ずる必要がある。                                                          | コロナの感染状況によっては、開催中止もあり得る。                                                                          |
|                                                                                                          | 27 本年度は中止。                                                                                                                           | 今後、新型コロナウイルスの感染が終息し、次年度、開催できることを願っている。                                                   | 記載なし                                                                                              |
| 新座・埼玉                                                                                                    | 28 2020年10月に企業から課題出しを行い、中間発表を経て、12月に最終発表を行う予定。                                                                                       | 対面授業を希望しているが、無理な場合には遠隔授業で行う。                                                             | 上記の通り                                                                                             |
|                                                                                                          | 29 当初、夏季休暇期間に現地でのゼミ合宿を兼ねたフィールドワーク調査を行う予定で調整を進めていたが、コロナ感染拡大の状況を受け、冬期以降の実施で、現地機関と調整を行っている。                                             | 現地フィールドワーク（言語調査。その土地生え抜きの高齢者へ面接調を実施し、その土地の方言の生データを得る取り組み）の実施が困難になること。                    | 対面での面接調査がこの先困難になった場合、オンラインでの調査も視野に入れざるを得ない。その際の学生のオンライン調査の実施会場と機材、学生調査員のサポートについて、どのようにするか、検討している。 |
|                                                                                                          | 30 産学連携を中心に行っており地域交流活動は本件1件のみです。                                                                                                     | 地域交流活動の予定はございません                                                                         | 地域交流活動の予定はございません                                                                                  |
|                                                                                                          | 31 コロナ禍により各プロジェクトの活動が休止状況。                                                                                                           | ゼミの学外活動が原則自粛が継続されると企画会議などの学外での打合せにも参加ができなくて連携協力に支障がでることが予想される。                           | 新座プロジェクトは2年生が主体であるが1年間活動ができない場合、下の学年への引き継ぎ等ができなくなりプロジェクトの継続性に著しく支障がでることが予想される。                    |
|                                                                                                          | 32 今年は、コロナ禍のため春の開催は中止、次は、12月開催を予定しているが、コロナの感染状況を見ながら決定。                                                                              | 打ち合わせも三密を避けながら、開催頻度を下げている。春の開催は中止となった。                                                   | 次回も開催自体ができない可能性がある。                                                                               |
|                                                                                                          | 33 ①検診医が不足する場合の応援等は適宜実施、②埼玉県赤十字血液センター所長を招聘し開講するPBLはon-line授業となったため実施困難、③インターシップは大学として本年度の中止決定                                        | ①は医師確保が一層困難となっているため、支援要請の頻度が増加、②はon-line授業でも実施可能な内容をセンター側と協議、③は大学側の方針次第（センター側は受け入れ可能の方針） | 上記の通り                                                                                             |
|                                                                                                          | 34 現地での活動を延期                                                                                                                         | 現地への移動、現地での活動の自粛                                                                         | 現地で行う具体的な地域連携活動の延期                                                                                |
|                                                                                                          | 35 新型コロナウイルスのために委員会の開催が未定                                                                                                            | 委員会が開けない                                                                                 | 委員会が開けない                                                                                          |
|                                                                                                          | 36 リモート会議の開催                                                                                                                         | リモート会議の開催が実施又は計画                                                                         | 特になし                                                                                              |
|                                                                                                          | 37 リモート会議の開催                                                                                                                         | リモート会議の開催が実施又は計画                                                                         | 特になし                                                                                              |
| 38 富川淳子教授を中心に、現代文化表現学科の複数の教員が角川文化振興財団と会合の場を設けてきた。教授会等でも報告されている通り、地域交流センターと財団との間で協定を結ぶに至った。具体的な活動はまだこれから。 | 記載なし                                                                                                                                 | 学生を派遣するなど具体的な交流を計画・実施するにあたっての、可否そのものを含めた対応。                                              |                                                                                                   |

|     | 今年度の実施状況・計画の変更について | COVID-19 流行の影響を受け直面する問題                                                                                                                                                                                                | COVID-19 流行により今後予想される問題                                                                                        |                                                                                                                              |
|-----|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| その他 | 39                 | コロナの感染状況を踏まえて、実施は断念した。                                                                                                                                                                                                 | 実施は断念せざるを得ない。                                                                                                  | 調査自体の継続、存続が危ぶまれる。                                                                                                            |
|     | 40                 | 今年度の伊東市での調査研究は5月頃から着手する予定であったが、実現できなかった。秋学期中に何らかの形でスタートしたいが、状況次第。伊東市との包括連携協力協定の締結に関しては、伊東市からの連絡待ちの状況(3月に大学側の起案決済は済んでいる)。4月以降のコロナ禍拡大を受けて、伊東市側から「協定締結は時期を見たい」との連絡あり。伊東市観光プロモーション事業の主体であるJTB静岡支店と㈱カラーコードからの連絡待ちの状態が続いている。 | 調査研究を本ゼミに依頼してきたプロモーション事業者側が、先を見通せない状況にあるため、当方としては動きようがない状態が続いている。                                              | 観光プロモーション事業自体の計画が大幅に見直されることも考えられる。その場合は、ゼミへの協力要請自体が反故となる可能性もあるだろう。                                                           |
|     | 41                 | 今年度は8月までの企画がすべて中止。9月以降は、今後の状況を踏まえ実施の可否を判断する                                                                                                                                                                            | 遠隔地での宿泊を伴う活動のため、再開の目処がなかなかたっていない                                                                               | 都市部と異なるコミュニティと関わる機会が喪失され、ゼミでの研究教育活動に支障がきたされている。                                                                              |
|     | 42                 | コロナで見合わせ中                                                                                                                                                                                                              | 観光産業の衰退が著しいため、教員の知見を投入し同市長と新たな観光地の受入体制整備を支援している。                                                               | 地域医療を巻き込んだ日本版観光DMOの構築支援                                                                                                      |
|     | 43                 | コロナで見合わせ中                                                                                                                                                                                                              | 観光産業の衰退が著しいため、教員の知見を投入し同市長と新たな観光地の受入体制整備を支援している。                                                               | 地域医療を巻き込んだ日本版観光DMOの構築支援                                                                                                      |
|     | 44                 | コロナウィルスのためすべて中止。                                                                                                                                                                                                       | 実施できないこと。                                                                                                      | 次年度以降の実施可否が不明のため、計画策定ができない。                                                                                                  |
|     | 45                 | (2019年度のみ) 単年度事業                                                                                                                                                                                                       | 記載なし                                                                                                           | 記載なし                                                                                                                         |
|     | 46                 | まだ確定ではないが、既に規模縮小または中止の可能性があることが、実行委員会から伝えられている。民宿・旅館に学生が集団で宿泊して作業を行うイベントなので、現状ではかなり実施が厳しい見通しとなっている。                                                                                                                    | これまでの交流で培われ先輩から後輩へと継承されてきた地域の方や他大の学生との関係が、中止によって一旦失われてしまう可能性がある。また、制作技術等の継承も困難になることから、次年度以降の活動への支障が出ることが懸念される。 | 取材等の実施が困難なこと、取材後の編集作業をグループでできないことにより、作品の制作、編集技術等の先輩から後輩への継承が難しくなることが予想され、来年度以降の活動に課題を残すことになることが懸念されている。                      |
|     | 47                 | コロナ禍により今年度の活動時期が未定。                                                                                                                                                                                                    | コロナ禍により包括協定の協議がストップしている状況なので双方の状況を確認してどこかのタイミングがこれを再開させる必要がある。                                                 | 3年ゼミ生が現地フィールドワークを行い下の学年に引き継いでいくサイクルで活動を継続してきたがそれができない状況が続くと事業の継続性に支障が出てくることになる。                                              |
|     | 48                 | 今年度に関してはコロナ禍により活動が未定。                                                                                                                                                                                                  | 今年度の活動はコロナ禍により実施未定。再開の目処が立たない。で現地フィールドワークの実施等の判断。                                                              | 現地フィールドワークの実施等の判断が困難。                                                                                                        |
|     | 49                 | 今年度に関してはコロナ禍もあり未定。                                                                                                                                                                                                     | 今年度の活動はコロナ禍で未定だが現地フィールドワークの実施等の判断。                                                                             | 学外活動の実施判断。                                                                                                                   |
|     | 50                 | コロナで見合わせ中であるが、状況を見て恒例となっている、学生企画による100名程度の会津若松市への視察ツアーを実施する予定。                                                                                                                                                         | 観光産業の衰退が著しいため、教員の知見を投入し同市長と新たな観光地の受入体制整備を支援している。                                                               | 地域医療を巻き込んだ日本版観光DMOの構築支援                                                                                                      |
|     | 51                 | コロナで見合わせ中                                                                                                                                                                                                              | 観光産業の衰退が著しいため何を支援できるか検討中                                                                                       | JAL本体と連携した地域医療を巻き込んだ日本版観光DMOの構築支援                                                                                            |
|     | 52                 | 今年度に関してはコロナ禍により開催が延期中。                                                                                                                                                                                                 | 今年度の活動はコロナ禍により実施未定。再開の目処が立たない。                                                                                 | 2・3年生主体の活動であり、前年度に参加経験のある3年生が前年度のイメージや反省点をもとに運営支援について検討を行ってきたが、今年度は年度当初から延期になっており、開催の目処がたっていない。今後、例年以上のフォローが必要になることが想定されている。 |

|     | 今年度の実施状況・計画の変更について                                                                                                                                                     | COVID-19流行の影響を受け直面する問題                                                                                            | COVID-19流行により今後予想される問題                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| その他 | 53 今年度に関してはコロナ禍により事業が延期中。                                                                                                                                              | 今年度の活動はコロナ禍により実施に関して再調整中。                                                                                         | 現地フィールドワーク等の実施時期の決定に関して2・3年生主体の活動であり、前年度に参加経験のある3年生が前年度のイメージや反省点をもとに運営支援について検討を行ってきたが、今年度は年度当初から延期になっており、開催の目処がたっていない。今後、例年以上のフォローが必要になることが想定されている。                         |
|     | 54 現地での活動を延期                                                                                                                                                           | 現地への移動、現地での活動の自粛                                                                                                  | 現地で行う具体の地域連携活動の延期                                                                                                                                                           |
|     | 55 現地での活動を延期                                                                                                                                                           | 現地への移動、現地での活動の自粛                                                                                                  | 現地で行う具体の地域連携活動の延期                                                                                                                                                           |
|     | 56 現地での活動を延期                                                                                                                                                           | 現地への移動、現地での活動の自粛                                                                                                  | 現地で行う具体の地域連携活動の延期                                                                                                                                                           |
|     | 57 六島小学校 YouTuber クラブとの交流を行いつつ、まちづくり協議会事業の支援や、地域活性化方策の企画・提案を行う予定                                                                                                       | 現地への移動、現地での活動の受け入れ（地域住民の意識）                                                                                       | 記載なし                                                                                                                                                                        |
|     | 58 昨年は浴衣を着た学生が浜離宮恩賜庭園に訪れる外国人に向けて対面で熱中症啓発活動を行ったが、今年は中止。その代わりに、熱中症の症状や対処法、予防法などを分かりやすく説明した英語&日本語版の動画&4コマ漫画を作成し、すでにSNS（Instagram, Twitter, Facebook, YouTube等）上で発信を始めている。 | 大学で顔を合わせて活動ができないことから、学生同士の意思疎通が難しく、活動負担に偏りが生じている。                                                                 | オンラインでは共同作業ができず、対面で打ち合わせる時間も限られるため、学生は不便さやジレンマを強く感じている。そのため、これまでどおりのモチベーションが維持できず、活動継続が難しくなってくる。                                                                            |
|     | 59 新型コロナウイルスのために講演会が中止、世話人会はメール会議                                                                                                                                      | 講演会が中止、世話人会もメール、電話でのやり取りのみ。                                                                                       | 講演会開催の目途が立たない。                                                                                                                                                              |
|     | 60 伊東市教育委員会の判断による。                                                                                                                                                     | 伊東市教育委員会の判断による。                                                                                                   | 伊東市教育委員会の判断による。                                                                                                                                                             |
|     | 61 コロナで検定を行うことができなくなり、すべてストップ                                                                                                                                          | 記載なし                                                                                                              | 記載なし                                                                                                                                                                        |
|     | 62 7月まではすべて延期。8月以降、日程調整中                                                                                                                                               | 8月以降のスケジュールが厳しく、十分な支援ができない。                                                                                       | ワークショップや大人数の訓練がしにくい。                                                                                                                                                        |
|     | 63 今年度は春学期から現地調査等を行う予定だったが、大学の要請もあり中止となっている。秋学期以降も未定。                                                                                                                  | 東京からのGO TO キャンペーンも中止となり、東伊豆の観光は大打撃を受けている。学生たちの協力もできず、今後の見通しが立たない。今年度から「基礎ゼミナール」の学外実習先の一つにすることになっていたが、コロナでかなわなかった。 | 新型コロナウイルス危機が収束してもすぐに観光客が来るわけではなく、東伊豆町の旅館等の観光産業は引き続き厳しい状況に陥るだろう。安全とストレスの解消をアピールしていくしかない。また、静岡県民の県外車への攻撃など、県内でコロナ差別が出ているようなので、今後はこのような差別を絶対に容認しないなどの対策をとることが観光客を呼びには必須と考えられる。 |

### 3.2. 追跡調査の結果について

表2において計画通りに実施されていた5件の活動の内、追跡調査により24番の活動が中止となっていたことがわかった。また、延期や未定・検討中であった33件の活動の内、3、14、35、38、42、46、50、51、60番の9件が引き続き活動を延期や未定・検討中、4、21、29、32、34、40、43、54、55、56、62、63番の12件がなんらかの形で活動を再開していることがわかった。その詳細は表3を参照されたい。

表3：追跡調査の結果（2020年10月31日時点）

|  |                |
|--|----------------|
|  | =計画通り 4件       |
|  | =延期や未定・検討中 9件  |
|  | =なんらかの形で再開 12件 |
|  | =中止 4件         |
|  | =未回答 9件        |

|                                | 活動名称                                   | 2020年10月末時点での状況                                                    |
|--------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 文京・東京                          | 3 一般社団法人やさしい革の約束のサポートメンバー（墨田区）         | その後大きな動きはなく、学生が積極的に関わる活動は行えておりません。学生が関わる活動は休止中。                    |
|                                | 4 文京区防災フェスタへの出展                        | 文京区防災フェスタは中止。ゼミ生のこれまでの準備を無駄にしないためにゼミのSNSを開設しそこで調査研究成果を発信していくこととした。 |
|                                | 11 JTB東京街歩きプロジェクト（大学生と東京街歩き事業）         |                                                                    |
|                                | 12 全国ふるさと甲子園（東京都）                      |                                                                    |
|                                | 14 (仮) ひきこもり相談的家庭教師（文京区）               | 実施に向けて調整中                                                          |
|                                | 18 バレエ公演制作 アートマネジメント講座（文京区）            | 中止                                                                 |
|                                | 20 八千代助産院おとわパース 「おしゃべりたいむ」（文京区）        |                                                                    |
|                                | 21 ひきこもり等支援者連絡会（文京区）                   | 9月から再開。次回も11月に予定。                                                  |
|                                | 22 公演前の鑑賞教室（文京区）                       | 予定通り実施                                                             |
|                                | 23 バレエを楽しむ基礎知識講座 『眠れる森の美女』編（文京区）       | 予定通り実施                                                             |
|                                | 24 文京アカデミア講座「『協働』時代の地域と大学」             | 8月に中止が決定                                                           |
|                                | 25 文京シビックセンター バレエ衣装展                   | 中止                                                                 |
| 26 文の京ゆかりの文化人顕彰事業 朗読コンテスト（文京区） | 観客を制限し、コロナ対策を施した上で実施。                  |                                                                    |
| 新座・埼玉                          | 28 埼玉県との協力による企業との課題解決型授業               | 10月15日から開始。                                                        |
|                                | 29 埼玉県中西部地域における方言データベースの構築             | ゼミでの現地訪問調査は断念。教員のみでの現地訪問調査実施を検討。今年度は現地期間との公的な交流は断念する。              |
|                                | 31 新座市プロジェクト                           |                                                                    |
|                                | 32 野火止カフェ実行委員会（新座市）                    | 12月5日（土）、6日（日）に開催する予定。今年度はゼミ学生への参加呼びかけは行わない。                       |
|                                | 34 鳩ヶ谷商工会及び埼玉高速鉄道株式会社との地域連携活動          | 徐々に動き始めたが、実質的には実際の現地活動に向けて準備中。                                     |
|                                | 35 埼玉県新座市社会教育委員                        | 委員会開催は依然として未定のまま。                                                  |
|                                | 38 角川武蔵野ミュージアムとの連携（所沢市）                | 11月6日にグランドオープンするが、活動としては具体的には動き出していない。                             |
| その他                            | 40 伊東市観光プロモーション事業への参画、伊東市との包括連携協力（静岡県） | 再開。協定締結に向けて動いており、締結後ゼミとしての参画を開始する。                                 |
|                                | 41 山形県西村山郡西川町大井沢地区との連携                 | 再開の目的がたたないため中止。今年度に現地に向かうのは厳しい。                                    |
|                                | 42 千葉県 いすみ市                            | 見合わせ継続                                                             |
|                                | 43 新潟県 妙高市                             | ZOOM会議にて実施                                                         |
|                                | 46 月山志津温泉雪旅籠の灯り（山形県）                   | 例年通りの形では難しいとの連絡。恐らく中止。                                             |
|                                | 47 柳川プロジェクト（福岡県・柳川市）                   |                                                                    |
|                                | 48 長野原町プロジェクト（長野原高校との高大連携事業等）（群馬県）     |                                                                    |
|                                | 49 立山町プロジェクト（立山町休講校舎活用事業等）（富山県）        |                                                                    |
|                                | 50 福島県 会津若松市                           | 見合わせ継続                                                             |
|                                | 51 株式会社ジャルパックと産学連携地域活性化事業              | 見合わせ継続                                                             |
| 52 新潟県プロジェクト（新潟プレミアサロン業等）      |                                        |                                                                    |

|    |                              |                                                                                                                                                                  |
|----|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 53 | 新発田市プロジェクト（食の魅力向上事業等）（新潟県）   |                                                                                                                                                                  |
| 54 | 北海道南富良野町地域連携活動               | 徐々に動き始めたが、実質的には実際の現地活動に向けて準備中。                                                                                                                                   |
| 55 | 島根県津和野町地域連携活動                | 徐々に動き始めたが、実質的には実際の現地活動に向けて準備中。Instagramでの地域情報発信支援を展開。                                                                                                            |
| 56 | 沖縄県渡嘉敷村地域連携活動                | 徐々に動き始めたが、実質的には実際の現地活動に向けて準備中。                                                                                                                                   |
| 60 | 伊東市史編さん専門委員として市史の編纂に携わる（静岡県） | 伊東市教育委員会よりの連絡など全くありません。                                                                                                                                          |
| 62 | 地区防災計画作成、訓練等協力               | 10月から再開。リモートでの支援活動も実施。                                                                                                                                           |
| 63 | 東伊豆町の観光による地域活性化（静岡県）         | 秋学期より再開。①オンラインでの2週に1回程度の東伊豆町勉強会（昼休み）、②オンラインでの雛のつるし飾り製作会、③百貨店（池袋西武百貨店等）での東伊豆町PRのお手伝い、④オンラインでの女性の人材育成交流会、⑤他女子大学（昭和女子大をはじめ共立女子大学、駒沢女子大学など）の学生さんたちとオンラインでの交流会の実施を検討。 |

## 4. まとめ

### 4.1. 跡見学園女子大学における「地域交流活動」

今回の調査によって63件の地域交流活動が確認された。だが、金子氏が課題として指摘したさらなる活動の掘り起こしについては、2019年度の調査では回答者63名、活動件数は83件であったのに対し、今回の調査では回答者62名、活動件数は63件となり回答者数と活動件数どちらも減少している。これは調査方法の問題とも、ある程度活動の掘り起こしが完了したからとも考えることができるが、金子氏の指摘は依然として課題として残ることとなった。

また、今回の調査の回答者62名中、地域交流活動に携わっているという回答者は30名（約48%）であり、そのなかには一人で8件の活動を回答した教員も確認できた。このような傾向が、跡見学園女子大学における「地域交流活動」の一つの特徴となっているとも考えられる。

そして、次の表4は、今回の調査で得られた地域交流活動を学生も活動する学生参加型と教員のみで活動している教員限定型に区分し、さらにそれを他団体との協同である協同活動型と自主的な活動である自主活動型に分類したものである。この分類によってわかるのは、跡見学園女子大学においては学生参加型で協同活動型のものが「地域交流活動」と広く認識されているということである。だが分類においては、教員限定型で自主活動型に分類される範囲が空白となっている。これは、各教員の個人的な活動や調査・研究活動が「地域交流活動」とは認識されていないことを示している。だが、各教員の「地域交流活動」は、それぞれが行ってきた調査・研究活動と関連しているものであると考えられる。そのため、この空白には実際には各教員が行ってきた調査・研究活動が「地域交流活動」の源泉として存在していると考えられる。



表4：地域交流活動の分類

|             |                     | 学生参加型 (48件)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教員限定型 (15件)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協同活動型 (54件) | 行政協同型 (37件)         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●草加市地方創生プロジェクト</li> <li>●健康街歩き事業</li> <li>●埼玉県の協力による企業との課題解決型授業</li> <li>●ハッピーベジタブルフェスタ→地域住民の野菜摂取量を増やすプロジェクト (文京区主催イベントへの出展)</li> <li>●文京区防災フェスタへの出展</li> <li>●文の京 書道展 (学生希望者が出展)</li> <li>●文京シビックセンター パレエ衣装展</li> <li>●パレエ公演制作 アートマネジメント講座</li> <li>●伊東市観光プロモーション事業への参画、伊東市との包括連携協力</li> <li>●北海道南富良野町地域連携活動</li> <li>●島根県津和野町地域連携活動</li> <li>●沖縄県渡嘉敷村地域連携活動</li> <li>●鳩ヶ谷商工会及び埼玉高速鉄道株式会社との地域連携活動</li> <li>●月山志津温泉雪籠の灯り</li> <li>●山形県西村山郡西川町大井沢地区との連携</li> <li>●東伊豆町の観光による地域活性化</li> <li>●福島県 会津若松市</li> <li>●千葉県 いすみ市</li> <li>●新潟県 妙高市</li> <li>●新発田市プロジェクト (食の魅力向上事業等)</li> <li>●柳川プロジェクト</li> <li>●新潟県プロジェクト (新潟プレミアサロン業等)</li> <li>●長野原町プロジェクト (長野原高校との高大連携事業等)</li> <li>●立山町プロジェクト (立山町休講校舎活用事業等)</li> <li>●新座市プロジェクト</li> <li>●長野県との包括協定に基づく事業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●三郷市まちづくり委員会副委員長</li> <li>●三郷市行政不服審査会委員長</li> <li>●葛飾区男女平等推進協議会委員</li> <li>●伊東市史編さん専門委員として市史の編纂に携わる。</li> <li>●文の京ゆかりの文化人顕彰事業 朗読コンテスト</li> <li>●埼玉県新座市社会教育委員</li> <li>●公演前の鑑賞教室</li> <li>●パレエを楽しむ基礎知識講座 『眠れる森の美女』編</li> <li>●地区防災計画作成、訓練等協力</li> <li>●文京アカデミア講座『協働』時代の地域と大学</li> <li>●ひきこもり等支援者連絡会</li> </ul> |
|             | 企業・NPO等各種団体協同型 (7件) | <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりイベント (モノマチ) のボランティア参加</li> <li>●一般社団法人やさしい革の約束 のサポートメンバー</li> <li>●埼玉県赤十字血液センターとの連携事業</li> <li>●(仮) ひきこもり相談的家庭教師</li> <li>●文京朝顔・ほおずき市</li> <li>●B-ぐるバス映像制作プロジェクト</li> <li>●小石川三丁目居場所づくりプロジェクト</li> <li>●文京まちたいわ (まちたいわフェス運営)</li> <li>●小石川マルシェ</li> <li>●日本橋の地域活性化 (クルーズ船を中心に)</li> <li>●株式会社ジャルパックと産学連携地域活性化事業</li> <li>●JTБ東京街歩きプロジェクト (大学生と東京街歩き事業)</li> <li>●岡山県笠岡市・六島まちづくり協議会との地域連携活動</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●八千代助産院おとわパース 「おしゃべりたいむ」</li> <li>●吉野秀雄仰心忌世話人</li> <li>●百人一首検定の問題監修</li> <li>●角川武蔵野ミュージアムとの連携</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      |
| 自主活動型 (9件)  | イベント・大会参加型 (3件)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●全国ふるさと甲子園</li> <li>●訪日外国人に向けた熱中症啓発プロジェクト</li> <li>●野火止カフェ実行委員会</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|             | 授業型 (6件)            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●埼玉県中西部地域における方言データベースの構築</li> <li>●古文書調査</li> <li>●第7回アフリカ開発会議横浜開催事業アフリカン・フェスティバル参加</li> <li>●文京区エリアスタディ (社会調査実習)</li> <li>●観光コミュニティデザイン実践 ～古民家カフェの企画・運営～</li> <li>●3年生のゼミ (春学期)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

## 4.2.COVID-19 流行による地域交流活動への影響について

今回の調査によって、2020年8月19日時点で63件の地域交流活動の内、5件の活動が計画通りに実施され、その他の活動が2件となっているため、56件（約89%）の活動がCOVID-19流行の影響を受けていることがわかった。この結果は、COVID-19流行が地域交流活動へ大きな影響を与えていたことを示している。

さらに、表2にある、「調査自体の継続、存続が危ぶまれる」や「次年度以降の実施可否が不明のため、計画策定ができない」などの声があるように活動の存続自体が危惧されている状況があることがわかった。また、「裏方の仕事を知る機会が失われたので、今後の指導でどのようにフォローするか課題」や「地域の関係者に対する成果フィードバックの機会が損なわれる」と失われてしまった機会をどうフォローすることができるのか、「2・3年生が中心の活動なのでこのまま今年度実施ができないと下の学年に経験を引き継ぐことができない」というように機会が失われたことでノウハウをいかに継承できるのかという長期にわたっての影響が危惧されている。これらの問題に対し、どのような支援ができるのが地域交流センターの今後の課題となるであろう。

だが、その後、計画通りに実施されている活動と延期や未定・検討中の活動の計38件に対し行った追跡調査により10月31日時点では、中止となったものが4件に止まり、12件の活動がなんらかの形で再開している。そこでは、「文京区防災フェスタは中止。ゼミ生のこれまでの準備を無駄にしないためにゼミのSNSを開設しそこで調査研究成果を発信していくこととした」や「ZOOM会議にて実施」、「Instagramでの地域情報発信支援を展開」、「10月から再開。リモートでの支援活動も実施」というようなオンライン化による方法、「ゼミでの現地訪問調査は断念。教員のみでの現地訪問調査実施を検討」や「12月5日（土）、6日（日）に開催する予定。今年度はゼミ学生への参加呼びかけは行わない」、「徐々に動き始めたが、実質的には実際の現地活動に向けて準備中」というような活動を縮小して継続することで活動の灯を残そうとする方法、「秋学期より再開。①オンラインでの2週に1回程度の東伊豆町勉強会（昼休み）、②オンラインでの雛のつるし飾り製作会、③百貨店（池袋西武百貨店等）での東伊豆町PRのお手伝い、④オンラインでの女性の人材育成交流会、⑤他女子大学（昭和女子大をはじめ共立女子大学、駒沢女子大学など）の学生さんたちとオンラインでの交流会の実施を検討」というようにオンラインを活用して多くのつながりを形成する方法が活動を止めまいするなかで実施されている。これは、人と会い語り合うこと、遠くへ出かけていくことに心理的な制約が働くことが予想されるポストコロナ時代における地域交流活動の形を考える際に重要な経験となるだろう。この新たな形の地域交流活動に対し、どのような支援ができるのかは、地域交流センターの今後の課題となるであろう。

## 引用文献

- ・金子祥之、2020、「跡見学園女子大学における地域交流活動の現状と課題—学内調査を通じた実態把握—」『ゆかり』1
- ・林星一、2020、「コロナ禍で課題を抱える人への相談支援の実態—一人ひとりの相談に向き合うなかで見えてきたこと—」『月刊福祉』103（10）

# 菊坂跡見塾所蔵資料調査報告

新垣夢乃・大櫛優理・菊地春姫・末吉はづき・服部胡桃・  
松尾映里奈・松延咲季・森本千桜・渡邊菜月

## 1. 本稿の目的と調査活動の概要

### 1.1. 本稿の目的

本稿の目的は、令和2(2020)年11月から開始した菊坂跡見塾に所蔵されている文書や道具等の調査活動の成果を報告することである。

菊坂跡見塾の前身である伊勢屋質店は、万延元(1860)年の創業から昭和末期頃に廃業するまでの約130年に及ぶ歴史がある[町田 2018:10、金子 2020:30]。その歴史のなかで、樋口一葉が伊勢屋質店を利用していたことは広く知られている。現存する建築物は、土蔵が明治20(1887)年に移築されてきたもので、座敷が明治23(1890)年、見世が明治40(1907)年に建てられたものである。これらの建築物は、平成15(2003)年には登録有形文化財に登録され、平成28(2016)年には文京区指定有形文化財に指定されている。

伊勢屋質店の廃業後、その建築物は駐車場への改装計画[金子 2020:31]、江戸東京たてもの園への収蔵計画とその破綻[伊郷 2000:7]、撮影スタジオ時代を経て、平成27(2015)年には学校法人跡見学園が取得し菊坂跡見塾として一般公開された。そして現在に至るまで跡見学園女子大学の教室や地域交流の拠点としても活用されている。

しかし、このような経緯から現在の菊坂跡見塾には、さまざまな来歴の文書や道具類が未調査のまま記録されることなく所蔵されている実態がある。菊坂跡見塾は、資料を展示し、それを一般向けに公開する一種の博物館的な施設である。博物館法において博物館は、「社会教育法(昭和二十四年法律第二百七号)の精神に基き」「国民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ために、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管(育成を含む。以下同じ。)し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的」[博物館法第一章第一条、第二条]とすると定められている。そこで、菊坂跡見塾では所蔵する資料の保管や活用を考えるためにも、どのようなものが、どこに、何点あるのかという基礎的な情報を把握する整理・調査活動を行う必要があると考えた。そのための第一歩が、本稿を執筆するに際して実施した活動である。

### 1.2. 調査活動の概要

本稿を執筆するにあたっては、「跡見『学芸員』in菊坂」として下記のような陣容と方法で活動を行った。

#### (1) 調査メンバー

|                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 新垣夢乃(跡見学園女子大学地域交流センター助教) | 菊地春姫(同 文学部人文学科 3年生) |
| 末吉はづき(同 文学部人文学科 3年生)     | 大櫛優理(同 文学部人文学科 1年生) |

|                                      |                                     |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 服部胡桃 (同 文学部人文学科 1年生)                 | 松延咲季 (同 文学部人文学科 1年生)                |
| 渡邊菜月 (同 文学部人文学科 1年生)                 | 森本千桜 (同 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 1年生) |
| 松尾映里奈 (同 観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科 1年生) |                                     |

## (2) 調査スケジュール

- ・令和2(2020)年10月13日～11月9日：参加学生の募集  
村田宏先生、増野恵子先生、古庄浩明先生のご助力により、先生方がご担当している「博物館概論」、「博物館資料論」、「文化財学」の受講生向けに募集告知を実施。
- ・11月2日：専門家による調査方法の検討  
関悦子先生(川崎市立日本民家園 学芸員)、三村宜敬先生(市川市立歴史博物館 学芸員)、松浦瑛士先生(世田谷区立郷土資料館 学芸員)に菊坂跡見塾オンライン見学に参加していただき、調査方法の検討を行った。  
参加者：関、三村、松浦、新垣の計4名
- ・11月9日：資料取り扱いに関するレクチャー  
三村先生、松浦先生を講師として、資料取り扱いならびに調査方法に関するレクチャーを現地にて実施。また、山口翔平氏(読売新聞東京本社 記者)による取材にも対応した。  
参加者：三村、松浦、山口、大櫛、菊地、服部、松尾、松延、渡邊、新垣の計10名
- ・11月12日：現地調査  
現地にて調査を実施した。  
参加者：松延、新垣の計2名
- ・11月16日：現地調査ならびに資料取り扱いに関するレクチャー  
現地にて調査を実施した。この日、初参加となるメンバーに対し、レクチャー受講生が資料取り扱いならびに調査方法に関するレクチャーを実施。  
参加者：大櫛、松延、森本、新垣の計4名
- ・11月18日：現地調査  
現地にて調査を実施した。  
参加者：菊地、新垣の計2名
- ・11月19日：現地調査ならびに資料取り扱いに関するレクチャー  
現地にて調査を実施した。この日、初参加となるメンバーに対し、レクチャー受講生が資料取り扱いならびに調査方法に関するレクチャーを実施。  
参加者：末吉、服部、松延、渡邊、新垣の計5名  
以後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、現地での活動を中止し、オンラインでのミーティングや取材対応、在宅作業を実施している。

## (3) 調査方法

今回の調査にあたっては、菊坂跡見塾内の「座敷」に所蔵されている資料から調査を開始した。資料

取り扱いに関する注意事項についてレクチャーを受講した上で、座敷の資料に資料番号を付したタグを取り付け、それぞれの資料について情報カードを記入、資料を撮影し、EXCELにてデータ入力を行った。

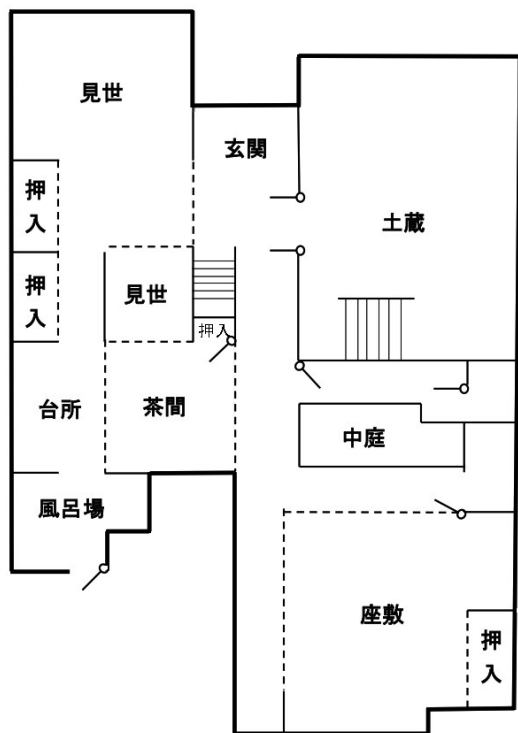


図1：1階の見取り図

菊坂跡見塾資料調査情報カード 記入日：2020年 月 日

|      |       |                                                |            |
|------|-------|------------------------------------------------|------------|
| 資料番号 |       |                                                |            |
| ふりがな |       | 点数                                             |            |
| 名称   |       |                                                |            |
| 法量   | 縦     | 横                                              | 高 径(φ) c m |
| 材質   | 植物    | 紙 木 ( ) 竹 他 ( )                                |            |
|      | 土石    | 土 ( ) 石 ( ) セメント ガラス 陶磁 磁器                     |            |
|      | 金属    | 鉄 鋼 銅 鋳 青銅 真鍮 アルミニウム ジュラルミン<br>ステンレス 銅合金 他 ( ) |            |
|      | 合成樹脂  | プラスチック セルロイド ゴム ビニール ナイロン 他 ( )                |            |
|      | その他   |                                                |            |
| 時代   | 作成・使用 | 年代                                             |            |
| 項目分類 | 形態分類  |                                                |            |
| 取蔵場所 |       |                                                |            |
| 作者   |       |                                                |            |
| 備考   |       |                                                |            |
| 記入担当 |       |                                                |            |

写真撮影  カード確認  データ入力  再調査 ( 要 ・ 不 )

表1：菊坂跡見塾調査情報カード



写真1：座敷内の様子



## 2. 調査内容

### 2.1. 調査結果

| 資料番号 | 名称     | ふりがな             | 点数 | 法量                            | 材質               | 備考                                                        | 写真                                                                                    |
|------|--------|------------------|----|-------------------------------|------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | のれん    | のれん              | 1  | 縦132×<br>横134cm               | 布                | 「伊勢屋」「イセヤ」の記載あり。                                          |    |
| 1-1  | のれん棒   | のれんぼう            | 1  | 横183.9×<br>径1.8cm             | 竹                |                                                           |    |
| 2    | 看板(質屋) | かんばん<br>(しちや)    | 1  | 縦29.7×<br>横20.5×<br>高1.8cm    | 木                | 「質屋 東京都文京区菊坂町三十二番地 伊勢屋 永瀬長四郎」と墨書あり。                       |    |
| 3    | 看板(休業) | かんばん<br>(きゅうぎょう) | 1  | 縦45.3×<br>横14.3×<br>高2.1cm    | 木<br>金属          | 破損あり。<br>「毎月十日廿日休業」と墨書あり。「小石川質屋組合之章」と焼印あり。                |    |
| 4    | 看板     | かんばん             | 1  | 縦18×<br>横5.3×<br>高1.2cm       | 木                | 「古物商、銅(鉄)、漬金口、道具、時計、家具、小間物、書描、□□、文京区菊坂町三十二番地、永瀬長四郎」と墨書あり。 |    |
| 5    | 竿秤     | さおばかり            | 1  | 横60.5×<br>径1.5cm              | 木(檜)<br>真鍮       | ひも欠損。「一〇八二八」と刻印あり。竿秤の先端に文字あり(不読)。                         |    |
| 6    | 竿秤     | さおばかり            | 1  | 横71×<br>径1.9cm                | 木(檜)<br>金属<br>ひも | 検定印あり。                                                    |   |
| 7    | 竿秤     | さおばかり            | 1  | 横91.3×<br>径2cm                | 木<br>金属          |                                                           |  |
| 8    | 分銅     | ぶんどう             | 1  | 縦7.6×<br>横4×高6×<br>径4cm       | 金属               | 「一〇八三八」と刻印あり。                                             |  |
| 9    | 分銅     | ぶんどう             | 1  | 縦11×<br>横7×高10×<br>径7cm       | 金属               | 「□十三五九 □□□」と刻印あり。                                         |  |
| 10   | 錘      | おもり              | 2  | 縦5×横5×<br>高0.7×<br>径5cm       | 金属               | 「10kg」「1/100」マークなどの刻印あり。                                  |  |
| 11   | 皿      | さら               | 1  | 縦9.5×<br>横9.5×高1×<br>径9.5cm   | 金属<br>ひも         | 「二六八十」と刻印あり。竿秤の皿。                                         |  |
| 12   | 火打金    | ひうちがね            | 1  | 縦9×<br>横2.9×<br>高0.3cm        | 金属               | 「登録 十□井」と刻印あり。                                            |  |
| 13   | 筆筒     | たんす              | 1  | 縦36.2×<br>横76.2×<br>高45.5cm   | 木<br>金属          |                                                           |  |
| 14   | 分銅     | ぶんどう             | 1  | 縦8.5×<br>横5.7×高7.8<br>×径5.7cm | 金属               | 「東京 秤量四貫」マークなどの刻印あり。                                      |  |

|      |                     |                       |   |                            |   |                                                                    |                                                                                       |
|------|---------------------|-----------------------|---|----------------------------|---|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 15   | 看板                  | かんばん                  | 1 | 縦31.1×<br>横3.7×<br>高1.3cm  | 木 | 「質屋専門帳簿一式 東京都台東区浅草田<br>中町三丁目五番地 磯村帳簿店 電話(84)<br>〇七八三番・九九八〇〇」と墨書あり。 |    |
| 16   | 衣紋掛                 | えもんかけ                 | 1 | 縦6.5×<br>横60.5×<br>高0.7cm  | 竹 |                                                                    |    |
| 17   | 衣紋掛                 | えもんかけ                 | 1 | 縦6.5×<br>横69×<br>高0.5cm    | 竹 |                                                                    |    |
| 18   | 長唄<br>稽古本           | ながうた<br>けいこぼん         | 1 | 縦21.3×<br>横4.4×<br>高4cm    | 紙 | 「永瀬茂子」と墨書あり。                                                       |    |
| 19   | 長唄千代寿               | ながうた<br>ちよのこ<br>ぶき    | 1 | 縦21×<br>横15.4×<br>高1.1cm   | 紙 | 年代：寛延2 (1749) 年<br>作者：杵屋勝三郎                                        |    |
| 20   | 雨乞小町                | あまごいこ<br>まち           | 1 | 縦21×<br>横14×<br>高8cm       | 紙 |                                                                    |    |
| 20-1 | 控え書                 | ひかえがき                 | 1 | 縦24×<br>横19 cm             | 紙 | 資料番号20の道行浮埒鷗の1頁目には<br>さまっている。                                      |    |
| 21   | 澤里狐                 | 不明                    | 1 | 縦9.5×<br>横6.5×<br>高0.1 cm  | 紙 |                                                                    |    |
| 22   | 櫻髯恨鮫鞘               | さくらつば<br>うらみのさ<br>めざや | 1 | 縦22.1×<br>横15 cm           | 紙 | 年代：昭和4 (1929) 年<br>奥付けと裏表紙が外れている。                                  |    |
| 23   | 海人                  |                       | 1 | 縦23.2×<br>横16.2×<br>高0.5cm | 紙 |                                                                    |   |
| 24   | 西王舟                 |                       | 1 | 縦21.5×<br>横15×<br>高0.1 cm  | 紙 | 年代：明治18 (1885) 年<br>作者：川如述                                         |  |
| 25   | 長唄<br>初志ぐれ          | ながうた<br>はつしぐれ         | 1 | 縦21.5×<br>横14×<br>高0.5cm   | 紙 | 年代：文政7 (1824) 年<br>作者：杵屋六左衛門                                       |  |
| 26   | 長唄本                 | ながうたほん                | 1 | 縦22.5×<br>横15×<br>高0.6cm   | 紙 | 「永瀬志げ」と墨書あり。                                                       |  |
| 27   | 長唄<br>さくら狩          | ながうた<br>さくらかり         | 1 | 縦23×<br>横14.5×<br>高0.2 cm  | 紙 |                                                                    |  |
| 28   | 歌舞伎<br>大正十四年<br>七月号 | かぶき                   | 1 | 縦22×<br>横15×<br>高0.1cm     | 紙 | 年代：大正14 (1925) 年<br>作者：歌舞伎座内歌舞伎発行所出版                               |  |
| 29   | 長唄本                 | ながうたほん                |   | 縦 横 高<br>径 cm              | 紙 | 年代：弘化3 (1846) 年<br>「伊勢や 東之女」と墨書あり。                                 |  |
| 30   | 奈賀宇多本               | ながうたほん                | 1 | 縦21.6×<br>横14.3×<br>高0.5cm | 紙 | 年代：文久4 (1864) 年<br>「伊勢屋名〇」と墨書あり。                                   |  |
| 31   | 種々綴込<br>長唄本         | ながうたほん                |   | 縦22.5×<br>横5×<br>高0.5 cm   | 紙 | 「伊勢屋名〇」と墨書あり。                                                      |  |

|       |             |                     |   |                             |                 |                                                |                                                                                       |
|-------|-------------|---------------------|---|-----------------------------|-----------------|------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 32    | 長唄<br>巽八景   | ながうたた<br>つみはっけ<br>い | 1 | 縦22.8×<br>横15.5×<br>高0.1 cm | 紙               | 年代：明治元年(1868年)<br>作者：杵屋六左衛門                    |    |
| 33    | 長唄本         | ながうたぼん              | 1 | 縦25.1×<br>横17×<br>高0.5 cm   | 紙               | 「永瀬志げ」と墨書あり。                                   |    |
| 34    | 不明          |                     | 1 | 縦25.5×<br>横17.5×<br>高0.4cm  | 紙               | 本の表紙のみ。記載等なく詳細不明。                              |    |
| 35    | 掛け軸         | かけじく                | 1 | 縦214.2×<br>横17.5 cm         | 紙<br>プラス<br>チック |                                                |    |
| 36    | 掛け軸         | かけじく                | 1 | 縦139.6×<br>横25cm            | プラス<br>チック<br>布 | 作者：仙嶺                                          |    |
| 37    | 掛け軸         | かけじく                | 1 | 縦199.9×<br>横58.4cm          | プラス<br>チック<br>布 | 年代：昭和31(1956)年<br>作者：仙嶺                        |    |
| 38    | 籠箱          | こばこ                 | 1 | 縦27.5×<br>横38×<br>高18.5cm   | 植物              |                                                |    |
| 38-1  | 籠           | かご                  | 1 | 縦5.8×<br>横8.5×<br>高4.8cm    |                 |                                                |    |
| 38-2  | 籠           | かご                  | 1 | 縦4.5×<br>横4.5×<br>高2.9 cm   | 竹               |                                                |    |
| 38-3  | 不明          |                     | 1 | 高5.8 cm                     | 植物              | 用途不明のため名称不明。                                   |   |
| 38-4  | こけし         |                     | 1 | 高9.2×<br>径4.9cm             | 植物              |                                                |  |
| 38-5  | こけし         |                     | 1 | 高5.5×<br>径5.6cm             | 木               | 花柄の装飾あり。                                       |  |
| 38-6  | こけし         |                     | 1 | 高4.9×<br>径3.8cm             | 木               | 濃い茶色。白い花の装飾あり。首がす<br>わっていない。                   |  |
| 38-7  | 不明          |                     | 1 | 高10×<br>径5.2cm              | 竹               | 用途不明のため名称不明。                                   |  |
| 38-8  | 小物入れ        | こものいれ               | 1 | 高3.9×<br>径10cm              | プラス<br>チック      | 年代：昭和62(1987)年<br>「1998年2月3日」と記載されたプリク<br>ラあり。 |  |
| 38-9  | メモ・<br>ペン立て | めも・<br>ぺんたて         | 1 | 縦1.7×<br>横3.8cm             | プラス<br>チック      | 手前は青。奥は白。                                      |  |
| 38-10 | S字フック       | えすじふっく              | 6 | 縦11.9×<br>横3.6cm            | プラス<br>チック      |                                                |  |
| 38-11 | 針金          | はりかね                | 1 | 径5.9cm                      | 金属              |                                                |  |

|    |    |      |   |                            |                |                                          |                                                                                     |
|----|----|------|---|----------------------------|----------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 39 | 文台 | ふみだい | 1 | 縦11.5×<br>横20.5×<br>高4.5cm | 木              | 漆塗り。                                     |  |
| 40 | 風鈴 | ふうりん | 1 | 径7.45cm                    | ガラス<br>樹脂      | ダイソーの箱に入れられている。包装紙あり。マリン柄との記載あり。マリン柄。    |  |
| 41 | 風鈴 | ふうりん | 1 | 径12cm                      | ガラス<br>樹脂      | ダイソーの箱に入れられている。包装紙あり。マリン柄との記載あり。ハイビスカス柄。 |  |
| 42 | 蓐  | ほうき  | 1 | 縦72×<br>横6.5×<br>径2.7cm    | 竹<br>ホウキ<br>グサ |                                          |  |
| 43 | 不明 |      | 1 | 横65.8×<br>径19cm            | 竹              | 濃い茶色の竹の棒。用途不明のため名称不明。                    |  |

## 2.2. 調査資料について

新型コロナウイルス感染症流行の影響により、今回は56点の資料を調査するに止まった。だが、調査不足ではあるが、16点の長唄関連資料など、かつての旧伊勢屋質店の日常生活の一端を垣間見ることができ資料も確認された。また、この長唄関連資料とそこに書かれたくずし字は、調査に参加した学生には強く印象に残ったようである。そこで、若干ではあるが、くずし字と長唄の調査に携わったそれぞれの担当者による、解説を調査の成果として報告する。

### (1) 「くずし字」について

今回の調査のなかで、座敷にあった衣装箆笥を開くと数十点の長唄本が出てきた。これらの本の表紙には、いわゆる「くずし字」で題名が記されており、「永瀬茂子」や「永瀬シゲ」という署名も記されていた。この署名から、これらの長唄本はかつて伊勢屋質店を営んでいた永瀬家の所有であったと考えられる。

くずし字とは、楷書の点画を省略した手書き文字やその手書き文字をもとにした版本の文字のことで、近世や近代の資料などに用いられている書体だ。書道などの草書体もくずし字の一つである。近世の日本では、手書き原稿をそのまま木版に複写、彫板した版で印刷を行う木版印刷が主流であったため、手書きの文字であるくずし字が印刷物の書体としても用いられていた。だが、明治以降、一文字の文字を刻んだ金属製の字型である活字を組んで印刷する活版印刷が普及したことにより、印刷物にくずし字が用いられなくなった [恋田 2018]。

また、明治33(1900)年には「小学校令施工規則第十六条」によって字体が定められ、例えば「あ」を「安」とも「阿」とも表すように一つの音を多用な文字で表すくずし字特有の変体仮名が禁止されてしまう。さらに、明治33年には学校教育のなかに「書キ方」の科目が成立し、明治36(1903)年からは国定教科書が使用されたことによりくずし字はますます使用されない書体となったと考えられる [鈴木 2016:97]。

これらの背景から、今回、長唄本の調査を担当した現代の学生である私たちははじめて「さっぱり解読不能」な日本語である「くずし字」に触れることとなった。(執筆：大櫛優理・松延咲季・渡邊菜月)



写真3：衣装筆筒内の長唄本

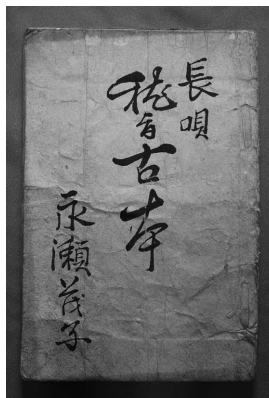


写真4：氏名記載のある長唄本

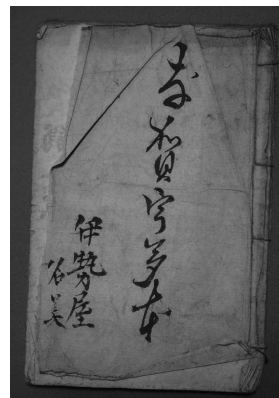


写真5：長唄本が「奈賀宇多本」と変体仮名で記されている

## (2) 長唄『巽八景』について

菊坂跡見塾(旧伊勢屋質店)に残された資料を整理・記録する活動を行う中で、『巽八景』という長唄本と出会った。私が活動の中で最初に触れた資料でもあり、印象に深く残っている。

長唄とは江戸時代に流行した三味線音楽のひとつだ。元は歌舞伎の音楽として成立したが、現在は長唄というジャンルで歌舞伎とは別に演奏会なども行われている。今回取り上げる『巽八景』は天保9(1838)年に十代目杵屋六左衛門が作曲、二代目烏亭焉馬が作詞した長唄である[池田 2002:349]。「巽」は南東の方角を意味し、江戸から見て南東にあたる深川を指す言葉としても使われ、『巽八景』では後者を意味する[石阪 1995:76]。



写真2：活動中に撮影した『巽八景』



図2：長唄を歌う様子のイメージ図(作画 松尾映里奈)

「八景」はある地域の特に美しい景色八ヶ所のこと、中国・湖南省の『瀟湘八景』が起源とされる。こうして美しい景観を定めることは日本でも流行し、有名なもので近江八景や金沢八景などが挙げられる。『巽八景』もこうした流行りの中で定められ、長唄として歌われた[池田 2002:335]。

『巽八景』はストーリー性のない深川の趣を歌った作品であるが、歌詞のところどころに女性の影が見え隠れすることから深川で生きる女性が描かれていることがわかる。江戸時代の深川は遊里として知られ、深川の芸者は「辰巳芸者」と呼ばれていたことから、『巽八景』は当時の深川の土地柄を表した作品とされる[池田 2002:334]。



長唄を始めとした日本の伝統的な音楽は現代にも受け継がれている。時代が変わり演奏の場が多様化した現代は、動画共有サイトでも気軽に視聴が可能だ。今の時代に長唄を受け継いだ人が『巽八景』を演奏する姿を見て、自分が手にした資料は人々の記憶に残り続け、歴史を作ってきたのだと知り、感慨深かった。長唄は事前に歌詞の意味や知識を得てから聴くと印象が変わる。ぜひ一度『巽八景』を視聴してみてほしい。(執筆：末吉はづき)

---

### 3. 跡見「学芸員」in菊坂メンバーの活動参加記と今後の活動について

最後に跡見「学芸員」in菊坂のメンバーの活動参加記と今後の活動について述べる。

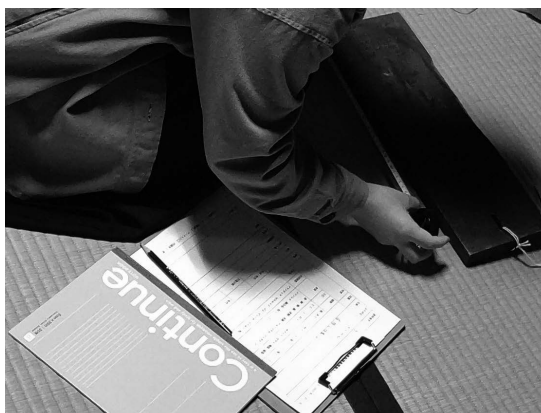
#### (1) 古の風吹く菊坂から得た経験 (人文学科1年 大衛優理)

私が菊坂跡見塾の活動に参加した理由は、学芸員の仕事の内容に興味があったからである。最初は、想像していた以上に本格的な仕事がたくさんあり、活動に対し、十分な貢献をすることができるのかと不安でいっぱいだった。紙の資料を触る際は、手の脂が資料につかないようにする、資料を撮影する際は影が入らないようにするなど、注意しなければならない事が多く、混乱する場面が何度もあった。これらの慣れない作業に慣れていくために、できる限り数をこなし、分からないことは、他のメンバーに質問する事を意識した。苦労した事も多くあったが、掛け軸や書物の文字の解読が成功した時や、角度や位置を意識し続けた末、資料の撮影が成功した時は、嬉しい気持ちでいっぱいになった。

私は現在、書物にあるくずし字を解読する担当をしているが、くずし字の解読も初めてであるため、困難な道のりになると考えている。そのため、他のメンバーと連携を取りながら、書物の解読に専念していきたい。

#### (2) 活動記—実感的経験の魅力 (文学部人文学科3年 菊地春姫)

最初にこの活動の説明を受けたとき、「文化財」や「報告書」など学生の身には委縮してしまうような言葉が多く、緊張や恐れといった気持ちが大きかった。しかし実際には貴重な資料を取り扱うことへの緊張よりも、資料に触れたときの感動が大きかった。資料は古びた木の看板やポロポロの雑誌など、その見た目を言葉にしまえばガラクタのように感じてしまうものばかりである。しかし実際に見ていくと、様々な発見があった。例えば、ある文書は当たり前のように100年以上前の日付が記載されている。人が確実に生きることの保証がない年月を「もの」は残るのだと私は目の前にある資料を見て、触れて、実感することができた。



菊坂跡見塾の活動の大きな目的は所蔵されている資料の整理である。しかし、私が資料整理のほか編集を担当しているようにその活動の幅は広い。今後の活動では上記の体験のような、この活動を

通して私たちが得たものを跡見の学生に知ってもらえるような取り組みもしたいと考えている。

### (3) 菊坂跡見塾での経験 (文学部人文学科3年 末吉はづき)

学芸員資格課程は3年生になってから本格的な講義が始まる。去年までの初歩的な講義から学年が上がり、博物館が保管する資料の保存方法や運営、展示法など具体的な勉強をするようになって博物館に携わる活動がしたいと思うようになった。そんなときに菊坂跡見塾での資料整理ボランティアの存在を知り、応募した。

菊坂跡見塾では実際の資料を扱う。古いものは江戸時代から身近な生活用品まで様々だ。特に慎重な扱いが求められる古い資料は扱い方を教わりながら、一つ一つ手に取り記録を取っていく。

明治時代に作られた長唄本、画家が手がけた掛け軸など普段なら博物館の展示で見に行く対象のものを、自分が手に取り保存を行う。昨年は新型コロナウイルスの影響でオンライン講義が続いたこともあり、実物をもって学べる環境のありがたさを実感した。また資料の扱いは大学の講義に通ずる部分もあり、講義で得た知識を再確認することができた。今後資料を使った展示を行うときは講義で得た知識を活用したいと思う。

### (4) 旧伊勢屋での活動記 (文学部人文学科1年生 服部胡桃)

これは旧伊勢屋の蔵の写真である。この中にはタイプライターや小型のミシンなど、教科書でしか見たことの無いものもあった。そのため、ただ単に古いものという印象ではなく、一つ一つの品に歴史的な価値があることが理解できた。品々が一体どのような経緯で持ち込まれたのかを考えると、それだけで一日が終わってしまうくらいに様々な物語が感じられる場所であった。



私は現在編集担当として菊坂跡見塾の活動に参加している。編集担当は、他の参加者が経験した唯一無二の体験をより分かりやすく、より多くの人に理解してもらうためにはどのような文章にすべきなのかを考えなければならない。また、文章を依頼する際にもどのような文章にしてほしいかを分かりやすく伝える必要がある。編集は読み手にも書き手にも、理解しやすい言葉を用いることを心がけなくてはならないことが理解できた。後に企画されている本を作る際にも、この経験を活かし多くの人に手に取ってもらえるようなものを作りたいと思う。

### (5) 菊坂跡見塾活動参加記 (観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科1年生 松尾映里奈)

現在の菊坂跡見塾の活動は新型コロナウイルスの感染者が増えているため、現地に赴いて活動することが難しくなっている。そのため、週に一度のオンラインミーティングにて今後の活動について話し合いをしている。

主に私は、広報やイラストを担当している。広報では特に、幅広い世代の目に留まるにはどうすれば良いのか、などの工夫を考えている。斬新かつ実現可能な案を出すことは決して容易ではなく、大変な仕事ではあるが、このように一から自分たちで考えることは楽しく感じる。また、この「ゆかり」の執

筆では、私は長唄のイラストを担当した。イラストの中にもある三味線は、旧伊勢屋質店で実際に使われていた三味線が文京区の博物館に収納されていると聞いた。今回は実物を見て絵を描くことは出来なかったが、いつかぜひ拝見してみたいと思っている。

#### (6) 資料整理活動とくずし字 (文学部人文学科 1年生 松延咲季)

菊坂跡見塾には秤や重しなどの道具や文書が多く残されていた。私は資料整理と並行して判読不明のくずし字の読解を担当することになった。この写真は座敷のダンスの中に置かれていた長唄本などを撮影したものだ。長唄とは江戸時代に発展した三味線音楽のことで、右から「長唄稽古本」「長唄初志しぐれ」と書かれている。3つ目に関してはまだ正確な名前が判明していない。このように、くずし字は読めるもの



写真8：旧伊勢屋質店に残されていた長唄

もあれば逆にどの文字なのか全く予想がつかないものもあり、辞書と照らし合わせ、記録をしながらこれはどの文字なのだろうかと考えることがとても楽しかった。今までくずし字に触れたことが無かったためくずし字の読解は手探り状態だが、この仕事を通してくずし字について学んでいきたいと考えている。現在は現地での資料整理活動が制限されてしまっているため、くずし字の読解がメインの活動となっている。できるだけ多くのくずし字の読解をし、菊坂跡見塾での活動に尽力していきたい。

#### (7) 協力 (観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科1年生 森本千桜)

私は現在、活動の中でSNS運営 (広報) や来年度の予算獲得、企画の考案を担当している。想像していた活動と少し異なるが、今のこの活動はとても良い勉強となっている。菊坂跡見塾のSNSでは現在、Facebook・Twitterが開設されている。そのため現地での活動よりも、SNS上での活動が多くなっている。SNSでは主に活動の記録を行っていたが、現地での活動を行うことは難しいため、現在は菊坂跡見塾を広めるための案を企画することに軸を置いている。菊坂跡見塾での活動は、一から自分で考え、意見し、行動することから、今までにない違った経験が出来ている。今後はもっと地域の方にも投稿を見て貰えるようにアカウントの周知について考えていくのが目標だ。そして樋口一葉が実際に訪れた質屋である菊坂跡見塾に訪れやすくすることで沢山の人が気軽に集い、歴史に触れられる場所になれば良いと思う。まだまだ不慣れな部分もあるが、菊坂跡見塾のメンバーと共に協力しながら今後も活動していきたい。

#### (8) 菊坂跡見塾での活動について (文学部人文学科 1年生 渡邊菜月)

私が菊坂跡見塾での活動に参加した理由は学芸員の仕事を実際に体験してみたいと思ったからだ。学芸員資格取得を目指す上で、この経験は必ず役立てられると感じた。

跡見塾ではまず、皆で協力をして資料整理から始めた。跡見塾内にあった資料の一つ一つを採寸し、資料カードに記録を残す作業を行った。資料は想像を超える膨大な数だった。その中には「こけし」のように今までに目にした事のある資料もあれば、「竿秤」等の現代では目にすることがないような資料ま

であり、当時の人々の生活様式に興味を持った。

現在、私は資料に記されている判読不明であったくずし字の解読作業を行っている。辞書を用いての作業だが、やはり見慣れていない字の解読は簡単ではなかった。しかしその分、文字を解読して文章を読むことができた時は喜びや達成感が味わえる。このコロナ禍で思うように活動が進まないこともあるが、これから先もできる範囲で菊坂跡見塾の活動に尽力していきたい。

### **(9) 今後の活動について (地域交流センター助教 新垣夢乃)**

菊坂跡見塾の所蔵資料調査について、地域交流センターでは土居洋平センター長を代表として令和2(2020)年11月25日に大成建設株式会社の「公益信託大成建設自然・歴史環境基金」より助成金をいただいている。助成期間は令和2年11月25日から令和4(2022)年1月末日までである。今後、跡見「学芸員」in菊坂のメンバーを主力として、助成金を活用しながら調査を進め、調査報告書の刊行をめざして活動を進めていく計画である。

菊坂跡見塾の一つひとつの所蔵資料をより深く知るためには、菊坂地域の方々に教えを請い、お話をうかがう交流が欠かせない。残念ながら今回は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、そのような交流は行えなかった。だが、現在、学生たちは資料調査のみならず自分たちの活動を地域の方々に知ってもらう情報発信の方法を模索し、菊坂跡見塾を活用した成果の発表についても考えを広げはじめている。これが地域との交流や新しい活動につながることを秘かに楽しみにしている。

本稿を機に、跡見「学芸員」in菊坂の活動についてご理解ご協力賜らんことを切にお願い申し上げます。

### **謝辞**

本活動の実施にあたっては、村田宏先生、増野恵子先生、古庄浩明先生には学生募集の面で、関悦子先生、三村宜敬先生、松浦瑛士先生には調査方法や資料取扱のレクチャー面でご協力を賜った。ここに感謝を申し上げる。

### **引用文献**

- ・伊郷吉信、2000、「調査の概要」『旧伊勢屋質店調査報告書』文京ふるさと歴史館
- ・池田弘一、2002、『長唄びいき』青蛙房
- ・石阪幹将、1995、「荷風文学の都市空間3 幻影の街としての本所・深川：情緒化された都市」『東海大学紀要』開発工学部4
- ・金子祥之、2020、「伊勢屋質店の生活史—暮らしぶりから建物の保存まで—」『ゆかり』1
- ・恋田知子、2018、「くずし字について」第15回日本古典籍講習会資料、国文学研究資料館
- ・鈴木真史、2016、「国定第四期『小学書方手本』の国語科教科書としての意義」『人文科教育研究』43
- ・町田聡、2018、「旧伊勢屋質店の歴史」『旧伊勢屋質店調査報告書』文京区

## メディアで紹介された旧伊勢屋質店(菊坂跡見塾) 令和1～2年度〈紹介日順〉

貴堂直

### 〈テレビ放映〉

(1) 番組名：「出没！ アド街ック天国～本郷」

放送日：令和2年3月7日(土)

放送局名：テレビ東京

(2) 番組名：「新日本風土記～東京大学」

放送日：令和2年3月27日(金)

放送局名：NHK BSプレミアム

(3) 番組名：「百年名家～樋口一葉が通った『旧伊勢屋質店』～東京・本郷に残る明治期の町屋」

放送日：令和2年4月19日(日)

放送局名：BS朝日

(4) 番組名：「週末ハッピーライフ! お江戸に恋して」(「江戸のセキュリティ」)

放送日：令和2年10月31日(土)

放送局名：TOKYO MX

### 〈新聞・雑誌〉

(1) 「まちの記憶 本郷の菊坂界限 東京都文京区」(『朝日新聞(夕刊)』令和2年8月31日)

(2) 「質草庶民の暮らしを映す～『旧伊勢屋質店』所藏品調査 跡見女子大有志ら」(『読売新聞』令和2年12月3日)

### 〈図書〉

(1) 「山手線圏内 蔵めぐり散歩ガイド」(玄光社, 2019発行)

(2) 「はじめてのお金教室」(文研出版, 2020年11月発行)

### 〈ガイドブック〉

(1) 「サクセス 11・12月号(キャンパスのある町を歩こう)」(早稲田アカデミー, 2020発行)

(2) 「歩く地図 東京散歩 2022」(盛美堂出版, 2021発行)

(3) 「一日乗車券でめぐる 路線別 東京」(昭文社, 2021発行)



# 「ひと涼みアワード2020」オンライン啓発部門 最優秀賞 受賞コメント

生活環境マネジメント学科 石渡尚子

「熱中症予防声かけプロジェクト」が毎年実施している、熱中症予防に貢献する活動の表彰制度「ひと涼みアワード2020」で今年度の石渡ゼミの熱中症啓発プロジェクトがオンライン啓発部門 最優秀賞に選ばれました。昨年は外国人おもてなし部門で最優秀賞をいただいたので、2年連続の受賞となります。コロナ禍にあっても諦めることなく、創意工夫を凝らして努力した結果が認められ、学生たちも大変喜んでます。

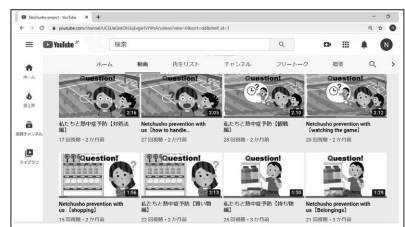
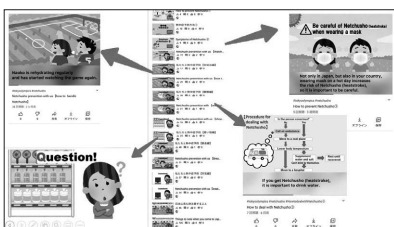
今年度の表彰には、全国から440件（行政：165件、企業227件、民間団体48件）の応募があり、最優秀賞受賞者は7部門23団体、その中で大学生の受賞は1件でした。熱中症声かけプロジェクトのホームページには受賞団体と取り組みが紹介されています (<https://www.hitosuzumi.jp/award2020/>)。

学生たちは対面でのプロジェクト活動が困難な中、熱中症予防に関する動画を7月から毎週YouTubeに配信し、日本語版と英語版を合わせ、34本アップロードしました。これら動画はYouTubeチャンネル「Netchusho project」にてご覧いただけます。また、このチャンネルには最優秀賞受賞者によるプレゼンテーション動画もアップロードされています。

このチャンネルの総視聴回数は900回を超え、当初目標としていた500回を大きく上回りました。視聴回数が伸び悩む中、Instagramやtwitterなど複数のSNSを駆使し、試行錯誤しながら自分たちの動画をPRしたことが成果に結びついています。途中、海外のトップアスリートが自分たちのチャンネルに「いいね」の反応をしていることに気づいた学生は、スポーツ選手に向けたPRも試みました。

これまで様々な学外活動を行ってきた中で、今年度ほど苦境に立たされたことはありません。学生たちの行動が制限される中、「どうしたら活動を継続できるのか」また「今、自分たちにできることは何か」何度もオンラインゼミで話し合いながら、諦めることなく一歩ずつ進めてきました。チームの力でピンチをチャンスに変えた今回の経験は、今後の彼女たちのキャリア形成にもプラスに働くことでしょう。

2018年からスタートした熱中症啓発プロジェクトは、当初、2020年まで3年間の活動を予定していましたが、東京オリンピック・パラリンピックの延期に伴い1年延長することとなりました。現時点でオリンピックの開催が不透明な中、3年生はプランAだけでなくプランBも用意し、次年度の準備を進めています。このプロジェクトを通して、いかなる状況でも動きを止めず行動することで道が開けることを実感してほしいと願っています。



# 変わらないものもある、ということ

「文の京 朗読コンテスト 青少年の部」優秀賞・文学部現代文化表現学科4年 土屋三咲

2020年、世間の中心にあったのは新型コロナウイルス感染症でした。会いたい人に会おうと外に出ることも出来ず、新しい授業スタイルに不安を覚え、そんな中でもしなくてはならなかった就職活動に鬱々としながら、家でパソコンの画面に向かって話しかける毎日。

大学4年生は学生時代の総仕上げのような一年になると予感していましたが、これまでの最上級どころか、むしろ「ニューノーマル」を受け入れることを必須とされていました。

そんな変化に慣れ始め、就職活動を終えた夏のはじめ。「今年も朗読コンテストに参加しませんか？」という旨のメッセージが届きました。実は、前年も応募をしていたのです。その年までは朗読の勉強をしていたのですが、それでも本選に届かなかったため、今年は本当は出る気はありませんでした。しかしこのご縁をきっかけに気が変わったのです。読む題材も、本当は別のものを予定していたのですが、友人に電話で練習を聞いてもらっていた際に、気になっていた『銀河鉄道の夜』も読んだところ勧められたため変更しました。そして徐々に指導を受けながら読んでみると、1年近く朗読から離れていたにも関わらず、読めるようになっていく自分がいました。子供のころに見たアニメが、大人になって見返すと共感できる部分が増えて味わい深くなる感覚に近かったです。

そして、本選出場が決まり、当日は次のように私のことを紹介して頂きました。

「私は、この跡見学園女子大学にてアニメーションや演劇を研究対象として学ぶ傍らで、大学や外部の養成機関にて朗読を学んで参りました。声優を夢見て学び、その難しさに夢を諦めたこともありました。そんなとき、本学の『朗読』の授業にて、講師の堀井先生に『あなたは読むことが好きなんだね。伝わってくるよ。』と言って頂いたことをきっかけに、『夢を叶えるか叶えないかではなく、私はただ、読むことが好きなんだ。』と胸が熱くなりました。ジョバンニも、好きなものをまっすぐ大切にできる少年です。」

この場をお借りして、文中の「夢を諦めた」という部分の補足をさせていただきます。正確には、奥が深い世界だからこそ「なる・ならない」ではなく、「もっと勉強したい」に変わったのです。今回一般の部に出場されていた人生の先輩方の表現、そしていつまでも続く「学び」という旅を楽しまれているお姿を拝見し、その気持ちはますます確信に変わりました。しかし、これがなかなか伝わらないのです。だから、伝える人にだけ伝えられたらそれでいい。そういった孤独を分かち合ったのが、ジョバンニでした。彼になろうというよりは、「わかるよ」と対話するのが私のやり方だと、自分でも初めてわかりました。

本選のあと、初めて私の朗読を聞いた父が「上手なのに就職しちゃってもったいないね」と言ってくれたことが嬉しかったです。しかし、もったいないとは思っていません。どんなご時世でも、どんなに離れていても、「私には朗読がある」と思える経験になりました。

# 地域交流センター主催 FD 講習会

## 「効果的な地域交流活動実施のポイントの理解へ向けて」

横田恭三・許伸江・老川慶喜・宮岡佳子

### 1. 企画趣旨

現在、学内では実に多様な地域交流活動が実施されています。地域交流センターでは、こうした状況の把握に努めて参りましたが、次第に、学内において地域交流活動の内容や手法等が共有されていないという課題が明らかになって参りました。

大学全体で地域交流活動を盛り上げていくためには、先進的な事例を共有し地域交流活動の具体的なイメージを拡げていくとともに、地域交流活動を実施する際の学内手続き、使用できる資源などを共有することが不可欠です。

今回のFD講習会においては、各学部で行われている地域交流活動事例をもとに、地域交流活動実施のポイントについて理解を深めていきたいと思えます。また、地域交流活動実施に際しての具体的な手続き等についても、ご紹介できればと考えています。

**1：日時** 2020年1月29日(水) 15時00分～16時30分

**2：会場** 新座キャンパス図書館 視聴覚ホール

**3：プログラム**

#### (1) 学長挨拶

学長の笠原です。本学地域交流センターは、今年度の4月に現在の体制になりました。これからの大学は、地域と連携して教育や研究、社会貢献活動を行うことが求められています。そのための体制が、ようやく整ったものであると考えております。

もちろん、本学の地域交流活動は、これまでも教員やゼミといった単位での個別の活動が盛んに行われておりました。しかし、ともすると、そうした活動は教員個人、あるいはゼミの活動として行われ、相互に連携をし大学の活動へと展開をすることが、あまりなかったという印象があります。すなわち、これまでの活動は、点としての活動が多々あったものの、点から線、線から面へとといった展開に欠いていたところがあったと思っております。

地域交流センターを教学組織として設置しましたのも、この点、すなわち、点から線、線から面への活動の連携と展開を意図したものであります。今回のFD講習会が、その一助となり、実際に本学の地域交流活動が組織的に展開していくことを期待しています。

#### (2) 本学の地域交流事業位置づけについて (地域交流センター長)

ただいま、学長よりお話し頂きましたとおり、地域交流センターは今年度から現在の体制となりました。そして、地域交流を組織的に推進するというミッションを担っております。

学長のおっしゃられた点から線、線から面への展開のためには、学内の資源・シーズ・ニーズを把握し、地域のニーズ・シーズとマッチングをしていく必要があります。また学内の地域交流活動について、相互に情報、ノウハウ、課題と解決手法について共有をはかり、大学全体として地域交流活動を推進していく必要があります。

このような観点から、地域交流センターでは、設立後すぐに学内の地域交流活動に関する調査をさせていただきます。多くの先生方にご協力を賜ることができました。この場を借りて、御礼を申し上げます。

また、今回のFD講習会も、上記の観点で企画いたしました。本日は、まず、地域交流活動の取り組み事例を各学部の先生方からご報告いただきます。具体的な話をもとに、地域交流活動の意図、きっかけ、教育的な効果、課題、地域貢献のポイントを共有できればと考えています。また、後半の時間では、地域交流に関する基本的な手続き、使える資源等の情報共有を行いたいと思っています。

本日のFD講習会が、大学全体でスムーズに地域交流活動が展開できるようになることの一助となればと考えています。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### **(3) 地域交流の事例①「文の京（ふみのみやこ）書道展を開催して」横田恭三先生（文学部）**

ただいまご紹介いただきました人文学科の横田です。今回の発表は、一般に言う地域交流というよりも、文京区民と本学の学生の作品を通して行った書道文化交流の一種だと考えて頂けると良いかと思えます。これは文京アカデミア講座が発端になっています。文京アカデミーのバックアップを受け、本学学生とアカデミア書道講座に参加した文京区民の方々との合同書道展になります。そのご報告をいたします。展示期間は、令和元年7月5日～16日の12日間で、文京シビックホールの地下1階にあるアートウォール・シビックを会場にし、総計45点の作品および「令和書き比べ」50点を展示しました。

その目的は、3つほどあります。一つは文京区民との連携・協働による生涯教育推進及び社会貢献、二つ目は文京区民および本学学生の書の表現力と鑑賞力の向上、三つ目は関東を中心とする主な高等学校に対する本学教職課程、とりわけ書道ですが、その認知——以上3点です。

実は、今から8年前の2012年、本学では中国の広州美術学院と協定を結びました。その翌年3月には、書道・美術そして研究発表の3部門において、交流を持つことになっていました。半年以上かけて、作品、研究発表ともに学内選考を開き、選ばれた作品とその代表者を広州へ派遣する予定でした。ところがご承知のように、その年9月、野田内閣の時でしたが、尖閣諸島の国有化を閣議決定した結果、中国が猛烈な反発をし、日中関係が最悪の状況に陥ってしまいました。数ヶ月経っても状況は改善されないため、翌年1月初めに、とうとう派遣を断念したという経緯があります。

もともと本学の文化的活動を活発に推し進めたいという希望がありましたが、なかなか思うようにならないというのが実感でした。たまたま文京アカデミー主催のアカデミア書道講座を4年ほど前から担当しており、当時の内山事務局長から「文京区と連携してほしい」「書道展を開催してはどうか」と助言をいただいております。そうしたことが今回の「文の京書道展」につながったと言えます。

出品対象者は、文京アカデミア講座の有志作品21点、本学の書道履修者および書道愛好者の作品18点、主たる高等学校より招待作品4点、海外からの賛助出品2点の総計45点です。高等学校の作品は、東京都と埼玉県からそれぞれ2校ずつ、計4点です。とくに埼玉県の場合は、書道科のある大宮光陵高校と書道コースのある伊奈学園総合高校から1点ずつご協力いただきました。ここには高校と大

学とのパイプを太くしたいとの思惑もありました。海外からの賛助出品は、以前、協定を結んだものの実現しなかった広州美術学院の指導者と学生の作品です。アカデミア講座の方々は、展示会場で中国の書作品を興味深く鑑賞されていました。「令和書き比べ」は本学の学生のみならず、職員の方々にも協力いただき、何枚か書いてもらいました。これらの作品により、アートウォール・シビックの壁面はかなり広いのですが、ちょうど良く収まる点数となりました。

アカデミア講座についてもう少しお話ししておきましょう。文京区民に対して定員24名で募集した書道講座「私も書ける篆書に挑戦!」を、全7回にわたって実施しました。講座にはもともと1名の方が欠席でしたので、23名の参加となりましたが、そのうち21名が出品に応じてくれました。ほとんどの方は篆書による作品制作は初めての経験になりますが、最後まで熱心に取り組んでくださいました。5月中旬からスタートした講座は、初回に書の歴史を学び、次いで篆書の基本点画、その後、臨書から創作へという順序で進行しました。ここまでで6回を終了、半紙や八つ切サイズの最終作品を簡易表装に出し、その2週間後にアートウォール・シビックに搬入しました。第7回目の最終回は展示会場での作品鑑賞とミニ講演会としました。参加者全員の作品を一人ずつ自己評価を兼ねた挨拶をしてもらい、その後に私が一言コメントしました。皆さん、とても挨拶がうまく、和やかな雰囲気にも包まれたひとときとなりました。ミニ講演会の演題は「〈令和〉筆文字考」としました。これは、5月1日に官房長官が手にした「令和」の2字を題材にしたものでした。皆さん、熱心に聴いて下さり、大変充実した時間となったと思います。

最後になりましたが、昨年4月以降、地域交流課の絶大なるサポートをいただき、ここまでこぎ着けました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また広報室長の富川先生のご尽力により、展覧会前、東京新聞に「令和書き比べ」というタイトルで、今回の文の京書道展の記事が掲載されました。これまた心から御礼申し上げたいと思います。ご清聴有り難うございました。

#### **(4) 地域交流の事例②「ゼミ活動における地域企業との連携—商品開発とまちづくりイベント—」**

##### **許伸江先生 (マネジメント学部)**

ゼミの紹介ですが、中小企業、地域活性化、女性起業家というテーマで学生を集めており、2年生はインターンシップがあり、主に中小企業やまちづくりイベントに参加しております。教室内では、テキストの輪読や、仲間に紹介したい中小企業の発表等を行っています。学外では、「モノマチ」や「スミファ」などのイベントに参加しています。3年生は、就活前の一番、動きやすい時期ですので、たくさん活動しています。春学期はテキストで基本的な知識を習得したり、「モノマチ」という台東区のまちづくりイベントにボランティア参加をします。秋学期はグループ研究を行うのと並行して、学外では「MATAGI活動」も行っています。学生の多くは、親、バイト先、先生くらいしか社会人と接する機会がないので、様々な方と交流して、視野を広げようというのが当初の目的でした。本学学生は、就活においてアピール苦手な点がありますので、4年生では、就活できちんと頑張ったことをアピールするよう、サポートしております。

ゼミの取り組みとして行っている商品開発を紹介します。私共は「MATAGIプロジェクト」というものに参加しております。シカやイノシシが害獣と呼ばれて、それを猟師さんが駆除した後の皮が捨てられていたのを、有効資源化して、地域、まちづくりに生かそうというような取り組みです。今現在300カ所ぐらいの産地さんから皮が送られてきて、墨田区の企業がなめして、地域に送り返す活動を



NPOで行っています。剥いだ後の腐ってしまう皮を、薬品を使ってなめすことで、材料の革にするという作業を社会貢献的にされている山口産業という企業が墨田区にあります。私が趣味として工場見学に個人で行ったところ、興味深く、学生と一緒に何かできないかという話になったことがきっかけでした。

初年度、2012年度は、まずNPOの事務局活動からお手伝いしました。時々セミナーなども開きますので、学生と一緒にそのボランティアをやっておりました。翌年から、全国の産地に、『マタギニュース』というメールマガジンで「今月の情報」などを発信しました。2016年からFacebookに移行しております。2014年度からは、毎年1、2個ずつ商品を作ってきましたので、ご紹介します。

まず「皮をなめ（鞣）すって何？」という疑問から、工場見学に行かせてもらっています。動物の皮の臭いとか毛とか、学生には驚くことがいろいろあるのですが、実際見学するとなめすということかとかわり非常に勉強になります。プロジェクト活動の中で学生がしっかり働いていると、非常に皆さん喜んでくれるし、学生もとても勉強になります。以前、MATAGIのイベントで跡見学園女子大学のブースも作ってもらい、研究発表の場を提供してもらいました。2012年度は学生にアンケートを採り、革製品やマタギの革について聞いたところ、革製品はなじみが薄く、高く買えないなどの感想がありました。また、意外にシンプルなものが好まれるとか、牛や豚の革は知っているが、イノシシやシカの革は未知だというようなことが、分かりました。

そこから、何か女子大生向けの、自分たちが欲しいものを自分たちで作ってみたいという意欲が生まれてきました。それを見ていた後輩が翌年、実際に作ってみようということで、2014年度、まずは名刺入れから作りました。1年目はまだ猪や鹿の皮が手に入らず、山口産業さんがなめした豚革を使いました。マネジメント学部では、2年生が全員インターンシップ必修なので、インターンシップ先での名刺交換が必要です。そこで、名刺入れを作成しました。学生はそれまでは、100円ショップで購入したり、家族に借りたりしていました。そこでシンプルなものを作れば、学生が買ってくれるのではないかと、ということで、落ち着いた色で、三種類作りました。オリジナルの跡見マークも作りました。学生向けに破格とし、2,980円で販売しました。チラシ配布などPRは、学生にやってもらいました。跡見の先生方や職員の方もたくさん買ってくださいました。60個作ってみたところ、完売できたのです。

また、学外の社会人の方にも非常に好評でした。同じものをメーカーさんが売ると9000円、ブランドのロゴを付けると2万円くらいで売れるので、品質はいいのですが学生には安くしました。小物メーカーさんに名刺入れを作りたいと相談したのですが、実際には自分たちでは制作はまだ無理なので、色の組み合わせとかをサンプルを見て決め、中の布はどうしようとか、インターンに使うにはどうなのがいいだろうとか、そんなようなことを話しあい、学生が決めました。あと、ロゴを10種類ぐらい作って、跡見のサクラのロゴに手を加え、アンケートを採って、一番人気のものの金型をつくり、その金型を押して、マークを付けました。この金型は今でも使用しています。

2年目は、もう少しきちんと自分たちでオリジナルのものを作りたいということで、手帳に付けてペンを挿すホルダーを作成しました。今回は、マタギの革を使いたいということで、メールマガジンで呼び掛けたところ、岩手県岩泉町の役場の方が革を提供してくれました。実は産地も、皮は取ってくるのだけど使い道がなく、デザイナーもいないし、作家もいないので困っていたところでした。猪・鹿の革を4枚くらい頂きました。さらに協力者が増え、表面加工のため塗料メーカーが協力してくれました。革は、表面加工をしないと、水滴をはじかず、手あかが付いて汚れるのです。

次は、役割分担を決めて、生産、販売です。300個ぐらい作成し、1つ1,500円で販売しました。

東京スカイツリーのソラマチの6階でMATAGI展というのがあって、そこで販売しました。ゼミの1期生がSNSを見て買いに来てくれたりなどして、縦のつながりもできるようになりました。このとき100個売ることができました。猟師さんも岩手県から来てくれて、仕留めたシカがこうなったかみみたいな感じで、非常に喜んでくださいました。

翌年以降も商品開発は続いております。がま口が作りたいたい、ということになり、メーカーさんに行って試作品を作ってみて、ここまでメーカーに任せて、ここからは自分たちでやろうとか、金具は自分たちで買おうとか、役割分業を決めてやりました。実は、がま口を作ると端切れが必ず出るので、もったいないので、サステナブル的にもこれ使おうということになりまして、型抜きをしてアクセサリーを作るチームができました。がま口チームとアクセサリーチームに分かれて、制作を行いました。私が感心したのは、自分で埼玉県の革小物の工場に電話をして、交渉して工場を使わせてもらい、自分たちで実現したことが素晴らしいなと思いました。実際このように、とてもかわいいアクセサリーがたくさんできました。本学開催の「桜まつり」でも、販売しました。

その翌年以降もずっと商品開発と販売をしています。2018年度には、パスケース。さらに端切れが出るのでコード留めを作ろうとか、自分たちで考えて行動しています。今年はベルトを作っています。

心掛けていることは、色々な方にお世話になるので、お世話になった方には色紙にお礼を書いてお渡ししております。

マネジメント学部生としては、実際に商品企画といえないまでも、自ら企画して、資材も調達して、企業と交渉するという一連の活動を体験し、それからマーケティングでは、机上の勉強と実際やるのはまた違って、価格設定どうしたらいいだろうとか、とても勉強になります。物を作って売って、最後に利益を出すことがいかに難しいか。いくら安くしても買ってくれなかったとか、利益が出ないだとか、そんなことが勉強になっています。作りたいものと売れるものは違うと実感しています。また、ものづくりの現場を知ることにもつながっています。日本のものづくりは、企業間分業で成り立っています。デザイナーや資材業者、メーカーがどのように分業しているのか、勉強になっています。あとは、親やバイト先、教員以外の人と交流ができることとか、自信が付くとか人間関係の幅が広がります。このことは、就活にも大いに役立ちます。

企業もメリットがないといけないのですが、現役大学生のニーズとか意見を知ることが大きなメリットのようです。中小企業は、新入社員を毎年のように採るわけではないので、下の人はいつまでも下なのですね。そこで学生を教えることで社員教育に役立つというので、ありがたがられております。産地側にも、学生が販売時に地域のPRをしてきて、地域の現状を知ってもらえることは、すごくありがたいと言っています。

とはいっても課題がありまして、大学のゼミの取り組みなので、教育面の効果を重視するために収益性は非常に弱いです。現在在庫もいっぱいありますので、気になったものがあったらお声掛けください。また、交通費が非常に負担になっています。これは地域交流課にぜひお願いしたいなと思っております。お世話になった中小企業のメーカーさんが廃業し、連絡が取れなくなるなど、困ることもあります。いかに企業や社会に貢献できるかということを常に考えないといけないなと思っております。マネジメント学部生として、跡見の子は何をしてくれるのかな、何ができるのかっていうのは、常に考えております。

### (5) 地域交流の事例③「長野原学研究会の成り立ちと活動」老川慶喜先生（観光コミュニティ学部）

観光コミュニティ学部の老川です。今までのご発表と比べると、私のお話しする長野原学研究会は少し性格が違うかなと思います。観光コミュニティ学部が発足して、私も本学に赴任したわけですが、そのときに学部の教員がみんなで取り組める研究活動をしたいなと漠然と考えていましたところ、これからお話をする事情がありまして、2016年度に「長野原学研究会」を立ち上げることができました。

長野原町というと、長野県にある町かと思われる方が多いかと思いますが、実は群馬県の町なのです。ちょうど長野県の軽井沢町と群馬県の草津町という著名な観光地の間にあり、あまり知名度は高くありません。1889（明治22）年に町村制が施行され、近隣の1町9か村が集まって長野原町が誕生するのですが、その後今日まで、あの平成の大合併のなかでも草津町や軽井沢町に合併されることもなく、独立を維持してきました。長野原町は、民主党政権のときにいったん建設が中止されて有名になったハッ場ダムのある地域から、国道146号に沿って長野県の軽井沢町に隣接している北軽井沢の方に向かって伸びています。ちなみに、北軽井沢は別荘地として開発されてきましたが、長野県ではなく群馬県に属しています。地元の方に聞きますと、長野原町の北軽井沢の方は「上の段」、ハッ場ダムの方は「下の段」と呼ばれ、もちろん標高の高低を言い表す言葉でもあるのですが、住民の生活圏が異なり意識構造にも差があるとのことでした。

長野原町の人口は、1889年に町が誕生したときには2021人でした。第1回の国勢調査が行われた1920年には5057人、戦後の高度経済成長が始まる1955年には8349人となりました。しかし、その後は減少に転じ、2016年の時点で5844人となりました。1925（大正14）年の人口が5877人ですから、ちょうど大正の終わりごろの人口に戻ってしまったということになります。

私が本学に赴任したころ、当時の山田徹雄学長から、学生と一緒にまちづくりなどをするという地域貢献もいいが、もう少し大学らしくアカデミックな地域貢献を考えられないだろうかという相談を受けました。それならば、跡見学園の研修所のある長野原町を研究対象とした研究会を組織できないだろうかと申し上げました。跡見学園は、長野原町の北軽井沢地区に4800㎡の敷地に4棟の建物を擁する研修所をもっているのです。ここを拠点に、長野原町の地域学を研究し、地域に貢献できないだろうかと考えた次第です。これは、観光コミュニティ学部にはふさわしい活動ではないかとも思いました。

ちょうど山田学長とそんなことを話しているときに、長野原町の萩原睦男町長が文京区役所を訪ね、農山村と都会の地域交流をできないかと相談に来ていました。萩原町長が、文京区長から跡見学園女子大学に相談してみてもどうかとアドバイスを受けたとあって、跡見を訪ねてきたのです。萩原町長も、長野原町を何とかして活性化したいと考えていたようです。

そこで、萩原町長に長野原学研究会の構想を話してそれはおもしろいということで、話はとんとん拍子に進んでいきました。学部に戻って霧理恵子先生に相談すると、即座に賛成してくれました。観光コミュニティ学部は新設の学部でしたので、さまざまな専門分野の先生がおりました。私と同じように歴史を専攻している方、社会学を専攻し全国各地を調査している方、民俗学を専攻している方、あるいは純粋に経済学や経営学を研究されている方と、実に多彩です。そこで、それぞれの方がご自分の問題関心から長野原町を研究し、その成果が長野原町の方々の役に立つことが多少なりともあれば、それなりの地域貢献になるのではないかとということで長野原学研究会が発足しました。

幸い多くの方に集まっていただき、最初の2016年度には霧先生が幹事役を引き受けてくれました。次年度は土居洋平先生、その次は塩月亮子先生が幹事役を引き受けてくれまして、今年度（2019年度）

は私が幹事をしております。土居先生が幹事のおときは大変活発な活動をしておりまして、年に6回もの研究会を実施しています。大学外の先生もお呼びして報告をしてもらうなどして、隔月で研究会をやっていたのですから大変なものだと思います。土居先生、塩月先生が幹事のおときには、本学の研究助成も受けていました。

夏休みには、跡見の北軽井沢研修所で長野原町にお住まいの方を巻き込んで、2016年度から毎年シンポジウムを実施してきました。配布しました資料の中に「長野原町の過去と現在、そして未来へ」(2017年度)、「長野原町を考える―「観光」と「コミュニティ」の視点から」(2018年度)というのがありますが、これはシンポジウムの開催を知らせるチラシです。2017年度には、塩月先生が長野原町の造り酒屋の歴史を掘り起こしながらどのように地域貢献をしてきたかを話していただき、早稲田大学の大学院生の方がハッ場ダムと地域コミュニティの関係を詳細に報告してくれました。

シンポジウムなどを計画すると、主催者側としてはどれだけの方が参加してくれるかということが気になるのですが、毎年たくさんの方が集まってくれました。跡見の研修所の会議室の定員は30～40名程度なのですが、いつもそこがいっぱいになるというような盛況ぶりでした。しかも、参加者の意識が高く、よく発言をしてくれました。シンポジウムを通じて、かなり濃厚な地域交流ができたのではないかと考えています。

地域学というのは、今ではどこの大学でも取り組んでいて、私の前任校の立教大学では「池袋学」というのをやっております。また、私の親しい國學院大学の友人は「渋谷学」に取り組んでいて、研究書を何冊も出版しています。学術的な成果をきちんと出せればよいのですが、そこまでいなくても何人かの教員が集まって楽しく研究をし、それが地域の方々にいくばくかでも役に立てば、それはそれでいいのではないかと考えています。もちろん将来的には、しっかりした学術書を出したいとは思っています。

ところで、長野原町の隣の軽井沢町では、毎年8月の上旬に「軽井沢夏季大学」というのを実施しております。後藤新平と新渡戸稲造の発案で始められたもので、もう100年以上の歴史をもっています。後藤新平は「学俗接近」という理念をもっていて、すなわち大学のアカデミズムの成果を大学のなかにだけ止まらせておくのではなく、ひろく社会に還元すべきだという考えで夏季大学を提唱したのです。軽井沢夏季大学とまではいなくても、それに似たような形で本学が地域貢献をできたら素晴らしいなと思っています。というのは、最近の大学では「学」を「俗」に広めるのではなく、「俗」を「学」のなかに取り込むことに熱心ですが、大学のアカデミズムが実社会においても大切で役に立つのだということを示していけないと、大学の存在意義がなくなるのではないかという危機感を抱いているからです。

#### **(6) 地域交流の事例④「高齢者と学生の交流会「ふれあいカフェ」 宮岡佳子先生 (心理学部)**

心理学部の宮岡です。心理学部で私がしております、「ふれあいカフェ」のお話をいたします。

まず心理学部の地域支援活動として、今日発表する、「高齢者支援のふれあいカフェ」のほかに、母子支援として、文京キャンパス近くの助産院で、松寄先生、酒井先生、私で、「おしゃべりタイム」といって、出産後のお母さんたちの気軽なおしゃべり会を定期的に開催しております。それから、野島先生が新座の心理教育相談所と、文京の心理教育相談所で、不登校の親御さんの支援のグループで話し合う会、「不登校を考える親の会」というのをしています。もともと臨床心理というのは、地域支援というのが非常に大事なものでありまして、このようなことを数々しております。

ふれあいカフェは2013年に開始しました。このきっかけは、文京キャンパス近く、今ちょうど更



地になっているところに、一時的な建物として「跡見ギャラリー」ができて、そこに相談所の分室「ATOMIさくらルーム」を作ってくださいました。そこで「ATOMIさくらルーム」の地域支援活動として始めました。高齢者と本学学生の交流会で、学生がおもてなしして、お茶とかお菓子、それからゲーム、合唱、おしゃべり、これを小テーブルごとに分かれて楽しむもので、現在、2019年に15回目をしております。データを取ってみたのですが、最初のうちは周知をしなければならないので、年間5回とか4回やっていたのですが、だんだん特定の人たちを対象にしたので、逆にあんまり飽きないほうがいかなと思って、2017年からは年1回にしました。延べ237名の高齢者の方、あと、学生も96名の学生で、大体、平均して1回15.8、学生が6.4という数字になっています。

前回のふれあいカフェの概要をお話しします。お手元にふれあいカフェのチラシと、学生に配布した進行表があります。場所は、跡見学園女子大学の学生寮でしております。文京キャンパスの近くのメゾン音羽です。対象が、目白台交流館という、護国寺近くの交流館で活動する高齢者クラブの方です。メゾン音羽の寮長さんも参加され、職員で地域交流課の加藤さんに手伝ってもらいました。ですからチラシも、一番下、企画担当は私と加藤さんのお名前と、学生ボランティアで、みんなでやってるよという感じで記しております。

実際の様子ですが、とてもきれいな建物で、食堂もきれいなんですね。こういうふうには小テーブルに分かれています。お茶やコーヒーなんかは学生がサービスして、おしゃべりを楽しむという形ですね。なぞなぞなどゲームをします。

高齢者の方に、昨年、一昨年と、戦争体験を語っていただくようにしています。高齢者クラブの方の空襲で悲惨な体験をしたお話です。このことを始めたきっかけというのが、ある時学生が、カフェが終わった後に、「先生、引き揚げてなんですか。分からなかった」って言ったんですね。ですから、「非常に深刻な話をしているのだけど、入っていきなかつた」って言って。雰囲気、すごいことらしいってことはわかったらしい。これ、代々、伝えていかないと大変なことになるなと思って始めました。戦争体験のお話を、こういうちょっとしんみりしたところで、歌を歌って終わりみたいな形を考えています。

カフェの運営のポイント、三つ考えてみました。まず、「周りの助けやアドバイス」、次に、「ゲーム等の企画」、三つ目に、「学生のモチベーション」です。

まず、「周りの助けやアドバイス」っていうのは、私が2013年から始めて、いろんな方の助けがなかったら、とてもここまでできませんでした。それで変遷をお示しすることで、いかに周りの方から助けていただいたかを、ご紹介したいと思います。企画はしたのですが最初に周知方法に困りました。ですから私、文京キャンパスの茗荷谷駅前の三徳まで行って、あそこの掲示板に、貼らせてくれますかってお願いしました。店長さんに断られちゃったんですね。そしたら、さっき文の京の話に出てきた内山事務局長さんが、文京アカデミーにチラシを置かしてくれるような配慮をさせていただいて、初回はそれを見て4人。あと、インターネットで見て1人の方の参加がありました。ちょうど大学が文京区とタイアップする企画が多い時期で、その関係者の中に熱心な高齢福祉課の方がいらっちゃって、その方が高齢者クラブの方に声を掛けていただいて、そして少し軌道に乗り始めたということで、本当に有難かったです。

2015年から、今度「さくらルーム」が移転して、今、茗荷谷の駅前のあるビルの中になりました。クローズドな構造になって、気楽に地域の方が入れない状況になっていたのも、そこで困ったときにまた



助けがありまして、文京区の方が、「文京地域いきいきプロジェクト」の事業として、目白台交流館という護国寺近くの活動している拠点の交流館で、1年間、行いました。さらに、もう1年そこでやりました。そうしますと、ここで活動する高齢者クラブの方、およびその人が声を掛けた人なので、非常に参加者を集めやすくなって、楽になりました。

内容も参加者の声を反映して、一番初めは「シニアのコミュニティカフェ」っていう名前でしたが、長いので、シニアカフェと短くしたのですが、「私たちはシニアじゃない」、「シニアっていう名前が嫌だ」って言われて、「ふれあいカフェ」に変えました。最初は、私も張り切って心理の講義をして、その後、楽しくおしゃべりみたいな構成したのですが、「もう勉強は嫌だ」と。「楽しくやりたい」っていう声が出て講義は止めました。以前のように毎回やっていたら、いつか講義のネタ切れするから不安だったのですが、ゲームだけになったので、楽になりました。2017年から目白台交流館の使用が難しくなって、ここでもちょうど、事務の小又さんがアイデアを出し、学生寮でしたらと言ってきて、学生寮で交渉して始まりました。寮長さんが協力的ですし、寮生に参加してもらえ、設備もいい。それから柔軟に対応していただけるというメリットもあります。対象は、目白台交流館で活動する高齢者クラブの方に限定しているということです。

2番目に、ゲームなどの企画。これは「アイスブレイク」という考えがありまして、要するに氷を解かすってことです。初対面の人がいきなり一堂に会したら、みんな緊張するわけですね。そこで簡単なゲームをやって打ち解けて、おしゃべりに持っていくってことです。逆に高齢者の人は元気よくて、緊張しているのは学生さんのほうなんていうこともあります。この「アイスブレイク」の考え方ってというのは、私の専門の精神科医療でも、集団精神療法で最初に「アイスブレイク」のゲームをやったり、会社の研修とか学校でも使える手法で、学生にも役に立っています。こういう「アイスブレイク」とか「グループファシリテーション」とか、高齢者のゲームの本を参考にして、先生がたも是非、プロゼミとかゼミで「アイスブレイクゲーム」をやられると、とても和気あいあいとってお勧めです。

好評だったゲームとしては、自己紹介の時、例えば、「カルボナーラスパゲティが好きな宮岡です」とか言ったりして、一言添える。「2回しりとり」というのは、キツネ、ネコって自分で2回言って次に回す。あと、「なぞなぞ」ですね。景品を付けました。「俳句ゲーム」とは、五七五を作って、ばらばらに箱に入れてシャッフルして、1人ずつ引いていくのですね。そうするとジェネレーションギャップがあって、上の句が例えば、五月雨のとか、きれいな句があって、下の句が、定期試験って明らかに学生が作ったものが出来る。それ、盛り上がりますね。「見えないプレゼント」っていうのは、ジェスチャーして、自分があげたいプレゼントをジェスチャーで伝える。不向きなゲームもありまして、杖の人もいるので、椅子から立ち上がるものはしません。あと、体を使う体操もしません。深呼吸させようと思ったら、肩甲骨が痛って駄目なことがあります。複雑なゲームとか、記憶力等のゲームもやめたほうがいいですね。

最後のポイントとして、「学生のモチベーション」です。リクルート方法で、まずはゼミで希望を募るようになっています。ゼミ単位で活動することはしなくて、やりたい人だけやる。希望者が少なければ、私の授業で募ります。経験上、大きな母集団に声を掛ければ、参加希望の学生は必ずいます。人文学科の学生さんが参加したこともありました。それから、知らない人と会話することへの不安とか、何をするか分からない不安に対しては、私が、学生の負担が少ないイベントであることを伝えます。「なぞなぞ」も私が全部、選んであげるから、と言っています。あとは、「高齢者にとっては若い人がいるだけで

も楽しいのだから、あなたたちがいるだけでいいのだ」って言ってます。「進行表」というのも、事細かに私がスケジュール組んで、「そのとおりやればいい」と言います。大きな声でゆっくりしゃべってくださいみたいな注意はしています。

どんな学生が参加してきたかですが、印象ですけども、何かをすることにおっくさを感じない、軽い気持ちでやってみようと思える人が多い。しかし、興味を感じれば、おとなしい学生も参加します。あとは、ボランティア的なことをしたかった、友達が参加するので参加という人。臨床心理の大学院に進学希望の学生が意外と参加していて、実践的に学びたいって気持ちが強いのだと思います。寮生では役員の学生が必ず参加してくれます。

最後です。高齢者の方はクラブに参加しているだけあって、心理的に健康度が高く、とても明るい人たちです。若い世代と話すことだけでも楽しんでいただけ、高齢者の心の健康支援に役立っている。学生たちにも、コミュニケーションスキルを向上させる場になっている。今後の課題として、飽きさせないように内容に工夫が必要です。来年度、心理学部の3年生は新カリキュラムの学生で、公認心理師対応で実習や演習が旧課程より多く、教員も学生も日程が確保できるかという懸念はあります。

# 令和2年度の地域交流関連活動記録

貴堂直

## 跡見学園女子大学における「地域交流事業」の運営体制

### 1. 跡見学園女子大学地域交流センターについて

跡見学園女子大学地域交流センターは、本学に所属する教員や学生が地域交流活動を組織的・積極的に進めるように地域交流活動の支援を行い、そのために必要な環境整備を行うことを目的に、附属教育研究組織として平成31年度より設立されました。（「地域交流センター規程」）

具体的な活動は、下記の通りです。

- ① 地域交流活動の企画立案・実施
- ② 本学の地域交流活動についての情報収集及び成果の公表
- ③ 本学の地域交流活動に対する人的支援・財政的補助  
（本学の「正課」「正課以外」、本学教員の地域における調査・研究、本学人材の地域への提供等）
- ④ 地域交流活動への本学施設の開放
- ⑤ 自治体との包括連携協定の推進と協定締結自治体との連携事業の実施・支援

### 2. 地域交流センター運営委員会について

地域交流センター運営委員会は、地域交流センターの上記の具体的な活動に関する事項を審議することを目的に、委員長たるセンター長と各学部より選出された委員および、若干名の専門委員により組織されています。（「地域交流センター運営委員会規程」）

### 3. 地域交流センター運営委員会開催一覧

令和2年度運営委員会

|                    |               |           |
|--------------------|---------------|-----------|
| 第1回（令和2年5月13日〈水〉）  | 14時40分～16時10分 | 〈Teams使用〉 |
| 第2回（令和2年7月8日〈水〉）   | 14時40分～16時10分 | 〈Teams使用〉 |
| 第3回（令和2年9月23日〈水〉）  | 14時40分～16時10分 | 〈Teams使用〉 |
| 第4回（令和2年11月11日〈水〉） | 14時40分～16時10分 | 〈Teams使用〉 |
| 第5回（令和2年12月16日〈水〉） | 14時40分～16時00分 | 〈Teams使用〉 |
| 第6回（令和3年3月8日〈月〉）   | 13時00分～14時50分 | 〈Teams使用〉 |

## 令和2年度 新たな連携地域・企業

(提携日順)

**連 携 先** 公益財団法人角川文化振興財団との連携協力協定

**日 時** 令和2(2020)年8月1日(土)

跡見学園女子大学は、公益財団法人角川文化振興財団(所在地:東京都千代田区、理事長:角川歴彦、以下 角川文化振興財団)と、同社が運営する「角川武蔵野ミュージアム」について、連携協定を締結いたしました。本学は、現在、同施設が連携する唯一の大学となります。

「角川武蔵野ミュージアム」は、埼玉県所沢市(旧所沢浄化センター跡地)に、同市と株式会社KADOKAWAが推進する「COOL JAPAN FOREST 構想」の中核として誕生する、日本最大級のポップカルチャーの発信拠点「ところざわサクラタウン」<sup>(\*)</sup>内の図書館・美術館・博物館が融合した文化複合施設として、11月6日グランドオープンを迎えます。世界的建築家の隈研吾氏による建物の中は、約2万5000冊もの書籍を所蔵し、多様なアプローチでラノベ・マンガの魅力を世界に発信する「マンガ・ラノベ図書館」や、アニメを文化として捉え作品を取り巻くエンターテインメント全体とともに取り上げる「EJアニメミュージアム」、約3万冊が並び360度全てを高さ8メートルの巨大書架に囲まれる空間「本棚劇場」、約1000㎡の巨大空間にて物語を持つすべてのものを展示対象とする「グランドギャラリー」など、知と遊が連鎖する施設で構成されています。

跡見学園女子大学は、現代社会で生み出されるカルチャーやエンターテインメントといった文化表現を学びの分野とする文学部現代文化表現学科を中心に、全ての学部学科の学びのさらなる充実と、地域との密接な交流・貢献を持続的に実現できることから、本学新座キャンパスから近い東所沢に位置する「角川武蔵野ミュージアム」と現在唯一の連携大学として連携協定を締結いたしました。

積極的な相互交流や協力・貢献の場として、インターンシップなど学生の派遣をはじめ、学芸員資格取得に関連したグランドミュージアムなどでの美術館実習などを検討しています。また、学生による企画提案およびイベントへの参加や、本学キャンパスをミュージアムのサテライトと位置付けた企画への協力など、図書館・博物館・美術館の三部門を最大限に活用した構想が進んでいます。

\*1「ところざわサクラタウン」

KADOKAWAが建設・運営する書籍製造・物流工場や所沢キャンパス(新オフィス)、イベントスペース、ホテル、ショップ&レストラン、ダ・ヴィンチストア、商業施設、そして「角川武蔵野ミュージアム」で構成されており、2020年4月に竣工しました。8月1日よりプレオープンし、11月6日にグランドオープンを迎えます。

**連 携 先** エーザイ株式会社との連携協力協定 ～コミュニティスペース運営協力に関する協定～**日 時** 令和2(2020)年9月24日(木)

跡見学園女子大学は、エーザイ株式会社との間で、「文京区千石三丁目居場所づくりプロジェクト実行委員会」の準備・運営するコミュニティスペース（所在：文京区千石三丁目三番七号）への協力（知的資源の提供・人材の派遣等）、および類似の目的で準備・運営されるコミュニティスペースへの協力（知的資源の提供・人材の派遣等）を目的として、連携協力協定を締結しました。

エーザイ株式会社は、現在、CSR活動の一環として文京区千石三丁目居場所づくりプロジェクトに対して、資金や人材、知識の提供を行っておこなっています。本プロジェクトは、区内の各公共施設から距離のある千石三丁目エリアの空き店舗を使ってコミュニティスペースを開設し、ここを拠点に高齢者支援や子育て親子支援等の地域に関わる活動が展開するような、地域の居場所を創り出そうというものです。

運営は、実行委員会形式で行われ、文京区社会福祉協議会が事務局となり、委員会にはエーザイ株式会社、町会、区地域活動センター、高齢者安心センター、地元住民が参加しています。

千石三丁目は、本学文京キャンパスから徒歩15分程の距離にあるエリアということもあり、文京区社会福祉協議会およびエーザイ株式会社から、本学地域交流センターに対して本プロジェクトへの参加の要請がありました。地域交流センターでは、キャンパス近隣において開設当初から関われる貴重なプロジェクトと考え、協定締結以前より、センター長が実行委員会に参加している他、既に学内に参加希望を募り、複数の学部学科で関連の活動の検討がはじまっています。

本プロジェクトは、キャンパス近隣地区で3・4年次を中心に学生の参加が容易であり活動の継続性が期待できるものです。また、地域に根差したコミュニティ形成の活動であり、コミュニティデザイン学科等の教員・学生の専門的知識を活かした社会貢献活動の実践も期待できます。さらに、地域の課題として既に挙がっているなかに高齢者や子育て世代への心身のサポートがあり、心理学部やマネジメント学部の専門的知識を活かした社会貢献活動の実践も期待できます。以上、学内の多様な知的資源を活用した社会貢献、また、実践的な教育の場として大きな期待ができるものと考えています。

また、エーザイ株式会社は文京区小石川に本社を置く企業であり、その企業理念から社会貢献活動や地域連携活動の実績も豊富であり、医療分野を中心に専門的な知識の蓄積もあります。本プロジェクトを通じた本学との連携を通じて、エーザイ株式会社と本学の知的資源の共有が進むことは、両者にとって有益であると考えています。この共有を組織的に進めるためにも、協力協定の締結が望ましいと考え、また、この活動を学内の多様な知的資源を調整して協力を推進していく必要があることから、今回の協定の締結に至りました。

今後は、上記の目的を実現するために、相互交流、研究成果・知識の交換を行い、地域社会の発展・活性化に貢献してまいります。



## 跡見学園女子大学 自治体等 協定締結先一覧 (令和3年2月現在)

※締結順

| 自治体等                            | 協定名                                 | 締結年月日                            | 有効期間      | 期間終了後 | 協定内容                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 埼玉県新座市                          | 新座市と跡見学園女子大学との連携協力に関する包括協定          | H20.4.10                         | H22.4.10  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の充実に関する事項</li> <li>・教育・文化・スポーツの発展と振興に関する事項</li> <li>・地域環境の保全・回復・創出に関する事項</li> <li>・防災に関する事項</li> <li>・国際交流に関する事項</li> <li>・産業振興に関する事項</li> <li>・地域コミュニティの発展に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> </ul> |
| 東京都文京区                          | 学校法人跡見学園跡見学園女子大学と文京区との相互協力に関する包括協定  | H23.5.17                         | H26.3.31  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究の成果及び人材の提供</li> <li>・施設の利用</li> <li>・インターンシップの実施</li> <li>・学習活動支援事業の実施</li> </ul>                                                                                                                 |
| 埼玉県新座市・埼玉県新座警察署                 | 新座市における女子学生安全対策協定                   | H23.7.29                         | H25.7.28  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子学生に対する防犯指導</li> <li>・安全情報の提供及び情報交換</li> <li>・学生防犯リーダーによる啓発活動への支援</li> </ul>                                                                                                                         |
| 福島県会津若松市                        | 学校法人跡見学園跡見学園女子大学と会津若松市とのパートナーシップ協定  | H24.7.25                         | H27.7.24  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究の成果、地域施策の充実及び人材の提供</li> <li>・施設の利用</li> <li>・インターンシップの実施</li> <li>・学習活動支援事業の実施</li> </ul>                                                                                                         |
| 東京都文京区                          | 災害時における母子救護所の提供に関する協定               | H24.9.7                          |           |       |                                                                                                                                                                                                                                               |
| 埼玉県和光市                          | 和光市と学校法人跡見学園 跡見学園女子大学との相互協力に関する包括協定 | H24.11.22                        | H27.11.21 | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の充実に関する事項</li> <li>・学校教育・生涯学習・文化・スポーツの発展と振興に関する事項</li> <li>・地域環境の保全、創造に関する事項</li> <li>・国際交流に関する事項</li> <li>・産業振興に関する事項</li> <li>・地域コミュニティの発展に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> </ul>                |
| 埼玉県新座市                          | 災害時における施設の使用に関する覚書                  | H25.1.10<br>締結<br>H26.2.13<br>改訂 |           |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時におけるグラウンド及び体育館での避難所の開設</li> <li>・新座市役所と本学のホットラインの設置</li> <li>・物品資材の配置</li> </ul>                                                                                                                   |
| 一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 |                                     | H26.6.23                         | R1.12.31  |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的分野及び教育的分野での連携</li> <li>・オリンピック・パラリンピック競技大会に関わる研究分野での連携</li> <li>・オリンピック・パラリンピック競技大会の国内PR活動での連携</li> <li>・オリンピックムーブメントの推進及びオリンピックレガシーの継承に関する連携</li> </ul>                                            |

| 自治体等       | 協定名                                       | 締結年月日     | 有効期間      | 期間終了後 | 協定内容                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------|-------------------------------------------|-----------|-----------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全国「道の駅」連絡会 | 「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定                   | H27.3.10  |           |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「道の駅」就労体験型実習の実施</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |
| 長野県        | 学校法人跡見学園跡見学園女子大学と長野県との相互協力に関する協定          | H27.6.22  | H29.3.31  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究の成果及び人材の提供</li> <li>・学生の就職支援</li> <li>・インターンシップの実施</li> </ul>                                                                                                                                               |
| 警視庁大塚警察署   | 災害及び防犯ボランティア等に関する協定                       | H27.9.1   | H28.8.31  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災及び防犯等各種広報活動に対する共同活動</li> <li>・発災時に文京区が設置する避難所等における災害警備活動</li> </ul>                                                                                                                                           |
| 秋田県男鹿市     | 秋田県男鹿市と学校法人跡見学園跡見学園女子大学との連携協力協定           | H27.12.21 | H30.12.21 | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある地域づくりに関する事項</li> <li>・観光振興に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> </ul>                                                                                                                                            |
| 山形県西川町     | 山形県西川町と学校法人跡見学園跡見学園女子大学との連携協力協定           | H27.12.22 | H30.12.22 | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある地域づくりに関する事項</li> <li>・観光振興に関する事項</li> <li>・情報発信に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> </ul>                                                                                                                       |
| 群馬県長野原町    | 学校法人跡見学園女子大学と長野原町との相互協力に関する包括協定           | H28.4.19  | H31.4.19  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術研究の成果及び人材の提供</li> <li>・施設の利用</li> <li>・その他前条の目的を達成するために甲及び乙が必要であると認めたこと</li> </ul>                                                                                                                            |
| 埼玉県三郷市     | 三郷市と学校法人跡見学園女子大学との相互協力に関する包括協定            | H29.3.6   | H30.3.6   | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉に関する事項</li> <li>・学校教育・生涯学習・文化・スポーツに関する事項</li> <li>・地域環境に関する事項</li> <li>・国際交流に関する事項</li> <li>・産業振興に関する事項</li> <li>・地域コミュニティに関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> <li>・その他前条の目的を達成するために甲及び乙が必要であると認める事項</li> </ul> |
| 富山県立山町     | 富山県立山町と学校法人跡見学園跡見学園女子大学との連携協力協定           | H29.5.22  | R2.5.22   | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある地域づくりに関する事項</li> <li>・観光振興に関する事項</li> <li>・情報発信に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> <li>・その他上記の目的に関して、両者が協議して必要と認められる事項</li> </ul>                                                                              |
| 長野原町       | 長野原町と跡見学園女子大学観光コミュニティ学部との観光振興プロジェクトに関する覚書 | H29.6.1   | H29.11.19 |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野原町八ツ場地区における調査研究活動への協力</li> <li>・学生による調査研究結果の提供、及び研究成果の地域での活用</li> </ul>                                                                                                                                       |

| 自治体等           | 協定名                                | 締結年月日    | 有効期間     | 期間終了後 | 協定内容                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------|------------------------------------|----------|----------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 和光市文化振興公社      | 公益財団法人和光市文化振興公社と跡見学園女子大学との相互協力協定書  | H29.6.23 | R2.3.31  | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化更新に関する事業</li> <li>・地域コミュニティの発展に関する事項</li> <li>・地域文化資源に関する事項</li> <li>・人材育成に関する事項</li> <li>・その他、甲と乙が相互に必要と認める事項</li> </ul>                                                                                                             |
| 千葉県いすみ市        | いすみ市と跡見学園女子大学における域学連携に関する協定書       | R1.6.1   | R2.3.31  |       | いすみ市における地域創生をテーマに共同で研究、実践活動を行うことを目的とする。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 静岡県東伊豆町        | 東伊豆町と跡見学園女子大学との相互協力に関する包括協定        | R1.11.19 | R4.11.18 | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある地域づくり</li> <li>・観光振興</li> <li>・情報発信</li> <li>・人材育成</li> <li>・研究教育</li> </ul>                                                                                                                                                        |
| 株式会社ジャルパック     | 跡見学園女子大学と株式会社ジャルパックとの連携に関する協定      | R2.2.4   | R3.2.3   | 自動更新  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、研究、文化の発展・向上に関わる相互支援</li> <li>・学生・教職員と社員の相互交流</li> <li>・人材育成・キャリア形成</li> <li>・学生・教職員の研究成果・活動を業務に活かす</li> <li>・地域社会の発展・活性化</li> </ul>                                                                                                  |
| 公益財団法人角川文化振興財団 | 跡見学園女子大学と公益財団法人角川文化振興財団との連携に関する協定書 | R2.8.1   |          |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、研究、文化の発展・向上にかかわる相互支援に関すること</li> <li>・学生及び教職員と社員の相互交流に関すること</li> <li>・本学の人材育成・キャリア形成に資する支援に関すること</li> <li>・学生及び教職員の研究成果・活動と角川文化振興財団の文化活動の成果を互いに活かすこと</li> <li>・地域社会の発展・活性化に関すること</li> <li>・その他、相互に連携・協力が必要と認められる事項</li> </ul>         |
| エーザイ株式会社       | コミュニティスペース運営協力に関する協定書              | R2.9.24  |          |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・千石三丁目居場所づくりプロジェクト実行委員会の準備・運営するコミュニティスペース（所在：文京区千石三丁目三番七号）への協力（知的資源の提供・人材の派遣等）</li> <li>・前項のコミュニティスペースと類似の目的で準備・運営されるコミュニティスペースへの協力（知的資源の提供・人材の派遣等）</li> <li>・前1項及び2項の目的達成のための相互交流、研究成果・知識の交換</li> <li>・その他地域社会の発展・活性化に関する取組み</li> </ul> |

## 令和2年度 文京区受託事業

|     |                                 |
|-----|---------------------------------|
| 事業名 | 「令和2年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業『朗読コンテスト』」 |
| 主催  | 文京区 主管・運営：跡見学園女子大学              |
| 日時  | 令和2(2020)年11月15日(日) 本選13時～16時   |
| 場所  | 跡見学園女子大学 ブロッサムホール(文京区大塚)        |

新型コロナウイルス感染が拡大する中で行われたコンテストで、会場では感染拡大防止策を徹底する中で実施された。

応募総数：276人(一般170名、青少年106名)  
 ※審査対象外33名(一般17名、青少年16名)  
 ※本選出場者数 青少年の部：6人 一般の部：10人  
 録音審査応募期間：9月7日(月)から9月11日(金)  
 録音審査：9月24日(木)、25日(金)  
 NHK放送研修センター日本語センター  
 本選観覧者：事前申し込み：85人 当日申込：9人  
 関係者：24人 文京区：4人  
 観覧者数：122人

※一般観覧者は、約100名を目途に抑制して実施。席と席の間を間隔をあけて着席していただいた。



受賞者(青少年の部)



受賞者(一般の部)

### 審査結果

| 受賞結果        | 氏名     | 朗読作品   |
|-------------|--------|--------|
| 最優秀賞(青少年の部) | 桑木 栄美里 | 銀河鉄道の夜 |
| 優秀賞(青少年の部)  | 石井 三知留 | 走れメロス  |
| 優秀賞(青少年の部)  | 土屋 三咲  | 銀河鉄道の夜 |
| 最優秀賞(一般の部)  | 小玉 紘史  | 伊豆の踊子  |
| 優秀賞(一般の部)   | 半田 和世  | 伊豆の踊子  |
| 優秀賞(一般の部)   | 小倉 通子  | 羅生門    |

### 審査員

| 氏名       | 肩書                      |
|----------|-------------------------|
| 広瀬 修子 氏  | 元跡見学園女子大学教授、元NHKアナウンサー  |
| 伊藤 文樹 氏  | NHK放送研修センター日本語センター専門委員  |
| 子野日 芳和 氏 | 文京区教育委員会教育推進部教育指導課 指導主事 |

---

**事業名** 「旧伊勢屋質店(菊坂跡見塾)一般公開事業」

**主催** 文京区

**受託** 跡見学園女子大学

---

令和2年度旧伊勢屋質店一般公開は、緊急事態宣言が発令されたため、令和2年3月～5月まで閉館となった。6月からは感染拡大防止策を講じた上で開館した。

### 【施設利用時の注意事項】

グループでの来館はお控えいただく。また、施設前でお待ちいただくことはお控えいただく。

以下に該当する場合は入館をお断りする。

- ・発熱がある場合
- ・体調がすぐれない場合(例：咳、咽頭痛、味覚障害等の症状)
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる人がいる場合
- ・入国制限・観察期間等がある海外から2週間以内に帰国した場合

マスクを持参し着用してください。着用のない場合、入館をお断りすることがあります。

手指を消毒してください。

周囲の人と、できるだけ2m以上の距離を空けてください。

会話は最小限にして、大きな声を出さないでください。

展示物や壁に触らないでください。

同じ場所で長時間滞留しないでください。

入館日を記録した用紙を渡すので、少なくとも2週間は保管してください。

来館後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに連絡してください。

(連絡先：アカデミー推進課 観光担当 電話番号：03-5803-1174)

靴袋は各自で取り、見学中は持参し、使用後はお持ち帰りください。

感染防止のために施設が定めたその他の措置の遵守、スタッフの指示に従ってください。

感染症拡大防止のため、皆様のご協力をお願いいたします。

また、注意事項は今後変更する場合があります。変更があり次第、ホームページ等でお知らせします。

### 【施設での御案内について】

当面の間、スタッフによる口頭での説明は行いません。

館内に掲示のパネル等を御覧ください。

### 【施設の衛生対策】

職員のマスク着用及び手指消毒(手洗い含む)の徹底

職員の体調管理の徹底

施設の換気及び定期的な消毒

館内に感染予防に関する注意喚起や滞留防止を促す目印の掲示



●令和2年度

旧伊勢屋質店(菊坂跡見塾) 一般公開について

年間開館日数 49日

年間来館者数 文京区民 296人

文京区民以外 420人

跡見学園関係者 1人

合計 717人

4、5月は新型コロナウイルス感染拡大のため、臨時閉館。6月以降は、感染拡大防止策を講じた上、開館した。

4

| 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |
| 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 |    |    |    |

月合計0日

5

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

月合計0日

6

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 |    |    |    |    |    |

月合計8日

7

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |
| 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |    |    |

月合計8日

8

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    | 1  | 2  |
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

月合計3日

9

| 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  | 日  |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 |    |    |    |    |

月合計7日

10

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    | 1  | 2  | 3  | 4  |
| 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |    |

月合計4日

11

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    |    |    | 1  |
| 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  |
| 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 |    |    |    |    |    |    |

月合計7日

12

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 |    |    |    |

月合計4日

1

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
|    |    |    |    | 1  | 2  | 3  |
| 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

月合計2日

2

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

月合計4日

3

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 |    |    |    |    |

月合計2日

## 令和2年度 文京キャンパス周辺の地域交流・企業連携事業

### (1) 生活環境マネジメント学科石渡ゼミ3-4年生“熱中症啓発プロジェクト”が「ひと涼みアワード2020」オンライン啓発部門で最優秀賞を受賞。

環境省では、熱中症予防の声かけの輪を広げていこうとする官民連携の「熱中症予防声かけプロジェクト」を推進しています。このプロジェクトが毎年実施している「ひと涼みアワード2020」で、昨年度に引き続きマネジメント学部生活環境マネジメント学科石渡ゼミが「最優秀賞」に選ばれました。今年度の表彰には、全国から440件（行政165件、企業227件、民間団体48件）の応募があり、最優秀賞受賞者は7部門23団体、その中で大学生の受賞は1件のみでした。



対面でのプロジェクト活動が困難な中、7月から熱中症予防に関する動画をYouTubeに毎週配信し、日本語版と英語版を合わせ、すでに34本アップロードしています。

【YouTube ⇒ #Netchusho project】

InstagramやTwitter (#Netchusho2020) も使って活動中です。

### (2) 千石三丁目居場所づくりプロジェクト

- ・月1回の定例オンラインミーティング（学生約20名・教員3名／エーザイ（株）・文京区社会福祉協議会が参加）
- ・施設改修・子ども向けの活動・高齢者向けの活動の班に分かれ、数名単位で三密を避ける形での現地見学・打合せ・作業等の実施
- ・現地町会実施のハロウィンウォークイベント（10月31日／人数限定・コース指定等の感染対策をしたうえで実施）に学生4名が参加
- ・氷川下つゆくさ荘マルシェ（11月7日／来館人数を管理・動線の管理・来場者との距離を管理したうえで、時間を限定（11時～14時）して実施／学生9名・教員2名参加）の運営に協力
- ・年末の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、12月以降は対面での活動を控えている。1月以降、活動に関わる地域の方々へのオンラインインタビュー等を実施した

### (3) B-ぐる車内映像制作プロジェクト

- ・オンラインで企画会議・編集会議の実施
- ・9月に、これまでの映像を再編集した総集編を作成し、バス車内で上映開始
- ・秋学期、対面授業の再開にあわせ、人数を限定し感染症対策を実施した上での取材相談／撮影の実施

- ・今年度の新作品が、12月初旬～より上映
- ・企画会議・編集会議・取材相談はオンラインで継続して行い、感染対策に万全を期して、取材と映像撮影を継続。新作品が、令和3年4月より放映予定

#### (4) 生活環境マネジメント学科 石渡ゼミ3年生が作成した食育ポスターが地域の店舗に掲示されました

文京区では毎年、野菜の日（8月30日）に食育イベント「ハッピーベジタブルフェスタ」を開催しています。石渡ゼミは2019年度まで、6年間連続でこのイベントに出展してきました。

今年度はこのイベントが中止となったため、作成したポスターを他の場所で展示する方法を模索した結果、アカデミックインターンシップでもお世話になっている株式会社エムアイフーズスタイルが展開する高品質スーパーマーケット（クイーンズ伊勢丹・小石川店）で掲示していただけることになりました。ただし、当初のポスターは夏野菜をテーマとしていたので、季節に合わせ冬野菜をテーマに作り直しました。

毎週木曜日の青果の日には、店頭へのポスター展示に加え、ポスターで取り上げた野菜の入荷を増やし、学生が考えた野菜の時短レシピ集を売り場に設置していただきました。

コロナ禍にあっても地域の方に向けた食育活動を継続できたことは、今後のゼミ活動の励みになります。



## 令和2年度 文京区福祉関連事業

### (1) いきいきシニアの集い

主催：文京区高齢福祉課

日時：2020年11月21日(土)、22日(日)

場所：文京シビックホール

概要：高齢者の生きがいの向上や地域・他世代との交流を図ることを目的としたイベント。本学からは、人文学科横田先生推薦の学生4名による書道作品を出品する。なお、例年は本学学生ボランティアが運営をサポートしているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティアの参加は中止となった。

書道作品出展学生：

文学部人文学科2年 松田 亜美

文学部人文学科3年 加藤 佑夏

文学部現代文化表現学科3年 田中 李沙

文学部人文学科4年 横川 祥子

## 令和2年度 その他の地域交流・企業連携事業

### (1) コミュニティデザイン学科篠崎ゼミ 六島小中学校と連携し、島外部員として応援。

住民による地域の情報発信に取り組む岡山県笠岡市の六島は、コロナ禍、六島まちづくり協議会において全島民YouTuber化計画を策定しました。

今年9月には同計画の中間報告会が開催され、コミュニティデザイン学科篠崎ゼミの学生も参加。報告会のなかで、島の子どもたちもYouTubeを活用し自ら動画づくりに取り組むことが決定し、六島の全校生徒である小学生3名と中学生3名がYouTuberクラブ「イエローやろう!」を結成しました。コミュニティデザイン学科篠崎ゼミの学生も島外部員として応援することになり、YouTubeを活用した活動に加わるようになりました。

11月7日には、地域住民が整備管理する、通称「島小屋」に子どもたちが自由に使えるパソコンが設置され、子どもたちの練習も兼ねて、篠崎ゼミ学生等とオンラインによる交流会を開催。お互いの自己紹介



をはじめ、情報交換を実施しました。次回は紹介動画を作成し、披露することになっています。

本活動は、地域情報の発信に取り組む地域コミュニティと、地域課題の解決方を研究するコミュニティデザイン学科篠崎ゼミ学生との交流・実践の場となっており、貴重な経験となっています。



オンラインによる交流会の様子

## (2) コロナ禍でも『大学生観光まちづくりコンテスト2020』に観光コミュニティ学部村上ゼミが9年連続本選出場。

『大学生観光まちづくりコンテスト2020』はコロナ禍により例年夏休みから動き出すところ約3ヵ月遅れでの開催となりましたが、観光コミュニティ学部観光デザイン学科村上ゼミ2・3年生は、今年もチームを編成し全員で挑戦しました。

大学生観光まちづくりコンテストとは、全国の大学生を対象に現地でのフィールドワークを通じて、新しい観光まちづくりのアイデアを創造し、大学で学んでいる知識やスキルを実際に活用して、地域が活性化するような観光まちづくりプランを提案するものです。昨年は茨城、北陸、長崎、訪日インバウンド、関東RiverCycRingの5つのステージでの開催でしたが、今年は『持続可能な観光まちづくりステージ（課題テーマ：来訪や交流を促進するニューノーマル時代を見据えた観光まちづくり）』の1ステージでの開催となりました。全国から236チームがエントリーした今年のコンテストは11月中旬に本選出場チームが発表され、村上ゼミからは2年生チーム（対象地域：東京都檜原村）、3年生チーム（対象地域：岐阜県大垣市）の2チームが書類審査の予選を突破し本選に出場することが決まりました。非常に難しい課題テーマでしたが、本選出場20チームのうち単独ゼミから2チームが本選に進出したのは村上ゼミだけです。

昨年も全ステージで本選出場を果たして優秀賞などの各賞を受賞しましたが、今回で村上ゼミは9年連続の本選出場を記録しました。今年はコロナ禍の中でしたが9月ごろから夏休み返上で何度も現地にフィールドワークに入り、オンラインでのゼミ内発表会や、4年生や卒業した先輩などのアドバイスも受けながら、全力で



東京都檜原村でのフィールドワークの様子



岐阜県大垣市でのフィールドワークの様子



プランを作成しました。その結果、ゼミ生の努力が報われ、一つの目標だった本選出場を果たし大きな達成感を得ることができました。残念ながら12月6日にさいたま市で開催される予定だった本選は、昨今のコロナ感染拡大の影響により中止になってしまいましたが、この経験を今後のゼミ活動や就職活動に活かして、来年の大学生観光まちづくりコンテストでは、さらに良い結果を残せるよう村上ゼミ全体で努力を継続したいと思います。

# 跡見学園女子大学地域交流センター年次報告書 『ゆかり』に関する規程

**第一条** この規程は、跡見学園女子大学学則第一条の二第3項に基づき、地域交流センター年次報告書『ゆかり』（以下『ゆかり』という。）の発行と編集に関する必要な事項を定める。

**第二条** 『ゆかり』は、原則として毎年一回発行する。ただし、必要な場合には、臨時号や合併号を発行することができる。

**第三条** 『ゆかり』に成果を発表することができるのは、原則として跡見学園女子大学（以下「本学」という。）の専任教員とする。ただし、以下の者は、地域交流センター長（以下「センター長」という。）が認める場合には、成果を発表することができる。

- 一 本学兼任講師
- 二 本学事務職員（学芸員・司書等）
- 三 本学に在籍する学生
- 四 本学の地域交流活動に関与する者
- 五 地域交流センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の議を経て、センター長が許可する者

**第四条** 『ゆかり』の編集及び発行については、地域交流センター（以下「センター」という。）がこれを行う。

**第五条** 投稿を希望する者は、センターが指定する期日までに「投稿申込書」に必要な事項を記入の上、届け出るものとする。また、原稿は、センターの指定した期日までに提出することとする。

**第六条** 原稿を依頼する者に対し、センターは「原稿依頼」を送付する。

**第七条** 投稿原稿は、センター運営委員会において審査を行い、採否を決定する。ただし、必要に応じて、投稿原稿の内容に関わる専門家に意見を徴することがある。

**第八条** 採用原稿が多数にのぼり、全編の掲載が困難な場合には、センター運営委員会が協議し対処する。

**第九条** 掲載原稿の著作権は執筆者に属し、センターは編集著作権を持つものとする。掲載原稿の複製権及び公衆送信権を含む著作権は、大学が参加するインターネット上の論文公開システムの中で無償公開されることを前提としたうえで、原則として執筆者に帰属する。それぞれの執筆者が学術的寄与のために複製または転用等を行う場合は、これを妨げないものとし、また、センターに許諾を求めることを要しないものとする。ただし、転用等を行う場合は、その内容が『ゆかり』に掲載済である旨を明記しなければならない。

**第十条** この規程を実施するに当たり、必要な細則を定めることができる。

**第十一条** この規程の改廃は、センター運営委員会の議を経て、センター長がこれを行う。

**附 則** 本規程は、令和3年4月1日より施行する。



## ゆかり 跡見学園女子大学地域交流センター年次報告書 2

発行日：2021年3月31日

発行者：跡見学園女子大学地域交流センター

〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目5-2

電話：03-3941-7420

印刷：セントラル印刷(株)

ISSN：2435-516X